
ADVANTEST®

株式会社アドバンテスト

R4870 OPT01

GPIB-Master

取扱説明書

MANUAL NUMBER FOJ-8440104C00

本器を安全に取り扱うための注意事項

本器の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、必ずご使用前に取扱説明書をお読み下さい。また、本器の誤った使用、不適切な使用等に起因する運用結果につきましては、当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。

本器の操作・保守等の作業を行う場合、誤った方法で使用すると本器の保護機能がそこなわれることがあります。常に安全に心がけてご使用頂くようお願い致します。

■危険警告ラベル

アドバンテストの製品には、特有の危険が存在する場所に危険警告ラベルが貼られています。取り扱いには十分注意して下さい。また、これらのラベルを破いたり、傷つけたりしないで下さい。また、日本国内で製品を購入し海外で使用する場合は、必要に応じて英語版の危険警告ラベルをお貼り下さい。危険警告ラベルについてのお問い合わせは、当社の最寄りの営業所までお願いします。所在地および電話番号は巻末に記載してあります。

危険警告ラベルのシグナル・ワードとその定義は、以下のとおりです。

- 危険： 死または重度の障害が差し迫っている。
- 警告： 死または重度の障害が起こる可能性がある。
- 注意： 軽度の人身障害あるいは物損が起こる可能性がある。

■基本的注意事項

火災、火傷、感電、怪我などの防止のため、以下の注意事項をお守り下さい。

- 電源電圧に応じた電源ケーブルを使用して下さい。ただし、海外で使用する場合は、それぞれの国の安全規格に適合した電源ケーブルを使用して下さい。また、電源ケーブルの上には重いものをのせないで下さい。
- 電源プラグをコンセントに差し込むときは、電源スイッチを OFF にしてから奥までしっかり差し込んで下さい。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源スイッチを OFF にしてから、電源ケーブルを引っぱらずにプラグを持って抜いて下さい。このとき、濡れた手で抜かないで下さい。
- 電源投入前に、本器の電源電圧が供給電源電圧と一致していることを確認して下さい。
- 電源ケーブルは、保護導体端子を備えた電源コンセントに接続して下さい。保護導体端子を備えていない延長コードを使用すると、保護接地が無効になります。
- 3ピン-2ピン変換アダプタ（弊社の製品には添付していません）を使用する場合は、アダプタから出ている接地ピンをコンセントのアース端子に接続し、大地接地して下さい。また、アダプタの接地ピンの短絡に注意して下さい。
- 電源電圧に適合した規格のヒューズを使用して下さい。
- ケースを開けたままで本器を使用しないで下さい。

本器を安全に取り扱うための注意事項

- 規定の周囲環境で本器を使用して下さい。
- 製品の上に物をのせたり、製品の上から力を加えたりしないで下さい。また、花瓶や薬品などの液体の入った容器を製品のそばに置かないで下さい。
- 通気孔のある製品については、通気孔に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしないで下さい。
- 台車に載せて使用する場合は、ベルト等によって落下防止を行って下さい。
- 周辺機器を接続する場合は、本器の電源を切ってから接続して下さい。





■取扱説明書中の注意表記

取扱説明書中で使用している注意事項に関するシグナル・ワードとその定義は以下のとおりです。

- 危険： 重度の人身障害（死亡や重傷）の恐れがある注意事項
警告： 人身の安全／健康に関する注意事項
注意： 製品／設備の損傷に関する注意事項または使用上の制限事項

■製品上の安全マーク

アドバンテストの製品には、以下の安全マークが付いています。

- ： 取扱い注意を示しています。人体および製品を保護するため、取扱説明書を参照する必要がある場所に付いています。
- ： アース記号を示しています。感電防止のため機器を使用する前に、接地が必要なフィールド・ワイヤリング端子を示しています。
- ： 高電圧危険を示しています。1000V 以上の電圧が人力または出力される場所に付いています。
- ： 感電注意を示しています。

■寿命部品の交換について

計測器に使用されている主な寿命部品は以下のとおりです。
製品の性能、機能を維持するために、寿命を目安に早めに交換して下さい。
ただし、製品の使用環境、使用頻度および保存環境により記載の寿命より交換時期が早くなる場合がありますので、ご了承下さい。
なお、ユーザによる交換はできません。交換が必要な場合は、当社または代理店へご連絡下さい。

製品ごとに個別の寿命部品を使用している場合があります。
本書、寿命部品に関する記載項を参照して下さい。

主な寿命部品と寿命

部品名称	寿命
ユニット電源	5年
ファン・モータ	5年
電解コンデンサ	5年
液晶ディスプレイ	6年
液晶ディスプレイ用バックライト	2.5年
フロッピー・ディスク・ドライブ	5年
メモリ・バックアップ用電池	5年

■ハード・ディスク搭載製品について

使用上の留意事項を以下に示します。

- 本器は、電源が入った状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えないで下さい。
ハード・ディスクの内部は、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っているため、非常にデリケートです。
- 本器は、以下の条件に合う場所で使用および保管をして下さい。
 極端な温度変化のない場所
 衝撃や振動のない場所
 湿気や埃・粉塵の少ない場所
 磁石や強い磁界の発生する装置から離れた場所
- 重要なデータは、必ずバックアップを取っておいて下さい。
 取扱方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。また、使用条件によりますが、ハード・ディスクには、その構造上、寿命があります。
 なお、消失したデータ等の保証は、いたしかねますのでご了承下さい。

■本器の廃棄時の注意

製品を廃棄する場合、有害物質は、その国の法律に従って適正に処理して下さい。

- 有害物質： (1) PCB (ポリ塩化ビフェニール)
 (2) 水銀
 (3) Ni-Cd (ニッケル - カドミウム)
 (4) その他

シアン、有機リン、六価クロムを有する物およびカドミウム、鉛、砒素を溶出する恐れのある物（半田付けの鉛は除く）

例： 蛍光管、バッテリー

■使用環境

本器は、以下の条件に合う場所に設置して下さい。

- 腐食性ガスの発生しない場所
- 直射日光の当たらない場所
- 埃の少ない場所
- 振動のない場所
- 最大高度 2000 m

本器を安全に取り扱うための注意事項

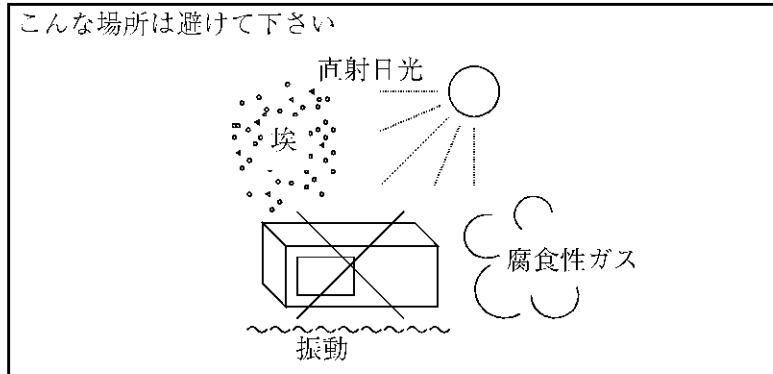


図-1 使用環境

●設置姿勢

本器は、必ず水平状態で使用して下さい。
本器は内部温度上昇をおさえるため、強制空冷用のファンを搭載しております。
ファンの吐き出し口、通気孔をふさがらないで下さい。

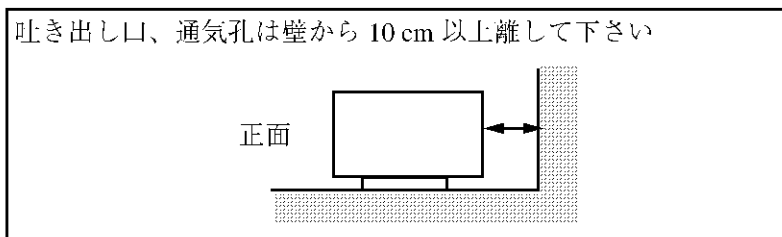


図-2 設置

●保管姿勢

本器は、なるべく水平状態で保管して下さい。
本器を立てた状態で保管する場合、または運搬時、一時的に立てた状態で置く場合、
転倒しないよう注意して下さい。衝撃・振動により転倒する恐れがあります。

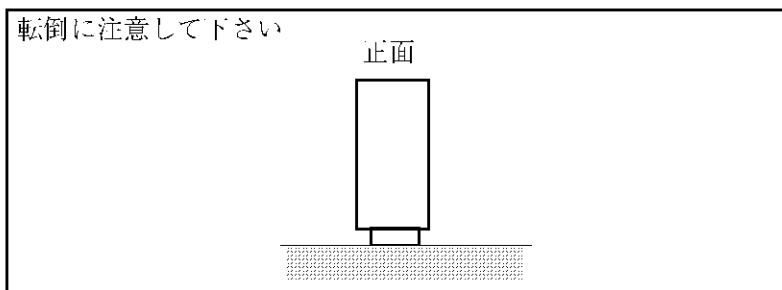
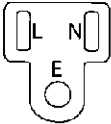
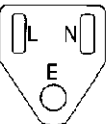
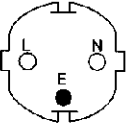

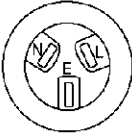
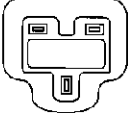
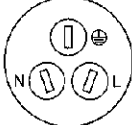


図-3 保管

- IEC61010-1 で定義される、主電源に典型的に存在する過渡過電圧および汚染度の分類は、以下のとおりです。
IEC60364-4-443 の耐インパルス（過電圧）カテゴリ II
汚染度 2

■電源ケーブルの種類

「電源ケーブルの種類」の記述が本文中にある場合には、以下の表に置き替えてお読み下さい。

プラグ	適用規格	定格・色・長さ	型名 (オプション No.)
	PSE: 日本 電気用品安全法	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01402 アングル・タイプ A01412
	UL: アメリカ CSA: カナダ	125V/7A 黒、2m	ストレート・タイプ A01403 (オプション 95) アングル・タイプ A01413
	CEE: ヨーロッパ DEMKO: デンマーク NEMKO: ノルウェー VDE: ドイツ KEMA: オランダ CEBEC: ベルギー OVE: オーストリア FIMKO: フィンランド SEMKO: スウェーデン	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01404 (オプション 96) アングル・タイプ A01414
	SEV: スイス	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01405 (オプション 97) アングル・タイプ A01415
	SAA: オーストラリア ニュージーランド	250V/6A 灰、2m	ストレート・タイプ A01406 (オプション 98) アングル・タイプ ---
	BS: イギリス	250V/6A 黒、2m	ストレート・タイプ A01407 (オプション 99) アングル・タイプ A01417
	CCC: 中国	250V/10A 黒、2m	ストレート・タイプ A114009 (オプション 94) アングル・タイプ A114109

R4870 の注意事項

1. テスト結果取り扱い

- テスト結果はディスプレイに表示されます。
- テスト結果とは、テスト・データと「PASS」または「FAIL」の判定です。
ただし、テスト後（判定が表示されている画面）に「テストに関するパラメータ」を変更すると、その変更した情報はテスト・データのみには反映されず、テスト・データと判定は合致しません。
したがって、その時点でのテスト結果（テスト・データおよび判定）は無効となります。
- テスト・データは、「7. 性能諸元」に記載された測定確度による誤差を含んでいます。
また、認証機関の測定器と異なるため誤差が発生する場合がありますので、ご注意下さい。

2. 本器を安定してお使い頂くために

本器は Microsoft 社製 Windows NT Embedded を搭載しています。

Windows アプリケーションによってテスト機能を実現していますので、本書で記述した以外の目的や方法により、Windows 環境の変更は行わないで下さい。

また、本器は情報処理装置ではありません。本書で記述した以外の操作は行わないで下さい。

1. 変更および削除を禁止する項目

- アプリケーション・プログラムのインストールを行うこと
- コントロール・パネル内に変更および削除を行うこと（ただし、R4870 取扱説明書の「A.4 ネットワークの設定」は除く）
- C ドライブの既存ファイルの起動およびファイル操作を行うこと
- テスト中に、他のアプリケーションの起動およびファイル操作を行うこと
- Windows オペレーティング・システムのアップ・デートを行うこと
- お客様がアプリケーションをインストールした結果、本器が正常に動作しなくなった場合、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお勧めします。

リカバリ方法は R4870 取扱説明書の「A.3 R4870 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。

2. コンピュータ・ウイルス対策について

使用方法や環境によって、コンピュータ・ウイルスに感染する可能性があります。

安心してご使用頂くために、以下のウイルス対策をお勧めします。

- 本器に読み込むファイルや使用するメディアは、事前にウイルスチェックを行う。
- ネットワークに接続する場合は、ウイルスに対し安全対策が施されたネットワークに接続する。
- ウィルスに感染した場合の対策

D ドライブのすべてのファイルを削除した後に、本器に付属しているリカバリ・ディスクをインストールして、システムの再構築をお勧めします。

リカバリ方法は R4870 取扱説明書の「A.3 R4870 システム・リカバリ手順」を参照して下さい。

3. アプリケーション・ソフトについて

本器でアプリケーション・ソフトを実行する場合、Windows 環境によって動作が異なる場合があります。

本器では Windows NT Embedded (英語) を採用していますので、アプリケーション・ソフトの作成は同様な英語環境で実施して下さい。

4. 本器は、背面の冷却用ファンが何らかの要因で停止した場合にブザーが鳴り続けます。ブザーが鳴りましたら、ただちにファン動作の阻害要因の有無を確認し、あればそれを取り除いてブザーが鳴り止むことを確認して下さい。それでもファン動作が回復しない場合は、速やかに通常の終了方法で電源を OFF にして、当社または代理店に連絡して下さい。
5. トリガ出力について
トリガ設定機能はありません。測定項目の状況によりタイミングが異なります。

3. Windows NT の使用条件

END-USER LICENSE AGREEMENT FOR MICROSOFT SOFTWARE

- **IMPORTANT-READ CAREFULLY:**
 - ❖ You have acquired a device ("INSTRUMENT") that includes software licensed by [ADVANTEST] from Microsoft Licensing Inc. or its affiliates ("MS"). Those installed software products of MS origin, as well as associated media, printed materials, and "online" or electronic documentation ("SOFTWARE") are protected by international intellectual property laws and treaties. The SOFTWARE is licensed, not sold. All rights reserved.
- **IF YOU DO NOT AGREE TO THIS END USER LICENSE AGREEMENT ("EULA"), DO NOT USE THE INSTRUMENT OR COPY THE SOFTWARE. INSTEAD, PROMPTLY CONTACT [ADVANTEST] FOR INSTRUCTIONS ON RETURN OF THE UNUSED "INSTRUMENT (S)" FOR A REFUND. ANY USE OF THE SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO USE ON THE INSTRUMENT, WILL CONSTITUTE YOUR AGREEMENT TO THIS EULA (OR RATIFICATION OF ANY PREVIOUS CONSENT).**
- **GRANT OF SOFTWARE LICENSE.** This EULA grants you the following license:
 - You may use the SOFTWARE only on the INSTRUMENT.
 - **NOT FAULT TOLERANT.** THE SOFTWARE IS NOT FAULT TOLERANT. [ADVANTEST] HAS INDEPENDENTLY DETERMINED HOW TO USE THE SOFTWARE IN THE INSTRUMENT, AND "MS" HAS RELIED UPON [ADVANTEST] TO CONDUCT SUFFICIENT TESTING TO DETERMINE THAT THE SOFTWARE IS SUITABLE FOR SUCH USE.
 - **NO WARRANTIES FOR THE SOFTWARE. THE SOFTWARE is provided "AS IS" and with all faults. THE ENTIRE RISK AS TO SATISFACTORY QUALITY, PERFORMANCE, ACCURACY, AND EFFORT (INCLUDING LACK OF NEGLIGENCE) IS WITH YOU. ALSO, THERE IS NO WARRANTY AGAINST INTERFERENCE WITH YOUR ENJOYMENT OF THE SOFTWARE OR AGAINST INFRINGEMENT. IF YOU HAVE RECEIVED ANY WARRANTIES REGARDING THE INSTRUMENT OR THE SOFTWARE, THOSE WARRANTIES DO NOT ORIGINATE FROM, AND ARE NOT BINDING ON, "MS".**
 - **Note on Java Support.** The SOFTWARE may contain support for programs written in Java. Java technology is not fault tolerant and is not designed, manufactured, or intended for use or resale as online control equipment in hazardous environments requiring fail-safe performance, such as in the operation of nuclear facilities, aircraft navigation or communication systems, air traffic control, direct life support machines, or weapons systems, in which the failure of Java technology could lead directly to death, personal injury, or severe physical or environmental damage. Sun Microsystems, Inc. has contractually obligated MS to make this disclaimer.
 - **No Liability for Certain Damages. EXCEPT AS PROHIBITED BY LAW, MS SHALL HAVE NO LIABILITY FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES ARISING FROM OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE SOFTWARE. THIS LIMITATION SHALL APPLY EVEN IF ANY REMEDY FAILS OF ITS ESSENTIAL PURPOSE. IN NO EVENT SHALL MS BE LIABLE FOR ANY AMOUNT IN EXCESS OF U.S. TWO HUNDRED FIFTY DOLLARS (U.S.\$250.00).**
 - **Limitations on Reverse Engineering, Decompilation, and Disassembly.** You may not reverse engineer, decompile, or disassemble the SOFTWARE, except and only to the extent that such activity is expressly permitted by applicable law notwithstanding this limitation.
 - **SOFTWARE TRANSFER ALLOWED BUT WITH RESTRICTIONS.** You may permanently transfer rights under this EULA only as part of a permanent sale or transfer of the INSTRUMENT, and only if the recipient agrees to this EULA. If the SOFTWARE is an upgrade, any transfer must also include all prior versions of the SOFTWARE.
 - **EXPORT RESTRICTIONS.** You acknowledge that SOFTWARE is of US-origin. You agree to comply with all applicable international and national laws that apply to the SOFTWARE, including the U.S. Export Administration Regulations, as well as end-user, end-use and country destination restrictions issued by U.S. and other governments. For additional information on exporting the SOFTWARE, see <http://www.microsoft.com/exporting/>.
 - If you use the INSTRUMENT to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows NT Server 4.0 (all editions) or Microsoft Windows 2000 Server (all editions), or use the INSTRUMENT to permit workstation or computing devices to access or utilize the services or functionality of Microsoft Windows NT Server 4.0 or Microsoft Windows 2000 Server, you may be required to obtain a Client Access License for the INSTRUMENT and/or each such workstation or computing device. Please refer to the end user license agreement for Microsoft Windows NT Server 4.0 or Microsoft Windows 2000 Server for additional information.

緒言

R4870 OPT01 GPIB-Master（本器）の取扱説明書は、以下の2冊で構成されています。

R4870 OPT01 GPIB-Master 取扱説明書

本器をシステムとして使用する場合の操作方法や機能を説明しています。単体で使用できる操作方法や機能は、省略、または簡略してあります。本器を安全に使用するため、使用開始の前に必ずお読み下さい。（本書）

R4870 無線機テスタ 取扱説明書

本器を単体で使用する場合の操作方法や機能を説明しています。システムとしてサポートしている機能についての説明は記載していません。本器を安全に使用するため、使用目的に応じてお読み下さい。（別冊）

1. 本書の章構成は、以下のとおりです。

本器を安全に取り扱うための注意事項	本器を安全に使用するため、使用開始の前に必ずお読み下さい。
R4870 の注意事項	
1. はじめに	本器の付属品や使用環境を説明します。 また、本器が正常に動作するかをチェックする方法を説明します。
2. 操作	基本操作とテスト例で本器の使い方を習得することができます。
3. 各機能の使い方	本器の操作キーの一覧を示し、その機能を説明します。
4. テスト方法	本器でテストしている項目の設定状態とテスト結果項目を説明します。
5. キャリブレーション方法	本器のテストにおける誤差を少なくするために 行うキャリブレーションの方法を説明します。
6. リモート制御	本器を外部 PC によって制御する場合の 関数について説明します。
7. 性能諸元	本器の仕様を示します。
付録 A.1 困ったときに	困ったときにお読み下さい。
A.2 エラー・メッセージ	本器の操作中にエラーが発生すると、 画面上にエラー番号とエラー・メッセージが 表示されます。 この内容を説明します。
本製品に含まれるソフトウェアのご使用について	本器を使用開始の前に必ずお読み下さい。
保証について	

2. 本書内での表記ルール

- 本書ではパネル・キーとソフト・キーを以下のように表記してあります。ソフト・キーには、メイン・メニュー、ドロップダウン・メニュー、サイド・メニュー、タブが含まれます。

パネル・キーの表記 例：**A1** **POWER**

ソフト・キーの表記 例：**SIG RF** **Mode**

- 操作手順で、キーを連続操作する場合、キーとキーの間は → で区切っています。

3. 商標について

- Bluetooth™ は Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標です。
- Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- VisualBasic6.0 は Microsoft 社の登録商標です。
- VisualC++6.0 は Microsoft 社の登録商標です。

目次

1.	はじめに	1-1
1.1	システム概要	1-1
1.2	付属品	1-2
1.3	接続および動作試験	1-3
1.3.1	システム機器相互接続	1-3
1.3.2	機器間の相互接続リスト	1-4
1.3.2.1	2303 電源出力ケーブル接続	1-4
1.3.3	接続ケーブルの種類	1-5
1.3.4	電源投入手順	1-5
1.4	ウォームアップについて	1-7
1.5	校正について	1-7
1.6	接続機器のオプションについて	1-8
2.	操作	2-1
2.1	基本操作	2-1
2.1.1	電源の投入	2-1
2.2	規格準拠テスト項目と設定	2-3
2.2.1	RF テスト項目	2-3
2.2.2	テスト設定項目	2-4
2.2.2.1	SIG テスト設定	2-4
2.2.2.2	Telec テスト設定	2-5
2.2.3	Pass/Fail Limit の設定	2-7
2.2.3.1	SIG RF での設定	2-7
2.2.3.2	TELEC RF での設定	2-8
2.3	測定前の設定手順	2-9
2.3.1	IUT 接続	2-9
2.3.2	電源投入の手順	2-9
2.3.3	周辺機器の認識について	2-9
2.3.4	測定に関する設定	2-10
2.3.4.1	SIG Item Select	2-11
2.3.4.2	PASS/FAIL Limit	2-12
2.3.4.3	Test Parameter	2-13
2.3.4.3.1	Output Power (Power Control) : Power Range	2-13
2.3.4.3.2	Power Density : Sweep Time	2-14
2.3.4.3.3	Power Control : Minimum Power	2-15
2.3.4.3.4	Frequency Range : Power Level	2-16
2.3.4.3.5	20 dB Bandwidth : Bandwidth Level	2-17
2.3.4.3.6	ACP : Number of Adjacent Channel	2-17
2.3.4.3.7	Modulation Characteristics : Sample Packet	2-18
2.3.4.3.8	Frequency Tolerance : Sample Packet,etc.../ Frequency Drift : Sample Packet,etc...	2-18
2.3.4.3.9	Spurious Emissions (ETS)/(FCC) : Test Frequency	2-18
2.3.4.3.10	Receiver Test : (BER,PER)	2-19
2.3.4.3.11	Sensitivity - single/multi : Dirty ON/OFF, TX Level	2-19
2.3.4.3.12	C/I Performance : Image Frequency	2-20
2.3.4.3.13	Blocking performance : Signal Level	2-21
2.3.4.3.14	Intermodulation Performance : Signal Level	2-22
2.3.4.3.15	Maximum Input Level : Tx Level	2-22

目次

2.3.4.4	LMP_test_control 設定	2-22
2.3.4.5	System Setup	2-23
2.3.4.5.1	DC Power Source	2-23
2.3.4.5.2	RS-232 (HCI) 設定	2-26
2.3.4.5.3	IUT Information 設定	2-26
2.3.4.5.4	System Configuration 設定	2-27
2.3.4.5.5	Comment Edit 設定	2-27
2.4	測定の実行方法	2-28
2.4.1	SIG RF テスト	2-28
2.4.2	TELEC テスト	2-31
2.4.2.1	測定準備	2-31
2.5	動作不良の確認方法	2-38
2.5.1	測定パラメータ設定	2-38
2.5.2	接続ケーブルの断線または接触不良	2-38
2.5.3	測定機器の不良	2-38
3.	各機能の使い方	3-1
3.1	メニュー・インデックス	3-1
3.2	メニュー・マップ	3-5
3.2.1	メイン・メニューとドロップダウン・メニュー	3-5
3.2.2	サイド・メニュー	3-6
3.2.3	タブ・メニュー	3-14
3.2.3.1	SIG RF	3-14
3.2.3.2	RF Measurement	3-20
3.2.3.3	TELEC	3-21
3.3	機能説明	3-23
3.3.1	メイン・メニューの説明	3-23
3.3.2	サイド・メニューの説明	3-24
3.4	Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲	3-34
3.5	SIG RF Test の Pass/Fail 判定について	3-36
4.	テスト方法	4-1
4.1	SIG RF	4-2
4.1.1	Output Power	4-2
4.1.2	Power Density	4-3
4.1.3	Power Control	4-3
4.1.4	TX Output Spectrum - Frequency Range	4-4
4.1.5	TX Output Spectrum - 20dB Bandwidth	4-4
4.1.6	TX Output Spectrum - Adjacent Channel Power	4-5
4.1.7	Modulation Characteristics	4-5
4.1.8	Initial Carrier Frequency Tolerance	4-5
4.1.9	Carrier Frequency Drift	4-5
4.1.10	Out -of -Band Spurious Emissions	4-6
4.1.11	Sensitivity (single slot packets)	4-6
4.1.12	Sensitivity (multi-slot packets)	4-6
4.1.13	C/I performance	4-7
4.1.14	Blocking performance	4-8
4.1.15	Intermodulation performance	4-9
4.1.16	Maximum Input Level	4-10
4.2	Telec Test	4-11

4.2.1	Frequency Tolerance	4-11
4.2.2	Occupied Frequency Bandwidth / Spread Bandwidth	4-11
4.2.3	Tolerance of Antenna Power	4-12
4.2.4	Spurious Emission Strength	4-12
4.2.5	Staying Time	4-13
4.2.6	Secondarily Emitted Radio Wave Strength	4-13
5.	キャリブレーション方法	5-1
5.1	キャリブレーション設定手順	5-1
5.2	Power Splitter キャリブレーション	5-3
5.3	Monitor2 Port キャリブレーション	5-5
5.4	Monitor1 Port キャリブレーション	5-6
5.5	CH1-Input キャリブレーション	5-7
5.6	CH1-Output キャリブレーション	5-8
5.7	Interfere1 Port キャリブレーション	5-9
5.8	Interfere2 Port キャリブレーション	5-10
5.9	キャリブレーションを連続して行う方法	5-11
6.	リモート制御	6-1
6.1	関数仕様	6-1
6.1.1	CONFigure サブシステム - SIG RF	6-8
6.1.1.1	WmtConfSigPowDens	6-8
6.1.1.2	QryConfSigPowDens	6-8
6.1.1.3	WmtConfSigPowCont	6-8
6.1.1.4	QryConfSigPowCont	6-9
6.1.1.5	WmtConfSigFreqRang	6-9
6.1.1.6	QryConfSigFreqRang	6-9
6.1.1.7	WmtConfSig20dBBwid	6-10
6.1.1.8	QryConfSig20dBBwid	6-10
6.1.1.9	WmtConfSigACP	6-11
6.1.1.10	QryConfSigACP	6-11
6.1.1.11	WmtConfSigSpurEmis	6-12
6.1.1.12	QryConfSigSpurEmis	6-12
6.1.1.13	WmtConfSigCIPerf	6-13
6.1.1.14	QryConfSigCIPerf	6-13
6.1.1.15	WmtConfSigBlocPerf	6-13
6.1.1.16	QryConfSigBlocPerf	6-14
6.1.1.17	WmtConfSigIModPerf	6-14
6.1.1.18	QryConfSigIModPerf	6-14
6.1.1.19	WmtConfSigOutpPowTestType	6-15
6.1.1.20	QryConfSigOutpPowTestType	6-15
6.1.1.21	WmtConfSigPowDensTestType	6-15
6.1.1.22	QryConfSigPowDensTestType	6-16
6.1.1.23	WmtConfSigPowContTestType	6-16
6.1.1.24	QryConfSigPowContTestType	6-16
6.1.1.25	WmtConfSigFreqRangTestType	6-17
6.1.1.26	QryConfSigFreqRangTestType	6-17
6.1.1.27	WmtConfSig20dBBwidTestType	6-17
6.1.1.28	QryConfSig20dBBwidTestType	6-18
6.1.1.29	WmtConfSigACPTestType	6-18

目次

6.1.1.30	QryConfSigACPTestType	6-18
6.1.1.31	WmtConfSigSpurEmisTestType	6-19
6.1.1.32	QryConfSigSpurEmisTestType	6-19
6.1.1.33	WmtConfSigCIPerfTestType	6-19
6.1.1.34	QryConfSigCIPerfTestType	6-20
6.1.1.35	WmtConfSigBlocPerfTestType	6-20
6.1.1.36	QryConfSigBlocPerfTestType	6-20
6.1.1.37	WmtConfSigIModPerfTestType	6-21
6.1.1.38	QryConfSigIModPerfTestType	6-21
6.1.1.39	WmtConfSigPowDensUp	6-21
6.1.1.40	QryConfSigPowDensUp	6-22
6.1.1.41	WmtConfSigPowContClas1Lo	6-22
6.1.1.42	QryConfSigPowContClas1Lo	6-22
6.1.1.43	WmtConfSigPowContStepUp	6-23
6.1.1.44	QryConfSigPowContStepUp	6-23
6.1.1.45	WmtConfSigPowContStepLo	6-23
6.1.1.46	QryConfSigPowContStepLo	6-24
6.1.1.47	WmtConfSigFreqRangUp	6-24
6.1.1.48	QryConfSigFreqRangUp	6-24
6.1.1.49	WmtConfSigFreqRangLo	6-25
6.1.1.50	QryConfSigFreqRangLo	6-25
6.1.1.51	WmtConfSigFreqRangFranUp	6-25
6.1.1.52	QryConfSigFreqRangFranUp	6-26
6.1.1.53	WmtConfSigFreqRangFranLo	6-26
6.1.1.54	QryConfSigFreqRangFranLo	6-26
6.1.1.55	WmtConfSig20dBBwidUp	6-27
6.1.1.56	QryConfSig20dBBwidUp	6-27
6.1.1.57	WmtConfSigACPMN2Up	6-27
6.1.1.58	QryConfSigACPMN2Up	6-28
6.1.1.59	WmtConfSigACPMN3Up	6-28
6.1.1.60	QryConfSigACPMN3Up	6-28
6.1.1.61	WmtConfSigSpurEmisEtsUp	6-29
6.1.1.62	QryConfSigSpurEmisEtsUp	6-29
6.1.1.63	WmtConfSigSpurEmisFccUp	6-30
6.1.1.64	QryConfSigSpurEmisFccUp	6-30
6.1.1.65	WmtConfSigSpurEmisSele	6-30
6.1.1.66	QryConfSigSpurEmisSele	6-31
6.1.1.67	WmtConfSigCIPerfBerUp	6-31
6.1.1.68	QryConfSigCIPerfBerUp	6-31
6.1.1.69	WmtConfSigBlocPerfBerUp	6-32
6.1.1.70	QryConfSigBlocPerfBerUp	6-32
6.1.1.71	WmtConfSigIModPerfBerUp	6-32
6.1.1.72	QryConfSigIModPerfBerUp	6-33
6.1.1.73	WmtConfSigOutpPowBursLo	6-33
6.1.1.74	QryConfSigOutpPowBursLo	6-33
6.1.1.75	WmtConfSigOutpPowBursUp	6-34
6.1.1.76	QryConfSigOutpPowBursUp	6-34
6.1.1.77	WmtConfSigOutpPowLeadTrad	6-34
6.1.1.78	QryConfSigOutpPowLeadTrad	6-35
6.1.1.79	WmtConfSigOutpPowAvgCnt	6-35
6.1.1.80	QryConfSigOutpPowAvgCnt	6-35

6.1.1.81	WmtConfSigPowDensStdPkPowSweeTime	6-36
6.1.1.82	QryConfSigPowDensStdPkPowSweeTime	6-36
6.1.1.83	WmtConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime	6-36
6.1.1.84	QryConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime	6-37
6.1.1.85	WmtConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime	6-37
6.1.1.86	QryConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime	6-37
6.1.1.87	WmtConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime	6-38
6.1.1.88	QryConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime	6-38
6.1.1.89	WmtConfSigPowContStepNum	6-38
6.1.1.90	QryConfSigPowContStepNum	6-39
6.1.1.91	WmtConfSigPowContStdMinPowUp	6-39
6.1.1.92	QryConfSigPowContStdMinPowUp	6-39
6.1.1.93	WmtConfSigPowContHspdMinPowUp	6-40
6.1.1.94	QryConfSigPowContHspdMinPowUp	6-40
6.1.1.95	WmtConfSigPowContWaitTout	6-40
6.1.1.96	QryConfSigPowContWaitTout	6-41
6.1.1.97	WmtConfSigPowContJudgStepNum	6-41
6.1.1.98	QryConfSigPowContJudgStepNum	6-41
6.1.1.99	WmtConfSigPowContJudgMinPow	6-42
6.1.1.100	QryConfSigPowContJudgMinPow	6-42
6.1.1.101	WmtConfSigFreqRangLev	6-42
6.1.1.102	QryConfSigFreqRangLev	6-43
6.1.1.103	WmtConfSigFreqRangSweeCnt	6-43
6.1.1.104	QryConfSigFreqRangSweeCnt	6-43
6.1.1.105	WmtConfSig20dBBwidLev	6-44
6.1.1.106	QryConfSig20dBBwidLev	6-44
6.1.1.107	WmtConfSigACPNumAdCh	6-44
6.1.1.108	QryConfSigACPNumAdCh	6-45
6.1.1.109	WmtConfSigSpurEmisEtsHspdFreq	6-45
6.1.1.110	QryConfSigSpurEmisEtsHspdFreq	6-45
6.1.1.111	WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo	6-46
6.1.1.112	QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo	6-46
6.1.1.113	WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp	6-46
6.1.1.114	QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp	6-47
6.1.1.115	WmtConfSigSpurEmisFccHspdFreq	6-47
6.1.1.116	QryConfSigSpurEmisFccHspdFreq	6-47
6.1.1.117	WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqLo	6-48
6.1.1.118	QryConfSigSpurEmisFccStdFreqLo	6-48
6.1.1.119	WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqUp	6-48
6.1.1.120	QryConfSigSpurEmisFccStdFreqUp	6-49
6.1.1.121	WmtConfSigCIPerfImagFreq	6-49
6.1.1.122	QryConfSigCIPerfImagFreq	6-49
6.1.1.123	WmtConfSigCIPerfWantLev	6-50
6.1.1.124	QryConfSigCIPerfWantLev	6-50
6.1.1.125	WmtConfSigCIPerfInteLev	6-51
6.1.1.126	QryConfSigCIPerfInteLev	6-51
6.1.1.127	WmtConfSigCIPerfInteRelaLev	6-52
6.1.1.128	QryConfSigCIPerfInteRelaLev	6-52
6.1.1.129	WmtConfSigBlocPerfWantLev	6-53
6.1.1.130	QryConfSigBlocPerfWantLev	6-53
6.1.1.131	WmtConfSigBlocPerfInteLev	6-54

目次

6.1.1.132	QryConfSigBlocPerfInteLev	6-54
6.1.1.133	WmtConfSigIModPerfWantLev	6-55
6.1.1.134	QryConfSigIModPerfWantLev	6-55
6.1.1.135	WmtConfSigIModPerfF1Lev	6-55
6.1.1.136	QryConfSigIModPerfF1Lev	6-56
6.1.1.137	WmtConfSigIModPerfF2Lev	6-56
6.1.1.138	QryConfSigIModPerfF2Lev	6-56
6.1.1.139	WmtConfSigBlocPerfSmpAlc	6-57
6.1.1.140	QryConfSigBlocPerfSmpAlc	6-57
6.1.1.141	WmtConfSigPowDensTestPack	6-57
6.1.1.142	QryConfSigPowDensTestPack	6-58
6.1.1.143	WmtConfSigPowContTestPack	6-58
6.1.1.144	QryConfSigPowContTestPack	6-58
6.1.1.145	WmtConfSigFreqRangTestPack	6-59
6.1.1.146	QryConfSigFreqRangTestPack	6-59
6.1.1.147	WmtConfSig20dBBwidTestPack	6-59
6.1.1.148	QryConfSig20dBBwidTestPack	6-60
6.1.1.149	WmtConfSigACPTestPack	6-60
6.1.1.150	QryConfSigACPTestPack	6-60
6.1.1.151	WmtConfSigSpurEmisTestPack	6-61
6.1.1.152	QryConfSigSpurEmisTestPack	6-61
6.1.1.153	WmtConfSigCIPerfTestPack	6-61
6.1.1.154	QryConfSigCIPerfTestPack	6-62
6.1.1.155	WmtConfSigBlocPerfTestPack	6-62
6.1.1.156	QryConfSigBlocPerfTestPack	6-62
6.1.1.157	WmtConfSigIModPerfTestPack	6-63
6.1.1.158	QryConfSigIModPerfTestPack	6-63
6.1.2	PROCedure サブシステム - SIG RF	6-64
6.1.2.1	WmtProcSigPowDens	6-64
6.1.2.2	WmtProcSigPowCont	6-64
6.1.2.3	WmtProcSigFreqRang	6-64
6.1.2.4	WmtProcSig20dBBwid	6-65
6.1.2.5	WmtProcSigACP	6-65
6.1.2.6	WmtProcSigSpurEmis	6-66
6.1.2.7	WmtProcSigCIPerf	6-66
6.1.2.8	WmtProcSigBlocPerf	6-66
6.1.2.9	WmtProcSigIModPerf	6-67
6.1.3	FETCh サブシステム - SIG RF	6-68
6.1.3.1	QryFetcSigPowDens	6-68
6.1.3.2	QryFetcSigPowContNumDown	6-68
6.1.3.3	QryFetcSigPowContPavDown	6-69
6.1.3.4	QryFetcSigPowContNumUp	6-69
6.1.3.5	QryFetcSigPowContPavUp	6-70
6.1.3.6	QryFetcSigPowContPavMin	6-70
6.1.3.7	QryFetcSigFreqRangLowFreq	6-71
6.1.3.8	QryFetcSigFreqRangHiFreq	6-71
6.1.3.9	QryFetcSig20dBBwid	6-71
6.1.3.10	QryFetcSigACPMN2Lo	6-72
6.1.3.11	QryFetcSigACPMN2Hi	6-72
6.1.3.12	QryFetcSigACPMN3Lo	6-73
6.1.3.13	QryFetcSigACPMN3Hi	6-73

6.1.3.14	QryFetcSigACPNum	6-74
6.1.3.15	QryFetcSigACPACP	6-74
6.1.3.16	QryFetcSigACPCH	6-75
6.1.3.17	QryFetcSigSpurEmisSele	6-75
6.1.3.18	QryFetcSigSpurEmisFreq	6-76
6.1.3.19	QryFetcSigSpurEmisPow	6-77
6.1.3.20	QryFetcSigSpurEmisFccRefPow	6-77
6.1.3.21	QryFetcSigCIPerfSumErr	6-78
6.1.3.22	QryFetcSigCIPerfCh	6-78
6.1.3.23	QryFetcSigCIPerfBer	6-79
6.1.3.24	QryFetcSigCIPerfPer	6-79
6.1.3.25	QryFetcSigCIPerfSumErrRela	6-80
6.1.3.26	QryFetcSigCIPerfBerRela	6-80
6.1.3.27	QryFetcSigCIPerfPerRela	6-81
6.1.3.28	QryFetcSigBlocPerfSumErr	6-81
6.1.3.29	QryFetcSigBlocPerfFreq	6-82
6.1.3.30	QryFetcSigBlocPerfBer	6-82
6.1.3.31	QryFetcSigBlocPerfPer	6-83
6.1.3.32	QryFetcSigIModPerfN3LoBer	6-83
6.1.3.33	QryFetcSigIModPerfN3HiBer	6-84
6.1.3.34	QryFetcSigIModPerfN3LoPer	6-84
6.1.3.35	QryFetcSigIModPerfN3HiPer	6-85
6.1.3.36	QryFetcSigIModPerfN4LoBer	6-85
6.1.3.37	QryFetcSigIModPerfN4HiBer	6-86
6.1.3.38	QryFetcSigIModPerfN4LoPer	6-86
6.1.3.39	QryFetcSigIModPerfN4HiPer	6-87
6.1.3.40	QryFetcSigIModPerfN5LoBer	6-87
6.1.3.41	QryFetcSigIModPerfN5HiBer	6-88
6.1.3.42	QryFetcSigIModPerfN5LoPer	6-88
6.1.3.43	QryFetcSigIModPerfN5HiPer	6-89
6.1.4	CONFigure サブシステム - Telec	6-90
6.1.4.1	WmtConfTeleFreqTole	6-90
6.1.4.2	QryConfTeleFreqTole	6-90
6.1.4.3	WmtConfTeleOBW	6-91
6.1.4.4	QryConfTeleOBW	6-91
6.1.4.5	WmtConfTeleAntPow	6-91
6.1.4.6	QryConfTeleAntPow	6-92
6.1.4.7	WmtConfTeleSpurEmis	6-92
6.1.4.8	QryConfTeleSpurEmis	6-92
6.1.4.9	WmtConfTeleSecoEmit	6-93
6.1.4.10	QryConfTeleSecoEmit	6-93
6.1.4.11	WmtConfTeleStayTime	6-93
6.1.4.12	QryConfTeleStayTime	6-94
6.1.4.13	WmtConfTeleToleToleUp	6-94
6.1.4.14	QryConfTeleToleToleUp	6-94
6.1.4.15	WmtConfTeleFreqToleSampNum	6-95
6.1.4.16	QryConfTeleFreqToleSampNum	6-95
6.1.4.17	WmtConfTeleOBWBwidUp	6-95
6.1.4.18	QryConfTeleOBWBwidUp	6-96
6.1.4.19	WmtConfTeleOBWSpreBwidLo	6-96
6.1.4.20	QryConfTeleOBWSpreBwidLo	6-96

目次

6.1.4.21	WmtConfTeleAntPowTolUp	6-97
6.1.4.22	QryConfTeleAntPowTolUp	6-97
6.1.4.23	WmtConfTeleAntPowTolLo	6-97
6.1.4.24	QryConfTeleAntPowTolLo	6-98
6.1.4.25	WmtConfTeleAntPowRefPow	6-98
6.1.4.26	QryConfTeleAntPowRefPow	6-98
6.1.4.27	WmtConfTeleAntPowBursRati	6-99
6.1.4.28	QryConfTeleAntPowBursRati	6-99
6.1.4.29	WmtConfTeleSpurEmisLevUp	6-99
6.1.4.30	QryConfTeleSpurEmisLevUp	6-100
6.1.4.31	WmtConfTeleSecoEmitLevLowUp	6-100
6.1.4.32	QryConfTeleSecoEmitLevLowUp	6-100
6.1.4.33	WmtConfTeleSecoEmitLevUppUp	6-101
6.1.4.34	QryConfTeleSecoEmitLevUppUp	6-101
6.1.4.35	WmtConfTeleStayTimeTimeUp	6-101
6.1.4.36	QryConfTeleStayTimeTimeUp	6-102
6.1.5	PROCedure サブシステム - Telec	6-103
6.1.5.1	WmtProcTeleFreqTol	6-103
6.1.5.2	WmtProcTeleOBW	6-103
6.1.5.3	WmtProcTeleAntPowPow	6-103
6.1.5.4	WmtProcTeleAntPow	6-104
6.1.5.5	WmtProcTeleSpurEmis	6-104
6.1.5.6	WmtProcTeleSecoEmit	6-104
6.1.5.7	WmtProcTeleStayTime	6-105
6.1.5.8	WmtProcTeleAll	6-105
6.1.6	FETCh サブシステム - Telec	6-106
6.1.6.1	QryFetcTeleFreqTolTol	6-106
6.1.6.2	QryFetcTeleFreqTolFreq	6-106
6.1.6.3	QryFetcTeleOBWBwid	6-107
6.1.6.4	QryFetcTeleOBWFreqHi	6-107
6.1.6.5	QryFetcTeleOBWFreqLow	6-107
6.1.6.6	QryFetcTeleOBWSpreBwid	6-108
6.1.6.7	QryFetcTeleOBWSpreBwidHopOff	6-108
6.1.6.8	QryFetcTeleAntPowTol	6-108
6.1.6.9	QryFetcTeleAntPowOutpPow	6-109
6.1.6.10	QryFetcTeleAntPowAntPow	6-109
6.1.6.11	QryFetcTeleSpurEmisLev	6-110
6.1.6.12	QryFetcTeleSpurEmisFreq	6-110
6.1.6.13	QryFetcTeleSecoEmitLevLow	6-111
6.1.6.14	QryFetcTeleSecoEmitLevUpp	6-111
6.1.6.15	QryFetcTeleSecoEmitFreqLow	6-111
6.1.6.16	QryFetcTeleSecoEmitFreqUpp	6-112
6.1.6.17	QryFetcTeleStayTimeTime	6-112
6.1.7	SOURce サブシステム - DC Power Source	6-113
6.1.7.1	WmtSourVsimBattType	6-113
6.1.7.2	QrySourVsimBattType	6-113
6.1.7.3	WmtSourVsimBattTypeStd	6-113
6.1.7.4	QrySourVsimBattTypeStd	6-114
6.1.7.5	WmtSourVsimVoltType	6-114
6.1.7.6	QrySourVsimVoltType	6-114
6.1.7.7	WmtSourVsimVoltNomi	6-115

6.1.7.8	QrySourVsimVoltNomi	6-115
6.1.7.9	WmtSourVsimVoltUp	6-116
6.1.7.10	QrySourVsimVoltUp	6-116
6.1.7.11	WmtSourVsimVoltLo	6-116
6.1.7.12	QrySourVsimVoltLo	6-117
6.1.7.13	WmtSourVsimCurrLim	6-117
6.1.7.14	QrySourVsimCurrLim	6-117
6.1.7.15	WmtSourVsimCurrLimType	6-118
6.1.7.16	QrySourVsimCurrLimType	6-118
6.1.7.17	QrySourVsimCurrStat	6-118
6.1.7.18	WmtOutpVsimStatType	6-119
6.1.7.19	QryOutpVsimStatType	6-119
6.1.7.20	WmtOutpVsimStat	6-119
6.1.7.21	QryOutpVsimStat	6-120
7.	性能諸元	7-1
7.1	送信機テスト	7-1
7.2	受信機テスト	7-3
7.3	外部接続可能機器	7-6
7.4	外部機器との接続	7-7
7.5	一般仕様	7-7
	付録	A-1
A.1	困ったときに	A-1
A.2	エラー・メッセージ	A-2
	索引	I-1

目 次

図番号	名 称	ページ
1-1	Test System 接続図	1-3
1-2	2303DC 出力の接続図 (背面)	1-4
1-3	システムでの各機器の電源投入順序	1-6
1-4	電源投入後の R4870 画面表示	1-7
2-1	スタートアップ画面	2-2
2-2	Measure 画面から Setup 画面への移行	2-4
2-3	SIG RF Item Select 画面	2-5
2-4	SIG RF 測定から TELEC 測定への移行方法	2-5
2-5	Telec 試験画面	2-6
2-6	Telec Item Select 画面	2-6
2-7	SIG の Limit 設定 (Output Power)	2-7
2-8	Telec の Limit 設定 (Frequency Tolerance)	2-8
2-9	PRESET メニュー	2-10
2-10	Item 選択画面	2-11
2-11	チャンネル設定	2-11
2-12	PASS/FAIL Limit 設定	2-12
2-13	Output Power (Power Control) 条件設定	2-13
2-14	Power Density 条件設定	2-14
2-15	Power Control 条件設定	2-15
2-16	Frequency Range 条件設定	2-16
2-17	20 dB Bandwidth 条件設定	2-17
2-18	ACP 条件設定	2-17
2-19	Spurious Emissions 測定周波数の設定	2-18
2-20	C/I Performance 条件設定	2-20
2-21	Blocking performance 条件設定	2-21
2-22	Intermodulation Performance 条件設定	2-22
2-23	DC Power Source 設定	2-23
2-24	測定画面上での操作メニューと DC 電源の情報表示	2-25
2-25	DC 電源情報表示 (2303 未検出)	2-25
2-26	DC 電源情報表示 (2303 検出)	2-26
2-27	System Configuration 設定	2-27
2-28	SIG Item Select 画面	2-28
2-29	測定開始画面	2-29
2-30	START/SINGLE キーの位置	2-29
2-31	Output Power 測定 PASS	2-30
2-32	全測定項目 PASS	2-30
2-33	Telec 試験の設定	2-31
2-34	Telec Item Select 画面	2-32
2-35	Frequency Tolerance Limit 設定	2-32
2-36	OBW Limit 設定	2-33
2-37	Antenna Power の設定	2-33
2-38	Spurious Emission Limit 設定	2-34
2-39	Staying Time Limit 設定	2-35
2-40	Spurious Emission (Rx) Limit 設定	2-35
2-41	Setup モードから Measure モードへ切り替え	2-36

図一覧

図番号	名 称	ページ
2-42	Telec 測定画面	2-36
2-43	Telec 全項目試験完了時の画面	2-37
5-1	Calibration 設定への移行	5-1
5-2	Calibration Setup 画面への移行	5-2
5-3	Calibration Setup	5-2
5-4	Power Splitter Calibration	5-3
5-5	接続完了確認のメッセージ	5-4
5-6	Monitor2 Port Calibration	5-5
5-7	Monitor1 Port Calibration	5-6
5-8	CH1-Input Calibration	5-7
5-9	CH1-Output Calibration	5-8
5-10	Interfere1 Port Calibration	5-9
5-11	Interfere2 Port Calibration	5-10
5-12	キャリブレーションを連続して行う手順	5-11

表一覧

表番号	名 称	ページ
1-1	標準付属品一覧	1-2
3-1	Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 CH1	3-34
3-2	Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 CH2	3-35
3-3	Bluetooth SIG RF Test の Pass/Fail 判定	3-36
7-1	Dirty Transmitter slot packets	7-5
A-1	困ったときに	A-1

1. はじめに

この章では、以下の項目について説明します。

- システム概要
- 付属品
- 接続および動作試験
- ウォームアップについて
- 校正について

1.1 システム概要

R4870 OPT01 GPIB-Master は、GPIB コントローラを R4870 に内蔵することにより、妨害信号やスプリアス測定用の周辺機器を制御しながら Bluetooth™ SIG Core に準拠した製品の RF 性能評価・接続試験評価、および TELEC に準拠した RF 性能評価を実現します。

(この R4870 OPT01 取扱説明書では基本操作および Communication 試験の説明は行いませんので、必要な場合は R4870 取扱説明書を参照して下さい。)

- RF (SIG 準拠) の主要項目

送信機評価

Output Power
Power Density
Power Control
TX Output Spectrum- Frequency Range
TX Output Spectrum- 20dB Bandwidth
TX Output Spectrum- Adjacent Channel Power
Modulation Characteristics
Initial Carrier Frequency Tolerance
Carrier Frequency Drift
Out-of-Band Spurious Emissions

受信機評価

Sensitivity- Single Slot Packets
Sensitivity- Multi Slot Packets
C/I performance
Blocking performance
Intermodulation performance
Maximum Input Level

- 接続試験評価

Blue Unit Test Cases と同等な接続試験

1.2 付属品

- RF（TELEC 準拠）の主要項目
 - 周波数の偏差
 - 占有周波数帯域幅および拡散帯域幅
 - 空中線電力の偏差
 - スプリアス発射の強度
 - ホッピング周波数滞留時間
 - 副次的に発する電波等の限度

1.2 付属品

標準付属品一覧を以下に示します。

表 1-1 標準付属品一覧

名称	型名	数量
パワー・スプリッタ	MODEL1593	1
SMA-SMA スルー・コネクタ	FLA-H-SA3	1
N-SMA 変換コネクタ	HRM-554S	1
SMA-SMA ケーブル (0.7 m)	DGM224-00700A	1
SMA-SMA ケーブル (1 m)	DGM224-01000A	3
BNC-BNC ケーブル	81-001-0101-004	2
GPIB ケーブル	408JE-102	5
R4870 OPT01 取扱説明書	JR4870OPT01	1

1.3 接続および動作試験

1.3.1 システム機器相互接続

図 1-1 にシステム機器の相互接続を示します。ケーブル番号は「1.3.2 機器間の相互接続リスト」を参照して下さい。

スペクトラム・アナライザ
(アドバンテスト社製)

無線機テスト
(OPT01 GPIB-Master)
(アドバンテスト社製)

IUT用DC電源
(KEITHLEY社製)

パワー・メータ
(ROHDE & SCHWARZ社製)

熱電対型パワー・センサ
(ROHDE & SCHWARZ社製)

シグナル・ジェネレータ
(ROHDE & SCHWARZ社製)

シグナル・ジェネレータ
(ROHDE & SCHWARZ社製)

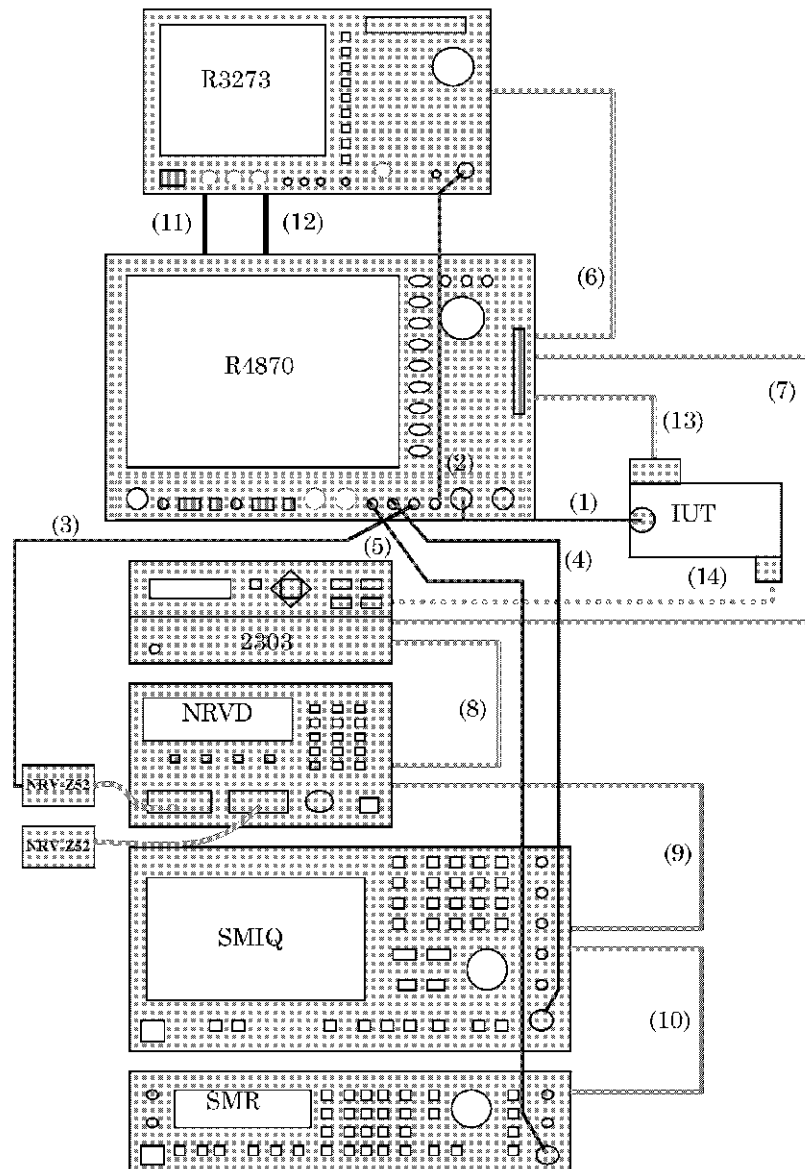


図 1-1 Test System 接続図

1.3.2 機器間の相互接続リスト

1.3.2 機器間の相互接続リスト

No.				
(1)	R4870 (F) RF IN/OUT 1	↔	IUT	RF PORT
(2)	R4870 (F) MONITOR 2	↔	R3273 (F)	INPUT 50 Ω
(3)	R4870 (F) MONITOR 1	↔	NRV-Z52	
(4)	R4870 (F) INTERFERE 2	↔	SMIQ (F)	RF 50 Ω
(5)	R4870 (F) INTERFERE 1	↔	SMR (F)	RF 50 Ω
(6)	R4870 (R) CONTROLLER	↔	R3273 (R)	GPIB
(7)	R4870 (R) CONTROLLER	↔	2303 (R)	IEEE-488
(8)	2303 (R) IEEE-488	↔	NRVD (R)	IEEE-488
(9)	NRVD (R) IEEE-488	↔	SMIQ (R)	IEEE-488
(10)	SMIQ (R) IEEE-488	↔	SMR (R)	IEEE-488
(11)	R4870 (R) TRIG OUT	↔	R3273 (R)	EXT TRIG
(12)	R4870 (R) 10MHz REF	↔	R3273 (R)	10MHz REF IN
(13)	R4870 (R) RS-232	↔	IUT	HCI PORT
(14)	2303 (R) OUTPUT	↔	IUT	DC POWER PORT

*1: No. は図 1-1 と対応しています。

*2: (F) は機器正面側、(R) は機器背面側を指しています。

1.3.2.1 2303 電源出力ケーブル接続

IUT 用 DC 電源 (2303) 出力端子の接続図を示します。

(詳細は 2303 の取扱説明書を参照して下さい。)

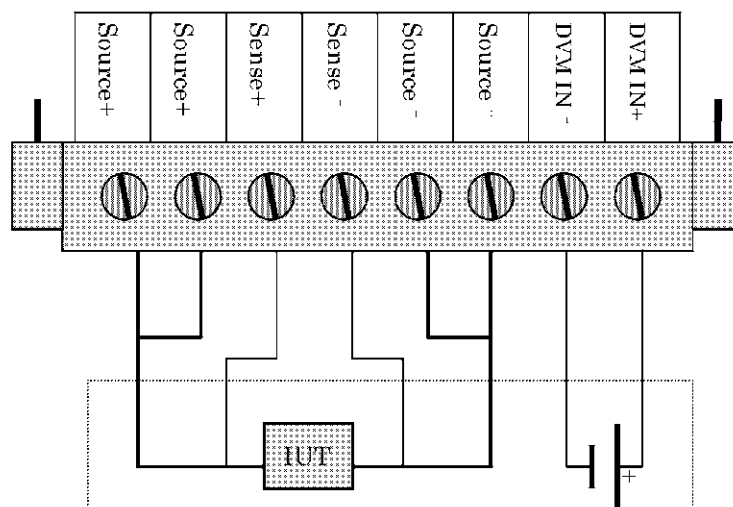


図 1-2 2303DC 出力の接続図 (背面)

1.3.3 接続ケーブルの種類

No.	ケーブル品種	要求周波数帯域
(1)	SMA-SMA ケーブル	30 MHz ~ 25 GHz
(2)	SMA-SMA ケーブル	30 MHz ~ 25 GHz
(3)	SMA-SMA ケーブル	2.4 GHz ~ 2.5 GHz
(4)	SMA-SMA ケーブル	2.4 GHz ~ 2.5 GHz
(5)	SMA-SMA ケーブル	30 MHz ~ 13 GHz
(6)	GPIB ケーブル	
(7)	GPIB ケーブル	
(8)	GPIB ケーブル	
(9)	GPIB ケーブル	
(10)	GPIB ケーブル	
(11)	BNC-BNC ケーブル	DC ~ 10 MHz
(12)	BNC-BNC ケーブル	10 MHz
(13)	RS-232 ケーブル	DSUB 9 ピン
(14)	IUT 用電源ケーブル	

*1: No. は図 1-1 と対応しています。

1.3.4 電源投入手順

1. R3273、2303、NRVD、SMIQ、SMR の電源を投入します（図 1-3 の STEP1 を参照）。各機器の GPIB アドレス設定値は以下のとおりです。

機器名	GPIB アドレス
R3273	8
2303	16
NRVD	20
SMIQ	28
SMR	29

2. STEP1 での機器が安定動作後に R4870 の電源を投入します（図 1-3 の STEP2 を参照）。

注 R3273、SMIQ は、背面にも電源スイッチがありますので、あらかじめスイッチを ON にしておいて下さい。

1.3.4 電源投入手順

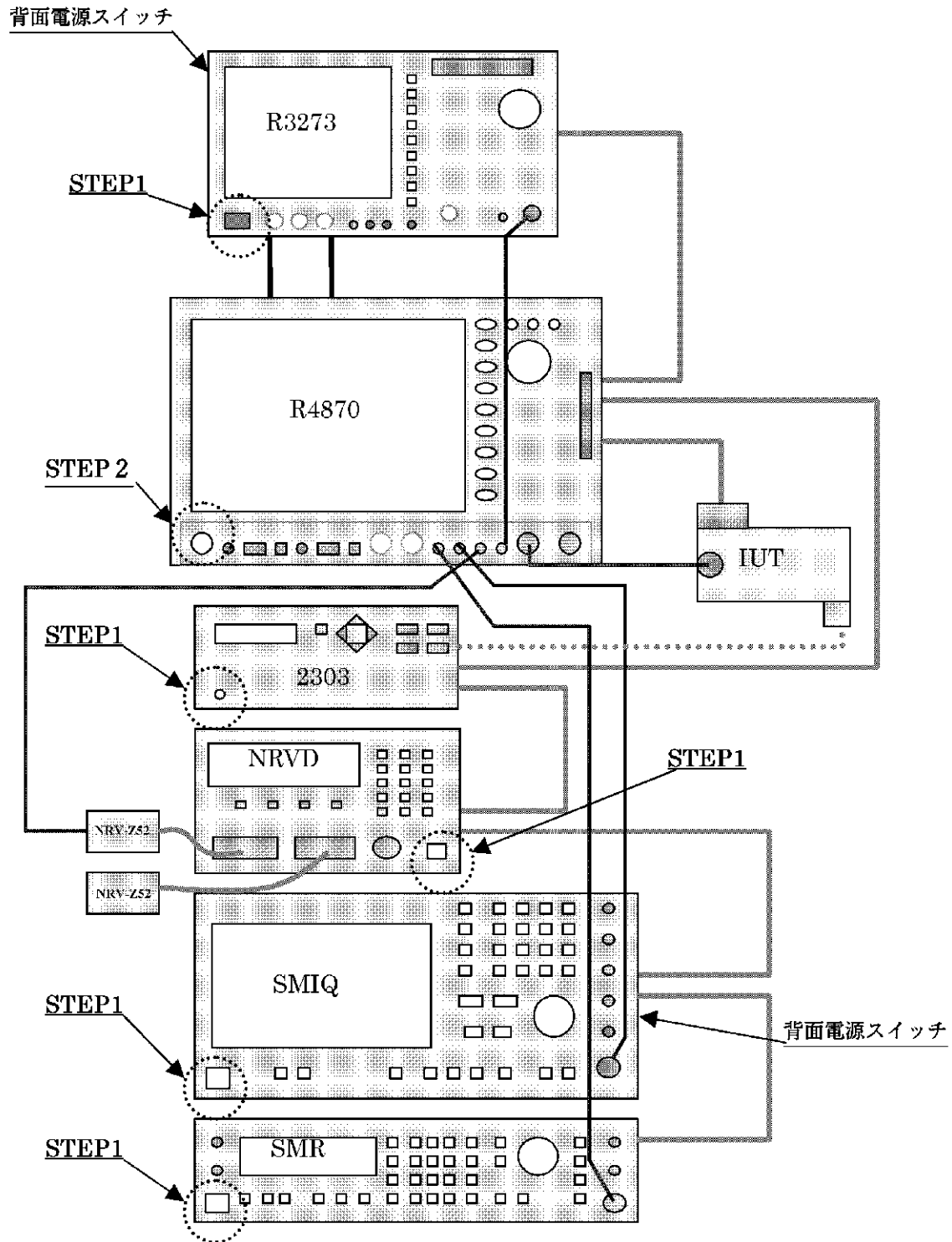


図 1-3 システムでの各機器の電源投入順序

2. 操作

この章では、以下の項目について説明します。

- 基本操作
- 規格準拠テスト項目と設定
- 測定前の設定手順
- 測定の実行方法
- 動作不良の確認方法

注 R4870 およびシステムを構成している各々の機器操作については、それぞれ添付されている取扱説明書を参照して下さい。

2.1 基本操作

ここでは、R4870 OPT01 GPIB-Master の測定システムの基本的な操作を理解するための操作方法を説明します。

2.1.1 電源の投入

1. 各機器の電源スイッチが OFF になっていることを確認します。
2. 背面パネルの AC 電源用コネクタに付属の電源ケーブルを接続します。
3. 電源ケーブルをコンセントに接続します。
4. R4870 と各機器相互接続を図 1-1 に従って確認します。
5. はじめに R4870 を除く機器の電源を ON にします。
6. 周辺機器の立ち上がりを確認したあとに R4870 の電源を ON にします。
イニシャル・テストが正常に終了すると、図 2-1 のスタートアップ画面が表示されます。

2.1.1 電源の投入

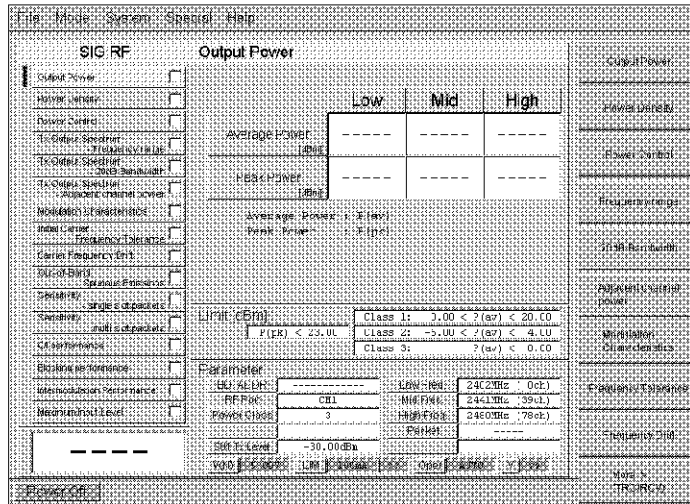


図 2-1 スタートアップ画面

2.2 規格準拠テスト項目と設定

ここでは、Communication Test を除く RF 測定試験について説明します。

2.2.1 RF テスト項目

本システムは SIG および TELEC に準拠した RF 試験を行います。

SIG RF 試験項目：	Output Power
	Power Density
	Power Control
	Frequency Range
	20dB Bandwidth
	Adjacent Channel Power
	Modulation Characteristics
	Frequency Tolerance
	Frequency Drift
	Out of Band Spurious Emissions
	Sensitivity Single Slot Packets
	Sensitivity Multi Slot Packets
	C/I performance
	Blocking performance
	Intermodulation performance
	Maximum Input Level
TELEC RF 試験項目：	Frequency Tolerance (周波数の偏差)
	OBW/Spread BW (占有周波数帯域幅および拡散帯域幅)
	Antenna Power (空中線電力の偏差)
	Spurious Emission (TX) (スプリアス発射の強度)
	Staying Time (ホッピング周波数滞留時間)
	Spurious Emission (RX) (副次的に発する電波等の限度)

2.2.2 テスト設定項目

2.2.2 テスト設定項目

2.2.2.1 SIG テスト設定

SIG RF テスト画面にてメイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。

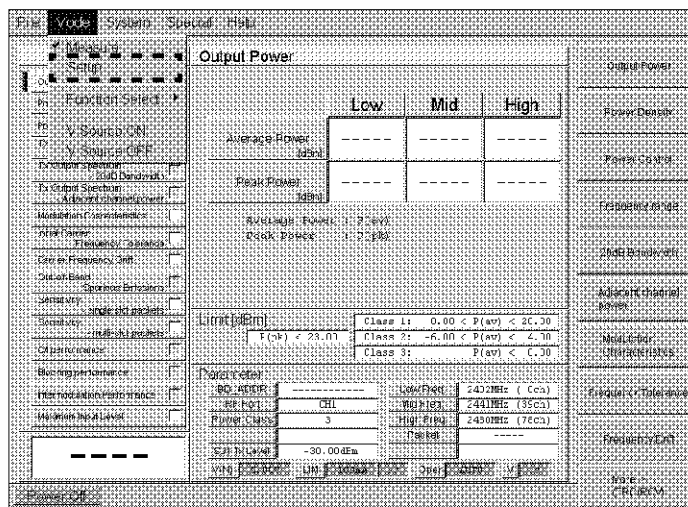


図 2-2 Measure 画面から Setup 画面への移行

上記の操作で SIG Item Select 画面に切り替わります。

試験を行う項目のチェック・ボックスをクリックすると、チェック・マークが表示されます。チェック・マークが表示されたテスト項目では、Low/Mid/High の測定チャンネル選択や、SIG 準拠テストや高速測定の選択が可能となります。

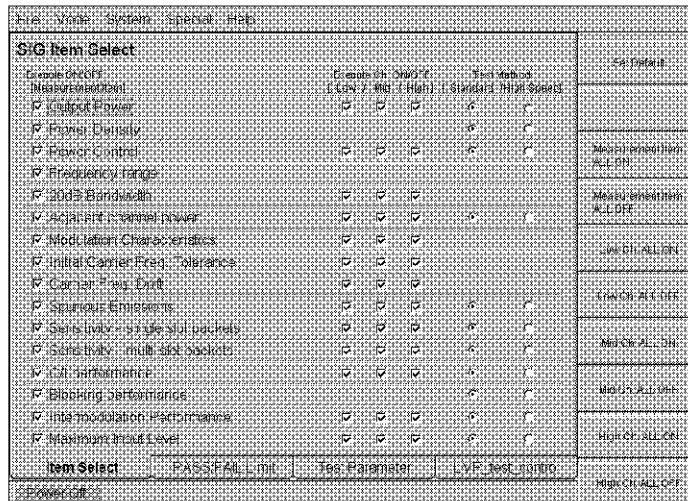


図 2-3 SIG RF Item Select 画面

2.2.2.2 Telec テスト設定

メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Radio Law** → **Telec** と選択します。

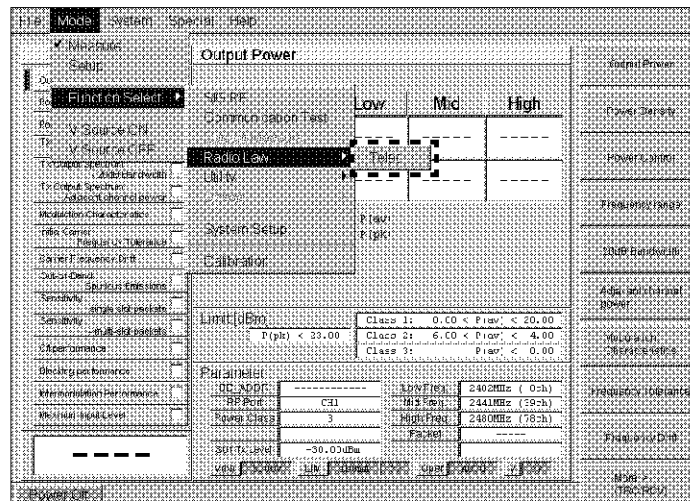


図 2-4 SIG RF 測定から TELEC 測定への移行方法

2.2.2 テスト設定項目

Telec 試験画面に移行します。

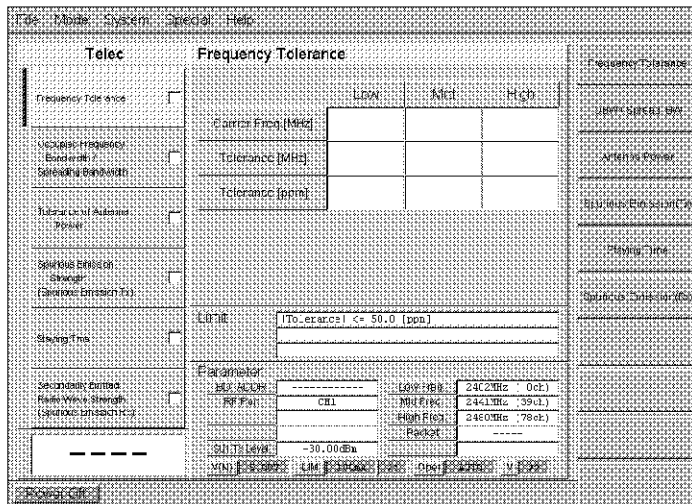


図 2-5 Telec 試験画面

Telec 試験の画面にてメイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。Telec Item Select 画面に切り替わります。

2.2.2.1 の SIG RF の Item Select 画面での操作と同様に、測定を行う項目にチェックを入れ、さらに Low/Mid/High の測定チャンネルの選択を行います。

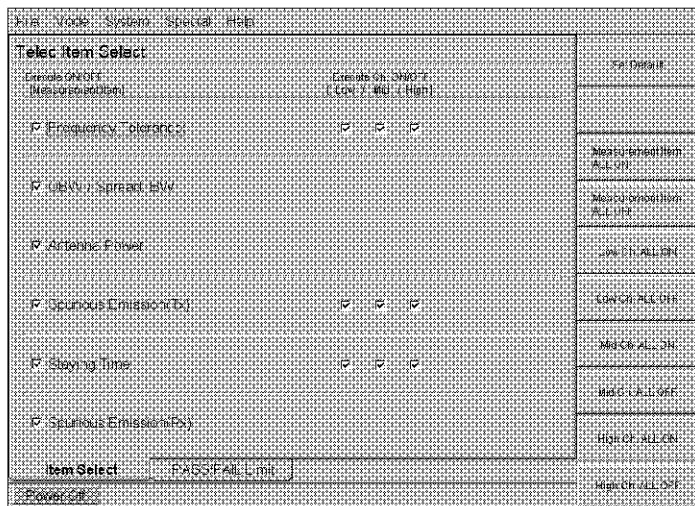


図 2-6 Telec Item Select 画面

2.2.3 Pass/Fail Limit の設定

2.2.3.1 SIG RF での設定

SIG RF 測定画面にて、**PASS/FAIL Limit** タブをクリックすると SIG Limit Parameter 画面が表示されます。

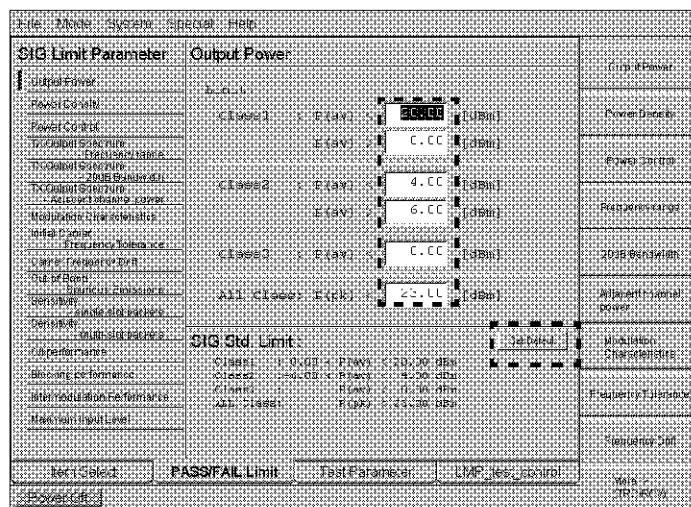


図 2-7 SIG の Limit 設定 (Output Power)

図 2-7 の画面でのテキスト・ボックスには、SIG の規定値が表示されますが、これらの規定値は任意に変更できます。

また、**Set Default** をクリックすることで、テキスト・ボックス内の値はすべて初期値に戻されます。

2.2.3 Pass/Fail Limit の設定

2.2.3.2 TELEC RF での設定

Telec 測定画面にて **PASS/FAIL Limit** タブをクリックすると Telec Limit Parameter 画面が表示されます。

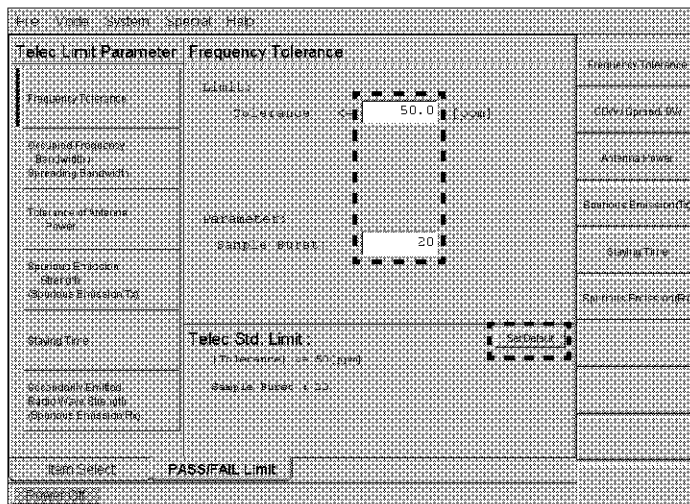


図 2-8 Telec の Limit 設定 (Frequency Tolerance)

図 2-8 画面のテキスト・ボックスには、Telec の規定値が表示されますが、この値は任意に変更できます。

また、**Set Default** をクリックすることで、テキスト・ボックス内の値はすべて初期値に戻されます。

2.3 測定前の設定手順

ここでは Test System の各設定や、SIG および Telec の RF 試験方法の説明を行います。

2.3.1 IUT 接続

RF テストでは IUT を図 1-3 のように接続します。

R4870 の RS-232 ケーブルと RF ケーブル、2303 (IUT 用 DC 電源) からの電源用ケーブルを IUT に接続します。

RF 信号接続ケーブルについては、測定結果に誤差が含まれないように伝送損失を補正したケーブルを使う必要があります。

システム・キャリブレーションの手順に従って、ケーブル損失補正のキャリブレーションを行って下さい。

また、IUT および R3273 と R4870 とを接続する RF ケーブルは、30 MHz ~ 25GHz の範囲を測定可能なケーブルをお使い下さい。

2.3.2 電源投入の手順

システムを立ち上げる場合は、R4870 を除く周辺機器の電源を投入して立ち上がったあとに、R4870 の電源を ON にして下さい。

2.3.3 周辺機器の認識について

- R4870 は電源立ち上げ時に、周辺機器の認識を行います。
周辺機器が応答しない場合、R4870 には周辺機器が接続されていないものと判断して、関連する項目の測定を行うと、エラーを返します。
- 電源の立ち上げ順序を間違ってしまった場合、R4870 の PRESET 操作で、R4870 は周辺機器の認識を行います。
- PRESET 操作は、R4870 正面パネルのエントリ・キー・ブロック内にある **PRESET** ボタンで行います。右ボタンから先に押し続けながら、左ボタンを押すと図 2-9 に示すプリセット用のアイコンが表示されます。
続いて、**Hard Reset** をクリックすると、R4870 に接続されている機器の認識を行います。

2.3.4 測定に関する設定

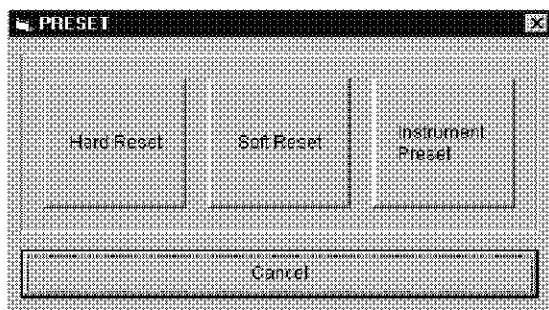


図 2-9 PRESET メニュー

各 PRESET の意味は以下のとおりです。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. Hard Reset | 周辺機器を認識します。 |
| 2. Soft Reset | 周辺機器を認識します。 |
| 3. Instrument Preset | 周辺機器の認識とリセットを行います。 |

2.3.4 測定に関する設定

測定を行う前に各測定項目の設定を行って下さい。

(設定変更の必要がない場合は、この項は読み飛ばして下さい。)

ここでは、以下の順に設定の説明を行います。

1. SIG Item Select
2. PASS/FAIL Limit
3. Test Parameter
4. LMP_test_control
5. System Setup

2.3.4.1 SIG Item Select

ここでは各測定項目、測定チャンネル、測定スピードの3種類を選択できます。

例えば Adjacent channel power で、チャンネルを Mid のみ、SIG 規格測定を行う場合のチェック・ボックス設定は、図 2-10 の点線枠内に示すようになります。

File		Mode	System	Special	Help
SIG Item Select					
Disable ON/OFF	Disable ON/OFF	Test Method			For Default
Measurement	Low / Mid / High	Standard / High Speed			
<input type="checkbox"/> Output Power	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Power Density	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Power Control	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Measurement ALL OFF
<input type="checkbox"/> Frequency range	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> DUT Backscat	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Measurement ALL OFF
<input checked="" type="checkbox"/> Adjacent channel power	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Modulation characteristics	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	For ALL ON
<input type="checkbox"/> Initial Carrier Freq. tolerance	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	For ALL OFF
<input type="checkbox"/> Carrier freq. drift	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Spurious Emissions	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Sensitivity - signal patterns	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Mid ALL ON
<input type="checkbox"/> Sensitivity - multi-tone patterns	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Total performance	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Mid ALL OFF
<input type="checkbox"/> Blocking performance	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> Time modulation performance	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	High ALL OFF
<input type="checkbox"/> Maximum Input Level	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Item Select	PASS/FAIL Limit	Test Parameter	LVP test control		Mid ALL OFF
Power OFF					

図 2-10 Item 選択画面

測定チャンネルの Low/Mid/High の各設定は、図 2-11 の 1 に示す **System Setup** を選択してから、2 のボックスで設定変更が行えます。

設定の詳細は R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」を参照して下さい。

File		Mode	System	Special	Help
Sys					
Function Select					
V Source ON	V Source OFF	SIG RP	Optimization Test	TC Standard Modulation Index	For Standard
RF Address	RF Address / Offset	Radio Law	CHB	0.32	
Test Channel	Frequency (MHz)	System Setup	Configure		
Offset (dBm/Power level)		Low (MHz/0.5)	Mid (MHz/1.0)	High (MHz/1.5)	ALL OFF
Trace		0	38	76	
Offset Reference		76	0	0	RF Information
		0	1	22	System Configuration
		22	0	0	Comment
<input type="checkbox"/> Internal	<input type="checkbox"/> External	<input type="checkbox"/> ON	<input type="checkbox"/> OFF		
Power OFF					

図 2-11 チャンネル設定

2.3.4 測定に関する設定

2.3.4.2 PASS/FAIL Limit

各測定項目に対して PASS/FAIL Limit 値の変更が行えますので、必要に応じて変更して下さい。
 図 2-12 に "TX Output Spectrum-Adjacent channel power" を例としてリミット値の設定画面を示します。

1 の点線枠内がリミット値の入力ボックスで、任意にリミット値を変更できます。その他の測定項目においても、2 のサイド・メニューで変更を必要とする試験項目を選択することで画面を切り替えて、リミット値の変更が可能となります。

(各測定項目によって表示形態は多少異なりますが、すべての試験項目のリミット値を変更できます。)

設定入力範囲は、本書「3.4 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲」を参照して下さい。

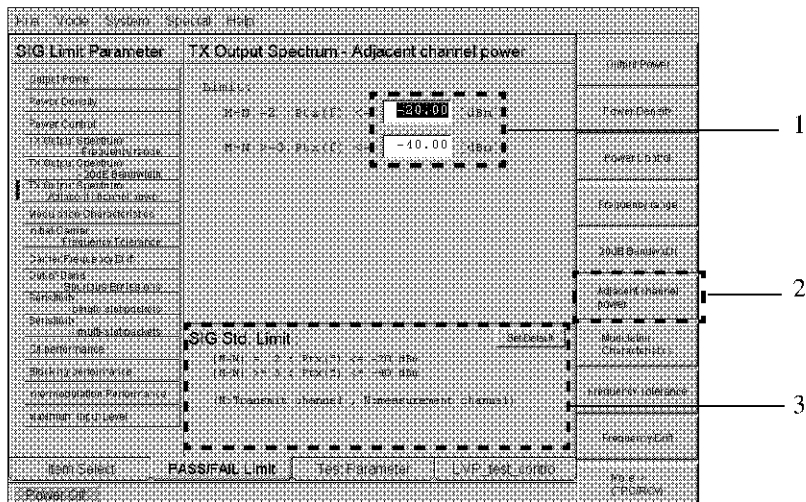


図 2-12 PASS/FAIL Limit 設定

リミット値を SIG の規定値に戻す場合は、3 の点線枠内 **Set Default** をクリックして下さい。

2.3.4.3 Test Parameter

SIG RF 測定試験で、設定パラメータの変更ができます。

2.3.4.3.1 Output Power (Power Control) : Power Range

- Start point : バースト波の平均電力測定の開始点
設定範囲 : 0 ~ [Stop Point - 1] % (デフォルト値 : 20%)
- Stop point : バースト波の平均電力測定の終了点
設定範囲 : [Start Point + 1] ~ 100% (デフォルト値 : 80%)
- Leading and trading point :
PO 検出不可時に、バースト波ピーク・レベルより X dB 下がったレベルを基準点とする。
設定範囲 : 0 ~ 40 dB (デフォルト値 : 10 dB)

注 0 dB に設定すると、ピーク・レベルと同じポイントを基準点と判断する場合がありますので、数 dB 程度の値を設定して下さい。

- Average Count : 平均回数
設定範囲 : 1 ~ 999 回 (デフォルト値 : 20 回)

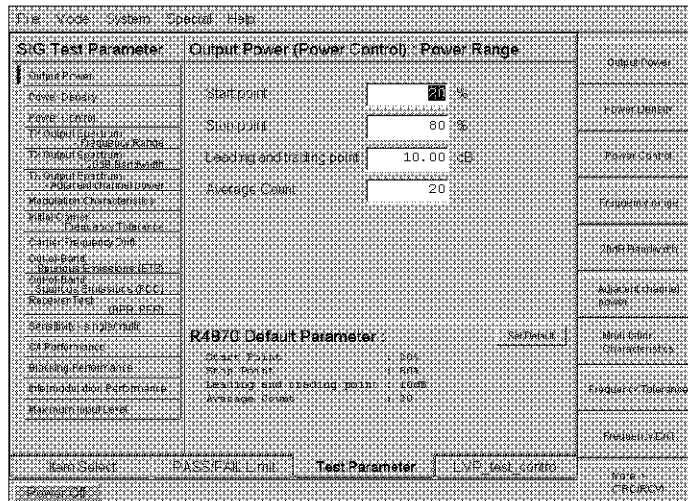


図 2-13 Output Power (Power Control) 条件設定

2.3.4 測定に関する設定

2.3.4.3.2 Power Density : Sweep Time

- Standard

Peak Frequency : 240 MHz の SPAN を 1 秒あたり何 kHz の掃引速度とするかを設定します。
 設定範囲 : 100 ~ 10000 kHz (デフォルト値 : 100 kHz)

Peak Power : ピーク・パワー測定時 (SPAN ZERO) での掃引時間を設定します。
 設定範囲 : 1 ~ 1000 sec (デフォルト値 : 60 sec)

- High Speed

Peak Frequency : 100 MHz の SPAN を 1 秒あたり何 kHz の掃引速度とするかを設定します。
 設定範囲 : 100 ~ 10000 kHz (デフォルト値 : 100 kHz)

Peak Power : ピーク・パワー測定時 (SPAN ZERO) での掃引時間を設定します。
 設定範囲 : 1 ~ 1000 sec (デフォルト値 : 2 sec)

注 High Speed の設定によっては測定スピードが Standard と同一または遅くなってしまいます。High Speed を設定する場合には、測定パラメータを Default にすることを推奨します。

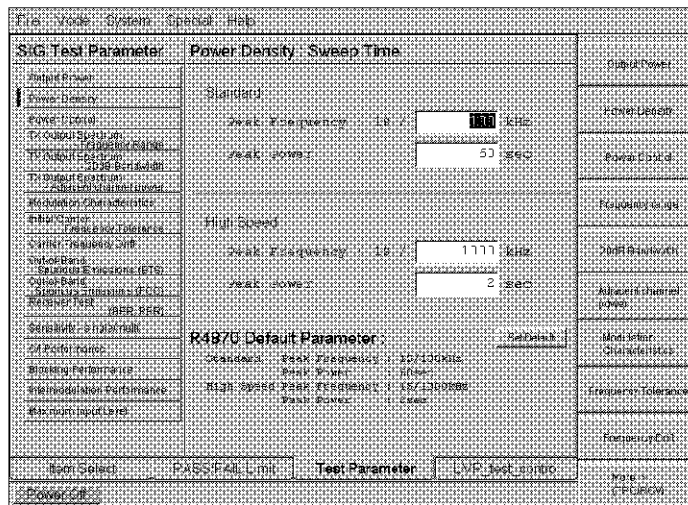


図 2-14 Power Density 条件設定

2.3.4.3.5 20 dB Bandwidth : Bandwidth Level

- Bandwidth Level : ピーク・パワーより何 dB レベル下がった点で、バンド幅測定を行うかを設定します。
設定範囲 : 0 ~ 60 dB (デフォルト値 : 20 dB)

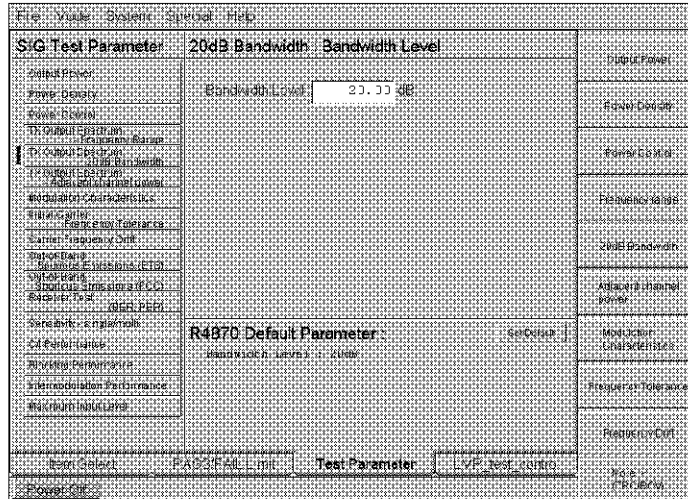


図 2-17 20 dB Bandwidth 条件設定

2.3.4.3.6 ACP : Number of Adjacent Channel

- Number of Adjacent Channel :
測定するチャンネル範囲を設定します。
設定範囲 : 2 ~ 75 (デフォルト値 : 75)

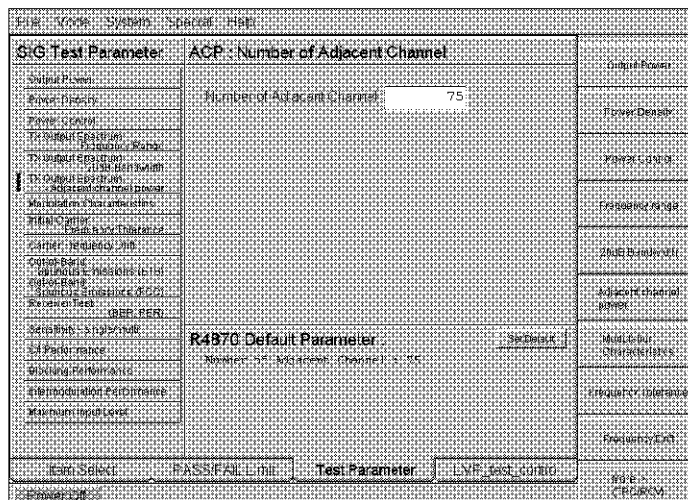


図 2-18 ACP 条件設定

2.3.4 測定に関する設定

2.3.4.3.7 Modulation Characteristics : Sample Packet

Modulation Characteristics 試験のパラメータを設定します。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.5.1 Modulation Characteristics」を参照して下さい。

2.3.4.3.8 Frequency Tolerance : Sample Packet,etc.../
Frequency Drift : Sample Packet,etc...

Initial Carrier Frequency Tolerance および Carrier Frequency Drift 試験のパラメータを設定します。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.5.2 Initial Carrier Frequency Tolerance/Carrier Frequency Drift」を参照して下さい。

2.3.4.3.9 Spurious Emissions (ETS)/(FCC) : Test Frequency

- Meas Range (Standard) :
 スプリアス測定の周波数範囲を設定します。
 設定範囲：ETS 30 MHz ~ 12.75 GHz
 設定範囲：FCC 30 MHz ~ 25 GHz
- Meas Point (High Speed) :
 測定する周波数ポイントを指定します。
 設定ポイント：1 ~ 20 ポイント (ETS/FCC 共通)
 設定範囲：ETS 30 MHz ~ 12.75 GHz (任意の周波数ポイント)
 設定範囲：FCC 30 MHz ~ 25 GHz (任意の周波数ポイント)
- Standby Mode : IUT を待機状態にして測定します (ETS のみ)。
 チェック・マークが入ると IUT は待機状態となります。

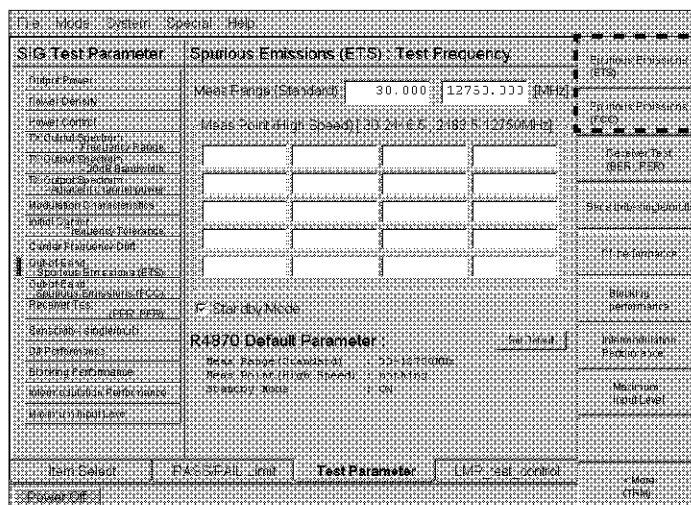


図 2-19 Spurious Emissions 測定周波数の設定

2.3.4.3.10 Receiver Test : (BER,PER)

IUT の受信機性能試験に関わる試験のパラメータを設定します。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.5.3 Receiver Test : (BER,PER)」を参照して下さい。

2.3.4.3.11 Sensitivity - single/multi : Dirty ON/OFF, TX Level

Sensitivity-single slot packets および Sensitivity-multi-slot packets 試験のパラメータを設定します。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.5.4 Sensitivity - single/multi」を参照して下さい。

2.3.4 測定に関する設定

2.3.4.3.12 C/I Performance : Image Frequency

IUT が通信状態において、通信チャンネルや隣接チャンネルに妨害信号を 1 波与え、IUT の BER/PER 特性を評価します。

- Image Frequency : IUT が帯域内に持つイメージ周波数を設定します。
設定範囲 : 2402 MHz ~ 2480 MHz (1 ~ 3 種類のイメージ周波数)
- Interfering Level : IUT への妨害信号レベルを設定します。
Normal : 基本となる妨害波レベルです。
Relaxed : Normal の 2 MHz 以上の妨害波で BER が規定値を満足しなかった場合に実施します。
- Wanted Level : 本器から IUT へ送信する通信用信号レベルを設定します。
各設定範囲は、規格値に対して ±10 dB の範囲で設定できます。

以下に Interfering と Wanted 信号レベルの設定範囲を示します。

Interfering Freq.	Interfering [dBm]		Wanted [dBm]
	Normal	Relaxed	
Co-channel	-81 ~ -71 ~ -61	-----	-70 ~ -60 ~ -50
1 MHz	-70 ~ -60 ~ -50	-----	-70 ~ -60 ~ -50
2 MHz	-40 ~ -30 ~ -20	-53 ~ -43 ~ -33	-70 ~ -60 ~ -50
≥3 MHz	-37 ~ -27 ~ -17	-60 ~ -50 ~ -40	-77 ~ -67 ~ -57
Image	-68 ~ -58 ~ -48	-60 ~ -50 ~ -40	-77 ~ -67 ~ -57
Image ±1 MHz	-57 ~ -47 ~ -37	-60 ~ -50 ~ -40	-77 ~ -67 ~ -57

注 : 表内の表記は、最小出力~デフォルト出力~最大出力を示します。

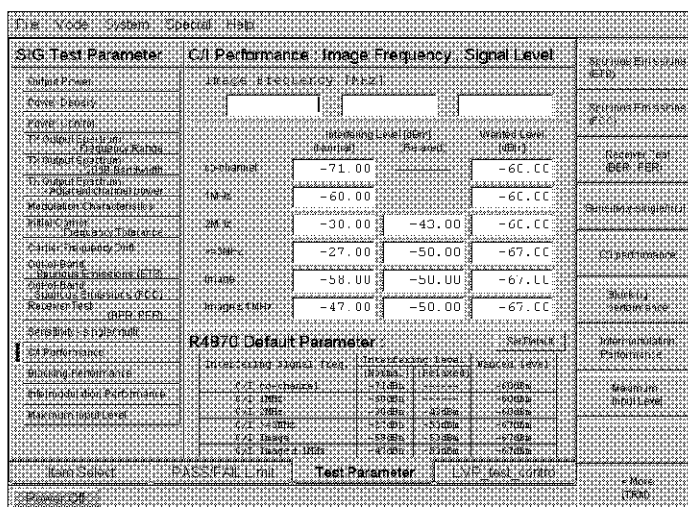


図 2-20 C/I Performance 条件設定

2.3.4.3.13 Blocking performance : Signal Level

IUT が通信状態において、受信帯域内外 (30 MHz ~ 12.75 GHz) に妨害信号を 1 波与えて、IUT の BER/PER 特性の評価を行います。

- Wanted Signal Level :
本器から IUT へ送信する通信用信号レベルです。
設定範囲 : -93 ~ -13 dBm (デフォルト値 : -67 dBm)
- Interfering Signal Freq. :
通信帯域 (2.4 GHz ~ 2.5 GHz) を除く 30 MHz ~ 12.75 GHz 帯域への CW 信号による妨害信号です。

各設定範囲は以下のとおりです。

Interfering Freq.	Level1 [dBm]	Level2 [dBm]	Level3 [dBm]
30 MHz ~ 2000 MHz	-60 ~ -8 ~ -5	-60 ~ -10 ~ -5	-60 ~ -50 ~ -5
2000 MHz ~ 2400 MHz	-60 ~ -25 ~ -5	-60 ~ -27 ~ -5	-60 ~ -50 ~ -5
2500 MHz ~ 3000 MHz	-60 ~ -25 ~ -5	-60 ~ -27 ~ -5	-60 ~ -50 ~ -5
3000 MHz ~ 12.75 GHz	-60 ~ -8 ~ -5	-60 ~ -10 ~ -5	-60 ~ -50 ~ -5

注： 表内の表記は、最小出力～デフォルト出力～最大出力を示します。

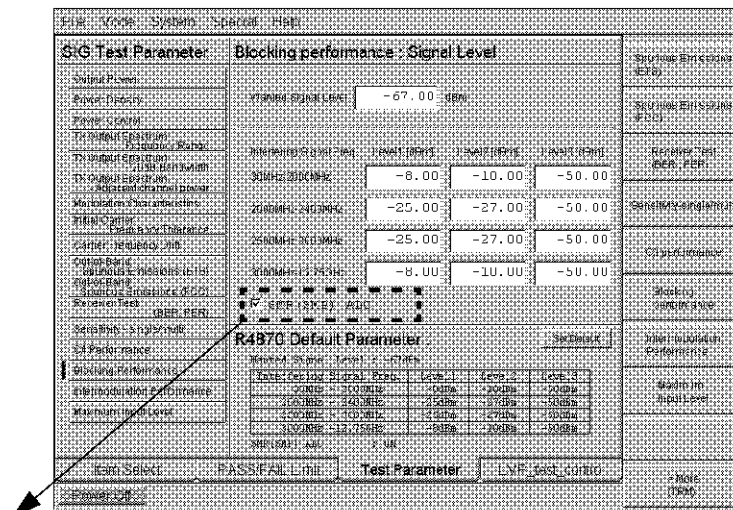


図 2-21 Blocking performance 条件設定

注 Device の性能により妨害波用信号源の Noise が Blocking 特性に影響を及ぼす場合があります。その場合、妨害波用の信号源の SMR(SMP)ALC を OFF でご使用下さい。

2.3.4.5 System Setup

2.3.4.5.1 DC Power Source

ここでは 2303 の出力電圧設定、制限電流設定等を行います。

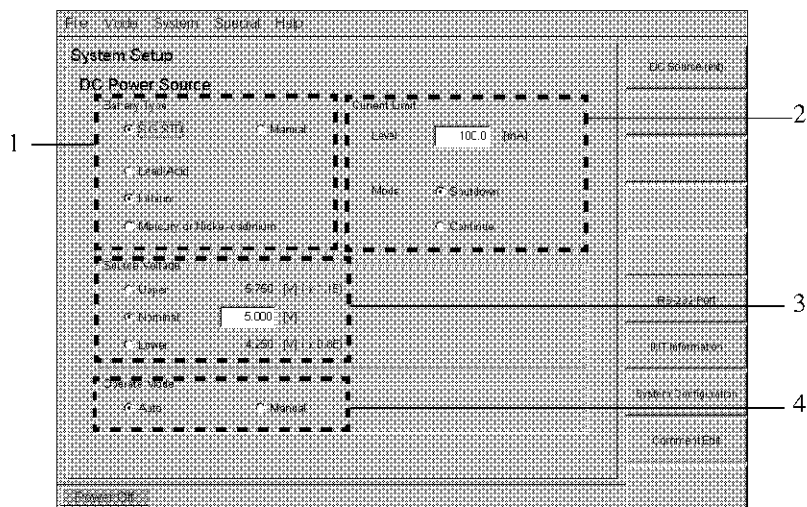


図 2-23 DC Power Source 設定

各設定項目の意味は以下のとおりです。

1. Battery Type

- SIG STD: SIG 規格の上下限倍率をバッテリー・タイプに合わせて自動設定します。

バッテリー・タイプ	Upper	Lower
Lead-Acid (鉛蓄電池)	×1.3	×0.9
Lithium (リチウム電池)	×1.15	×0.85
Mercury or Nickel-cadmium (ニッケル水素電池)	×1.15	×0.9

- Manual: 上下限値の設定を任意設定できます。
出力範囲: 0~15 V
設定分解能: 1 mV

2.3.4 測定に関する設定

2. Current Limit

- Level : IUT への最大電流量を制限します。
10 mA ~ 1500 mA (0.1 mA 分解能)
- Mode : 電流量が制限値を超えたときの出力制御方法を設定します。
Shutdown : 出力を OFF にします。
(IUT の電流量が設定制限値以下になっても、出力は ON に自動復帰しません。"Shutdown" モードを解除するには、Mode の V Source OFF を選択して下さい。)
Continue : 制限電流値のまま出力し続けます。

3. Source Voltage

出力電圧の設定値を入力します。
出力可能範囲は、すべて 0 ~ 15 V です。

- Upper
- Nominal
- Lower

ただし、(1) 項のバッテリー・タイプ設定に応じて、出力可能電圧が指定されます。(オプション・ボタンで指定された設定電圧で試験を行います。)

(1) で SIG STD を設定した場合 : Nominal 電圧のみの入力が可能です。

(1) で Manual を設定した場合 : Nominal、Lower、Upper の各々の設定が任意に行えます。

4. Operate Mode

IUT への DC 電源供給方法を決定します。

- Auto : 測定開始および終了に合わせて、DC 出力の ON/OFF を自動で行います。
- Manual : 任意に出力の ON/OFF を行います (図 2-24 の 1 参照)。
Mode で V Source ON または V Source OFF を選びます。

注 試験時に ON または OFF の操作を誤らないようにして下さい。

2.3.4 測定に関する設定

- V: DC 電源出力の状態を表示
ON: DC 電圧を出力しています。
OFF: DC 電圧を出力していません。



図 2-26 DC 電源情報表示 (2303 検出)

図 2-26 に 2303 が動作状態を示します。

手動操作で Normal 設定電圧の 5.00 V を出力しており、100 mA の電流制限が掛かっている状態を示しています。

2.3.4.5.2 RS-232 (HCI) 設定

RS-232 の Baud Rate, Parity Bit および Stop Bits の設定を行います。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.1 RS-232 設定 (HCI 制御時)」を参照してください。

2.3.4.5.3 IUT Information 設定

IUT Information で IUT に合わせた設定を行います。

設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.2 IUT Information 設定」を参照してください。

2.3.4.5.4 System Configuration 設定

R4870 で行われる試験に関わる設定を行います。

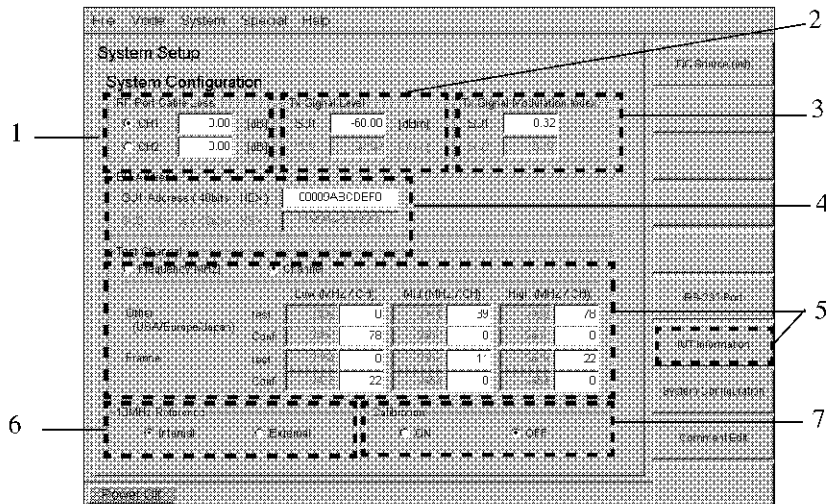


図 2-27 System Configuration 設定

1～6 の設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」を参照して下さい。

7. Calibration

図 1-1 に示した Test System の Calibration データの ON/OFF 設定を行います。

ON: Test System すべての経路の Calibration データを反映します。

OFF: 工場出荷時の調整データのみ反映します。

注 工場出荷時には、Calibration データは入っていません。Calibration データを使用する場合は、5.1 キャリブレーション設定手順の Calibration を実行して下さい。

2.3.4.5.5 Comment Edit 設定

IUT の固有情報を試験結果に付けて、フロッピー・ディスクおよびハード・ディスクに記録できます。

詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.4 Comment Edit 設定」を参照して下さい。

2.4 測定の実行方法

2.4 測定の実行方法

ここでは、実際に測定例をあげて測定手順を簡単に説明します。

2.4.1 SIG RF テスト

図 2-28 では以下の項目のみを測定します。

- Output Power (Mid Channel)
- Power Density
- Power Control (Mid Channel)

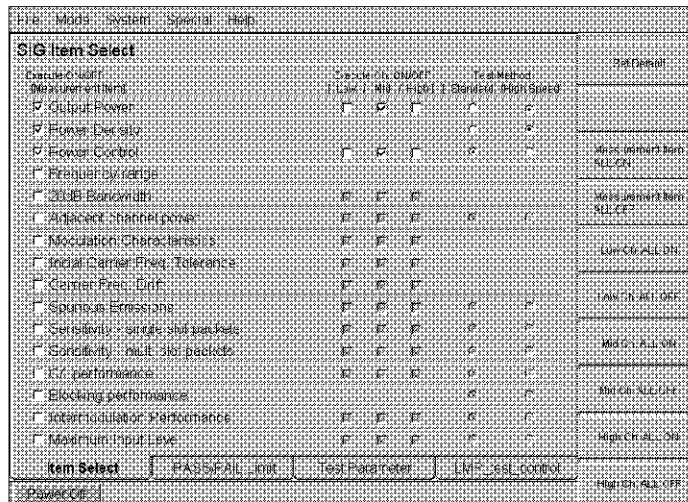


図 2-28 SIG Item Select 画面

項目およびその他のパラメータの設定を完了したあとに、SIG RF 測定画面に戻ると、RF 試験項目が表示されています（図 2-29 参照）。

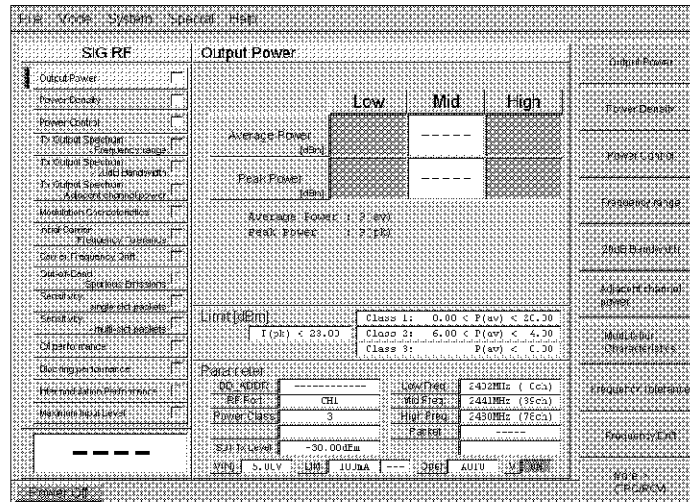


図 2-29 測定開始画面

測定開始前に IUT の電源、RF ケーブルの接続、HCI 用の RS-232 ケーブルの接続を確認したあとに R4870 の測定開始ボタン（**SINGLE** または **START**）を押します。

このとき、測定実行方法には 2 とおりあります。

SINGLE: 選択されている 1 項目のみを測定します。

START: 測定アイテムとして選択されている全項目を実行します。

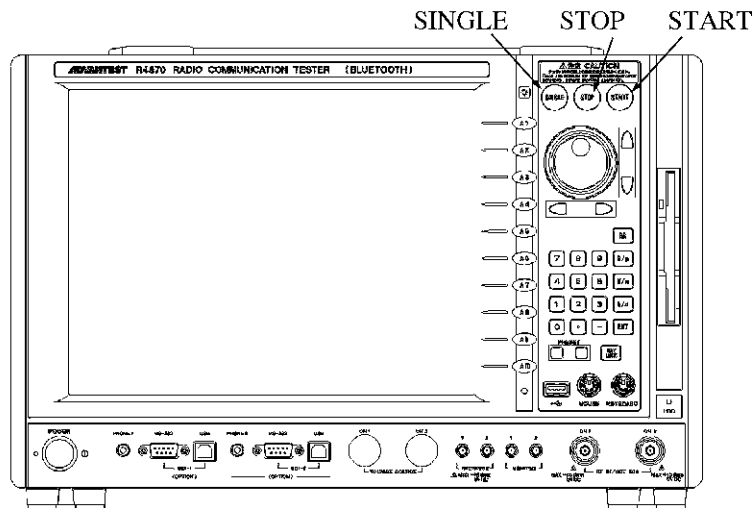


図 2-30 START/SINGLE キーの位置

測定を中断したい場合は **STOP** を押して下さい。

測定が進むにつれて、測定結果が中央に表示されるとともに、判定結果が左側のテスト項目インジケータに表示されます。

2.4.1 SIG RF テスト

インジケータに表示される色は、以下のように定義されています。

Green : PASS

Red : FAIL

図 2-31 では Output Power の測定が完了して、測定結果がパスしたことを意味しています。SINGLE 測定の場合はこの時点で測定を完了しますが、**START** を押した場合には、引き続き Power Density、Power Control の順番で測定を続けます。

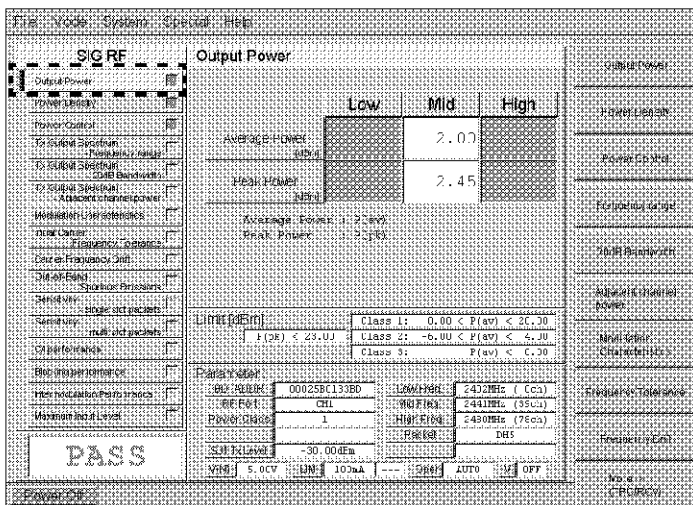


図 2-31 Output Power 測定 PASS

すべての測定が完了して、すべての測定結果が規定値を満足している場合には図 2-32 が表示されます。すべての結果表示ボックスが緑色になるとともに、総合の判定結果がボックスに PASS と緑色で表示されます。

1 項目でも試験結果に不合格があると FAIL と赤色で表示されます。

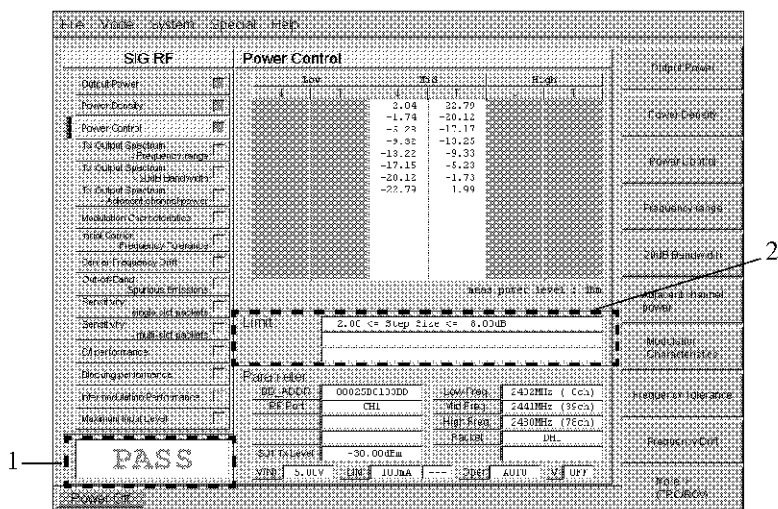


図 2-32 全測定項目 PASS

2.4.2 TELEC テスト

ここでは、TELEC 試験（2.4 GHz 帯高度化無線 LAN）方法に基づいた試験を実施する方法を説明します。

2.4.2.1 測定準備

1. 各機器の電源を投入します。

注 TELEC 試験のみを行う場合には、R4870、R3273、2303、NRVD の電源を投入するだけでも実行できます。SMIQ、SMR の電源を OFF にしても TELEC 試験には影響ありません。

2. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Radio Law** → **Telec** と選択します。Telec の測定用画面が表示されます(図 2-33 参照)。

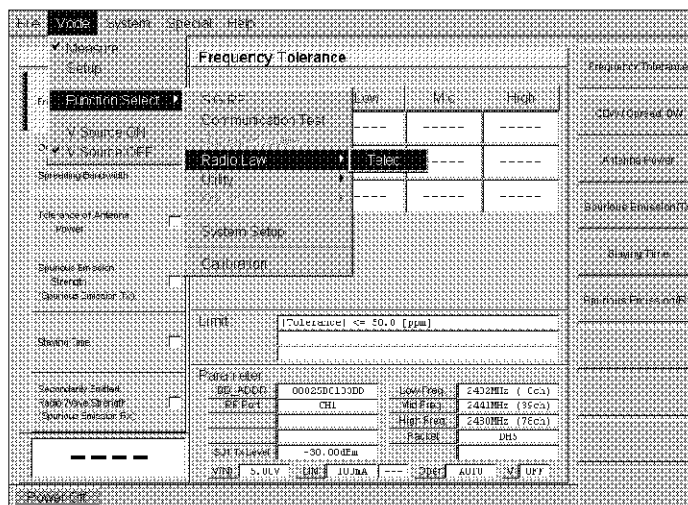


図 2-33 Telec 試験の設定

3. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します。
4. すべての測定項目を実行するように、図 2-34 の **Measurement Item All ON** を押します。さらに、全測定項目のうち Spurious Emission(Tx) の測定で Mid Ch. のみを実行するように、図 2-34 に矢印で示したチェック・ボックスをクリックすることでチェック・マークが外れ、Low Ch. および High Ch. の測定が実行されなくなります。

2.4.2 TELEC テスト

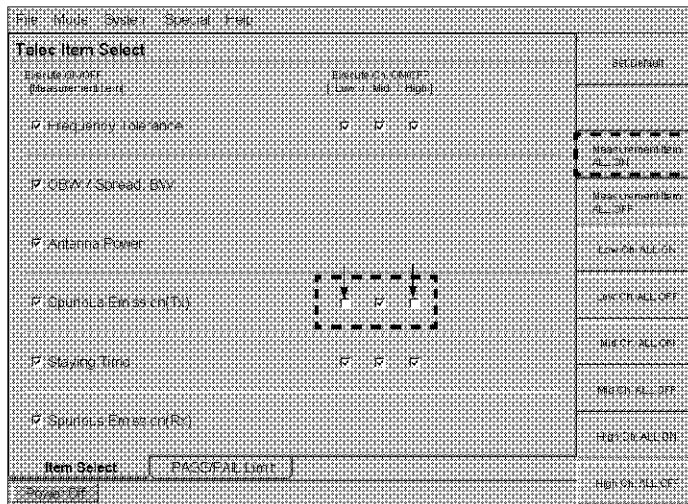


図 2-34 Telec Item Select 画面

5. Frequency Tolerance の Limit

PASS/FAIL Limit タブをクリックします。

Telec の Limit Parameter 画面が表示されます。

Frequency Tolerance をクリックすると図 2-35 が表示されます。

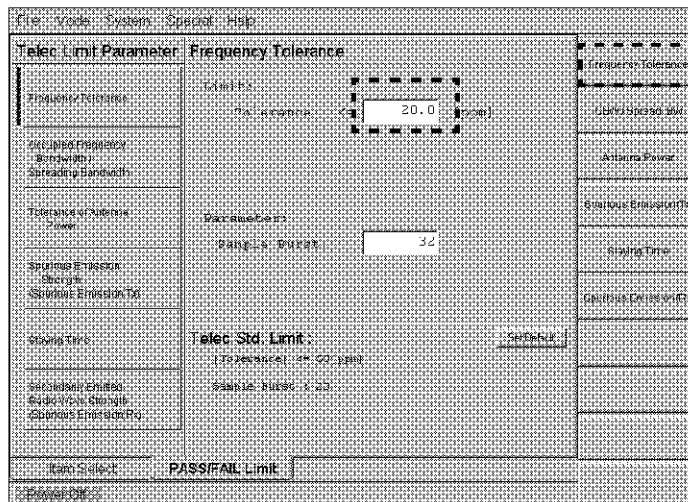


図 2-35 Frequency Tolerance Limit 設定

Tolerance を 20ppm に変更する場合は、Tolerance のテキスト・ボックスにカーソルを合わせた状態で、**2** **0** **ENT** と押すことにより、50 ppm から 20 ppm に置き換わります。Sample Burst を 32 回に変更する場合も同様に、カーソルを Sample Burst のテキスト・ボックスに合わせた状態で、**3** **2** **ENT** と押すことにより、20 回から 32 回に置き換わります。

6. OBW と Spread. Bandwidth の Limit 設定

OBW/Spread. BW をクリックすると、図 2-36 が表示されます。

Telec Limit Parameter		Occupied Frequency BW/Spreading BW	Frequency Tolerance
Frequency Tolerance	Limit:	80.00 MHz	COM/Spread BW
Occupied Frequency Bandwidth/Spreading Bandwidth	Spread. BW:	0.40 MHz (R4870-A0)	Antenna Power
Tolerance of Antenna Power			Surface Emission (M)
Spurious Emission (Spurious Emission (M))			Shielding Time
Shielding Time	Telec Std. Limit:		Surface Emission (C)
Secondary Emission (Radio Wave Residual Spurious Emission (R))			
Report Select	PASS/FAIL Limit		
Power OK			

図 2-36 OBW Limit 設定

OBW の Limit を 80 MHz に変更するには、カーソルを OBW のテキスト・ボックスに合わせた状態で、**8 0 ENT** と押すことにより、Limit 値が 83.5 MHz から 80 MHz に置き換わります。

Spread. BW を 0.4 MHz に変更する場合も、同じくカーソルをテキスト・ボックスに合わせて **0 . 4 ENT** と押すことにより、Spread. BW が 0.5 MHz から 0.4 MHz に置き換わります。

7. Antenna Power の Limit 設定

Antenna Power をクリックすると、図 2-37 が表示されます。

Telec Limit Parameter		Tolerance of Antenna Power	Frequency Tolerance
Frequency Tolerance	Limit:	-60.0 dBm (Antenna R= 20.0 dB)	COM/Spread BW
Occupied Frequency Bandwidth/Spreading Bandwidth			Antenna Power
Tolerance of Antenna Power	Reference:	U.0300 (100/100)	Surface Emission (M)
Spurious Emission (Spurious Emission (M))	Block. BW/Spread. BW:	U.50	Shielding Time
Shielding Time	Telec Std. Limit:		Surface Emission (C)
Secondary Emission (Radio Wave Residual Spurious Emission (R))			
Report Select	PASS/FAIL Limit		
Power OK			

図 2-37 Antenna Power の設定

2.4.2 TELEC テスト

Limit 値を -80% から -60% に変更するには、カーソルを (-) 側のテキスト・ボックスに合わせて、**- 6 0 ENT** と押すことにより、(-) 側の Limit 値が -60% に置き換わります。

注

1. Antenna Power と Burst ON/OFF Ratio は、Telec 規格により“メーカーの申請値”と規定されていますので、実際に Telec に申請する値を入力して下さい。
2. Burst ON/OFF Ratio は、SIG 規格ではパケット・タイプに応じて DH1 ≒ 0.30、DH3 ≒ 0.64、DH5 ≒ 0.75 となります。ただし、すべての IUT の Burst ON/OFF Ratio が同一とは限りません。

8. Spurious Emission Strength の Limit 設定

Spurious Emission (Tx) をクリックすると、図 2-38 が表示されます。

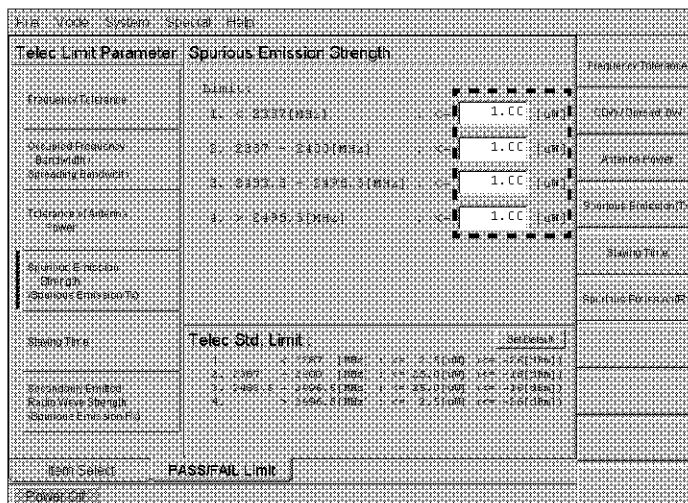


図 2-38 Spurious Emission Limit 設定

すべての Limit 値を 1 μW に設定するには、カーソルを各テキスト・ボックスに合わせて **1 ENT** と押すことにより、設定値が 1 μW に置き換わります。

9. Staying Time の Limit 設定

Staying Time をクリックすると、図 2-39 が表示されます。

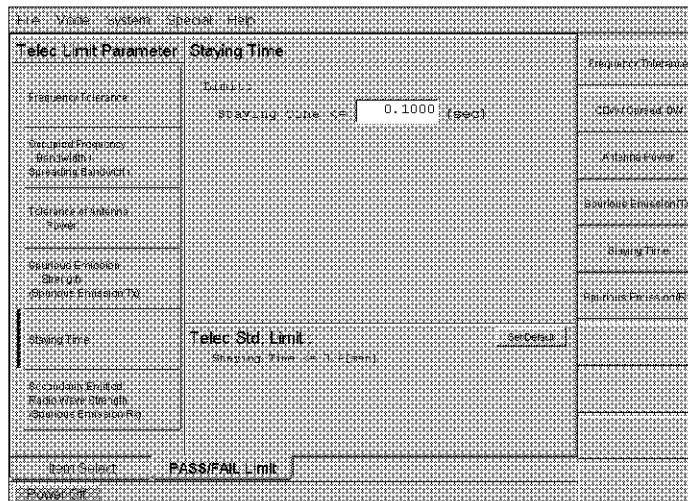


図 2-39 Staying Time Limit 設定

Staying Time を 0.1 sec に設定するには、カーソルをテキスト・ボックスに合わせて **0** **.** **1** **ENT** と押すことにより、設定値が 0.1 sec に置き換わります。

10. Secondly Emitted Radio Wave Strength の Limit 設定

Spurious Emission (Rx) をクリックすると、図 2-40 が表示されます。

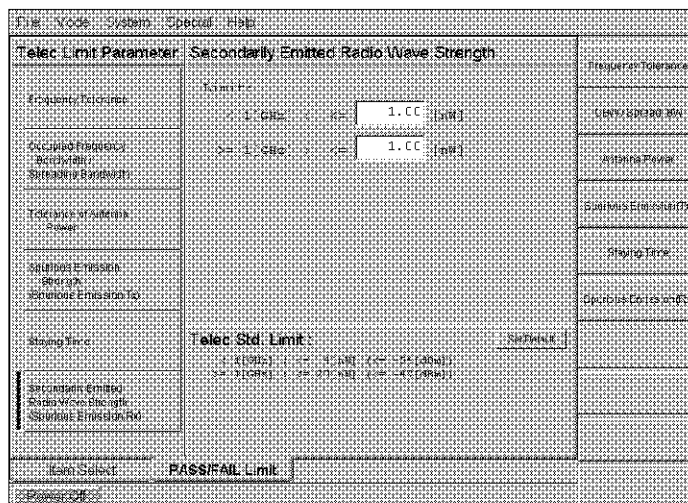


図 2-40 Spurious Emission (Rx) Limit 設定

Spurious level を 1 nW に設定するには、カーソルをテキスト・ボックスに合わせて **1** **ENT** と押すことにより、設定値が 1 nW に置き換わります。

以上で Limit の設定を完了しました。

2.4.2 TELEC テスト

11. メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Measure** を選択します。測定画面に切り替わります (図 2-41 参照)。

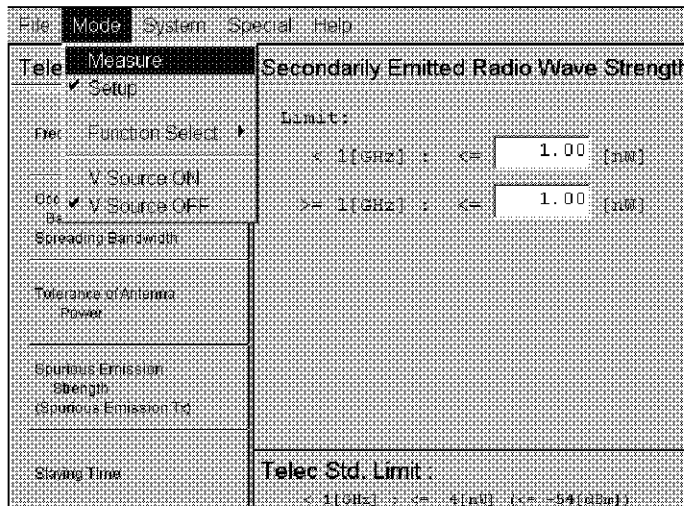


図 2-41 Setup モードから Measure モードへ切り替え

12. テストの実行 - Frequency Tolerance

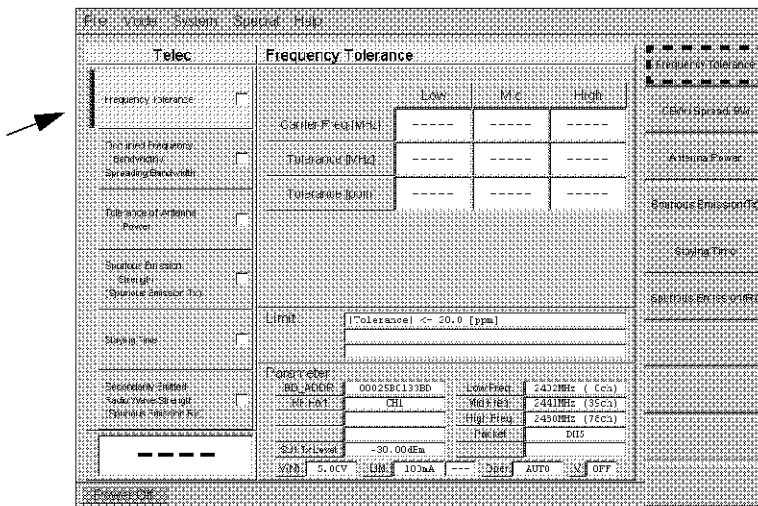


図 2-42 Telec 測定画面

サイド・メニューの **Frequency Tolerance** をクリックすると、テスト項目インジケータに青色のバーが表示されます (図 2-42 の矢印参照)。

次にプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Frequency Tolerance 測定のみを実行します。また、プログラム・ボタンの **START** を押すと TELEC の全測定項目を実行します (測定中にならぬかのエラーが発生すると測定を中止してエラー・メッセージを表示します)。

2.5 動作不良の確認方法

IUT の特性不良の他で、測定結果に FAIL が発生する場合、いくつかの原因が考えられます。

1. 測定パラメータの範囲外の設定
2. 接続ケーブルの断線または接触不良
3. 測定機器の不良

2.5.1 測定パラメータ設定

測定においては設定パラメータの違いにより試験を PASS しない場合が発生します。

例えば、PASS/FAIL 判定用リミット値の設定間違いのような場合には、図 2-32 の 2 の部分にリミット値が表示されていますので設定内容に間違いがないかを確認して下さい。

2.5.2 接続ケーブルの断線または接触不良

測定システムの中で IUT との脱着回数が多いケーブル

- RF ケーブル
- IUT 電源ケーブル
- HCI 用 RS-232 ケーブル

注 接続ケーブルにおいては、断線やコンタクト部分の接触不良などが発生します。特に RF ケーブルは定期的に点検して下さい。

2.5.3 測定機器の不良

システムを構成している R3273 に動作不良がある場合にも、測定結果に悪影響を与えます。

システム・キャリブレーションのほかに R3273 単体でのキャリブレーションも定期的に行って下さい。

キャリブレーションの方法は R3267 シリーズ取扱説明書を参照して下さい。

また、R3273 以外の周辺機器に動作不良がある場合にも、測定結果に悪影響を与えます。

動作不良の確認、およびキャリブレーション等の詳細は、それぞれの機器の取扱説明書を参照して下さい。

3. 各機能の使い方

この章では、以下の項目で、パネル・キーと、ソフト・キーの機能を説明します。

- メニュー・インデックス： 3章のキー索引として活用して下さい。
- メニュー・マップ： パネル・キーのメニュー構成を示します。
- 機能説明： パネル・キーとソフト・キーの機能を説明します。

3.1 メニュー・インデックス

操作キー	参照ページ	操作キー	参照ページ
< Connection Item	3-8, 3-26		3-30
< More	3-7, 3-25	Calibration	3-5, 3-9, 3-13, 3-23, 3-27, 3-33
< More (TRM)	3-6, 3-16, 3-17, 3-24	Carrier Freq. Drift	3-15, 3-19
20dB Bandwidth	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29	Carrier Frequency Drift	3-18
About...	3-5, 3-24	CH1-Input	3-9, 3-13, 3-27
ACL data	3-7, 3-25	CH1-Output	3-9, 3-13, 3-27
ACL Packet Types	3-11	Comment Edit	3-9, 3-13, 3-27, 3-32
Adjacent Channel Power	3-29	Communication Test	3-5, 3-7, 3-11, 3-23, 3-25, 3-30
Adjacent channel power	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24	Connection	3-8, 3-26
Air Cording Format	3-12	Current Measure	3-5, 3-23
Antenna Power	3-7, 3-21, 3-22, 3-25	DC Source (ext)	3-9, 3-13, 3-26, 3-32
Authentication-IUT as Master	3-7, 3-11, 3-25	Delete...	3-5, 3-23
Authentication-IUT as Slave	3-7, 3-11, 3-25	Disconnection	3-8, 3-26
BER	3-8, 3-13, 3-20, 3-26, 3-31	Explorer	3-5, 3-24
Blocking performance	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29, 3-30	File	3-5, 3-23
C/I performance	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29,	FM Deviation	3-8, 3-13, 3-20, 3-26, 3-31
		Frequency Drift	3-6, 3-16, 3-17, 3-24, 3-29
		Frequency Range	3-28, 3-29
		Frequency range	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24
		Frequency Tolerance	3-6, 3-7, 3-16, 3-17,

3.1 メニュー・インデックス

	3-18, 3-21,		3-25
	3-22, 3-24,	LMP_test_control	3-14, 3-19,
	3-25, 3-29		3-30
Function Select	3-5, 3-6,	Load...	3-5, 3-23
	3-7, 3-8,	Low Ch. ALL OFF	3-10, 3-12,
	3-9, 3-10,		3-15, 3-21,
	3-11, 3-12,		3-28, 3-31
	3-13, 3-14,	Low Ch. ALL ON	3-10, 3-12,
	3-15, 3-16,		3-15, 3-21,
	3-17, 3-19,		3-28, 3-30
	3-20, 3-21,	Maximum Input Level	3-6, 3-15,
	3-22, 3-23		3-16, 3-17,
Help	3-5, 3-24		3-18, 3-19,
High Ch. ALL OFF	3-10, 3-12,		3-24, 3-29,
	3-15, 3-21,		3-30
	3-28, 3-31	Measure	3-5, 3-23
High Ch. ALL ON	3-10, 3-12,	Measure Item >	3-8, 3-26
	3-15, 3-21,	Measurement Item ALL OFF	3-10, 3-12,
	3-28, 3-31		3-15, 3-21,
Initial Carrier Freq. Tolerance	3-15, 3-19		3-28, 3-30
Input Cording	3-12	Measurement Item ALL ON	3-10, 3-12,
Input Data Format	3-12		3-15, 3-21,
Input Sample Size	3-12		3-28, 3-30
Inquiry	3-7, 3-11,	Mid Ch. ALL OFF	3-10, 3-12,
	3-25		3-15, 3-21,
Inquiry Scan	3-7, 3-11,		3-28, 3-31
	3-25	Mid Ch. ALL ON	3-10, 3-12,
Interfere1 port	3-9, 3-13,		3-15, 3-21,
	3-27		3-28, 3-31
Interfere2 port	3-9, 3-13,	Mode	3-5, 3-6,
	3-27		3-7, 3-8,
Intermodulation Performance	3-6, 3-15,		3-9, 3-10,
	3-16, 3-17,		3-11, 3-12,
	3-18, 3-19,		3-13, 3-14,
	3-24		3-15, 3-16,
Intermodulation performance	3-29, 3-30		3-17, 3-19,
Item ALL OFF	3-11, 3-13,		3-20, 3-21,
	3-30		3-22, 3-23
Item ALL ON	3-11, 3-13,	Modulation Characteristics	3-6, 3-15,
	3-30, 3-33		3-16, 3-17,
Item Select	3-14, 3-15,		3-18, 3-19,
	3-21, 3-28		3-24, 3-29
IUT Information	3-9, 3-13,	Monitor1 port	3-9, 3-13,
	3-26, 3-32		3-27
IUT Voice Setting	3-12	Monitor2 port	3-9, 3-13,
Liner_PCM_Bit_Pos	3-12		3-27
Link Supervision Timeout-IUT		More >	3-7, 3-25
as Master	3-7, 3-11,	More >(TRC/RCV)	3-6, 3-16,
	3-25		3-17, 3-24
Link Supervision Timeout-IUT		Network Config...	3-5, 3-23
as Slave	3-7, 3-11,	OBW/Spread. BW	3-7, 3-21,

Occupied Frequency Bandwidth/ Spreading Bandwidth	3-22, 3-25	RS-232 Port	3-9, 3-13, 3-26, 3-32
Option	3-5, 3-23	Save...	3-5, 3-23
Out-of-Band Spurious Emissions	3-6, 3-16, 3-24	SCO data-IUT as Master	3-7, 3-11, 3-25
Out-of-band Spurious Emissions	3-29	SCO data-IUT as Slave	3-7, 3-11, 3-25
Output Power	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29	SCO Loopback-IUT as Master	3-8, 3-12, 3-26
Paging-IUT as Master	3-7, 3-11, 3-25	SCO Loopback-IUT as Slave	3-8, 3-12, 3-26
Paging-IUT as Slave	3-7, 3-11, 3-25	SCO Packet Type	3-12
Pairing	3-7, 3-11, 3-25	Secondarily Emitted Radio Wave Strength (Spurious Emission Rx)	3-22
Panel Lock OFF	3-5, 3-24	Sensitivity-multi-slot packets	3-6, 3-15, 3-16, 3-19, 3-24, 3-29
Panel Lock ON	3-5, 3-24	Sensitivity-single slot packets	3-6, 3-15, 3-16, 3-19, 3-24, 3-29
PASS/FAIL Limit	3-14, 3-16, 3-20, 3-21, 3-22, 3-28, 3-31	Sensitivity-single/multi	3-17, 3-18, 3-29
PIN Code	3-12	Set Default	3-10, 3-11, 3-12, 3-13, 3-15, 3-21, 3-28, 3-30, 3-31, 3-33
Power Control	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29	Set Default All	3-19, 3-30
Power Density	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29	Set Default Packets	3-19, 3-30
Power Off	3-5, 3-23	Set Default Poll Period	3-19, 3-30
Power Splitter	3-9, 3-13, 3-27	Set Default Test scenario	3-19, 3-30
Radio Law	3-5, 3-7, 3-21, 3-22, 3-23, 3-25, 3-30	Setup	3-5, 3-23
Receiver Test (BER,PER)	3-17, 3-18, 3-29	SIG RF	3-5, 3-6, 3-10, 3-14, 3-15, 3-16, 3-17, 3-19, 3-23, 3-24, 3-28
Remote Loopback	3-5, 3-8, 3-12, 3-23, 3-26, 3-31	Special	3-5, 3-24
RF Measurement	3-5, 3-8, 3-13, 3-20, 3-23, 3-26, 3-31	Spurious Emission (Rx)	3-7, 3-21, 3-22, 3-26
		Spurious Emission (Tx)	3-7, 3-21, 3-22, 3-26
		Spurious Emission Strength (Spurious Emission Tx)	3-22
		Spurious Emissions	3-15, 3-19
		Spurious Emissions (ETS)	3-17, 3-18, 3-29
		Spurious Emissions (FCC)	3-17, 3-18, 3-29
		Staying Time	3-7, 3-21,

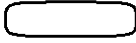
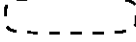

3.1 メニュー・インデックス

	3-22, 3-26
System	3-5, 3-23
System Configuration	3-9, 3-13, 3-27, 3-32
System Setup	3-5, 3-9, 3-13, 3-23, 3-26, 3-32
Telec	3-5, 3-7, 3-21, 3-22, 3-23, 3-25, 3-30
Test Parameter	3-14, 3-17, 3-20, 3-29, 3-31
Time Adjust... ..	3-5, 3-24
Tolerance of Antenna Power	3-22
Utility	3-5, 3-8, 3-12, 3-13, 3-20, 3-23, 3-26, 3-31
V Source OFF	3-5, 3-23
V Source ON	3-5, 3-23

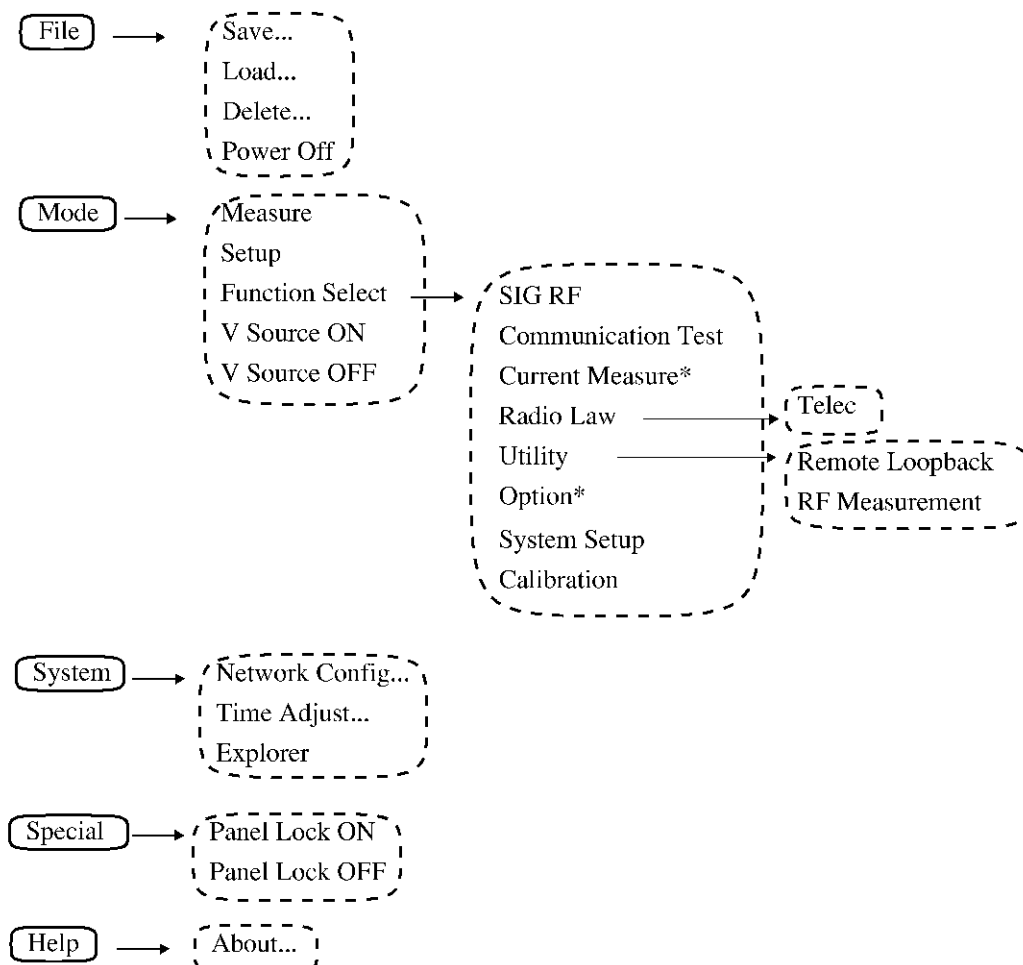
3.2 メニュー・マップ

ここでは、メイン・メニュー、ドロップダウン・メニュー、サイド・メニュー、タブのメニュー構成を示します。

注

-  は、メイン・メニューを示します。
-  は、ドロップダウン・メニューを示します。
-  は、ダイアログ・ボックスを示します。
- * の付いたメニューはサポートされていません。

3.2.1 メイン・メニューとドロップダウン・メニュー

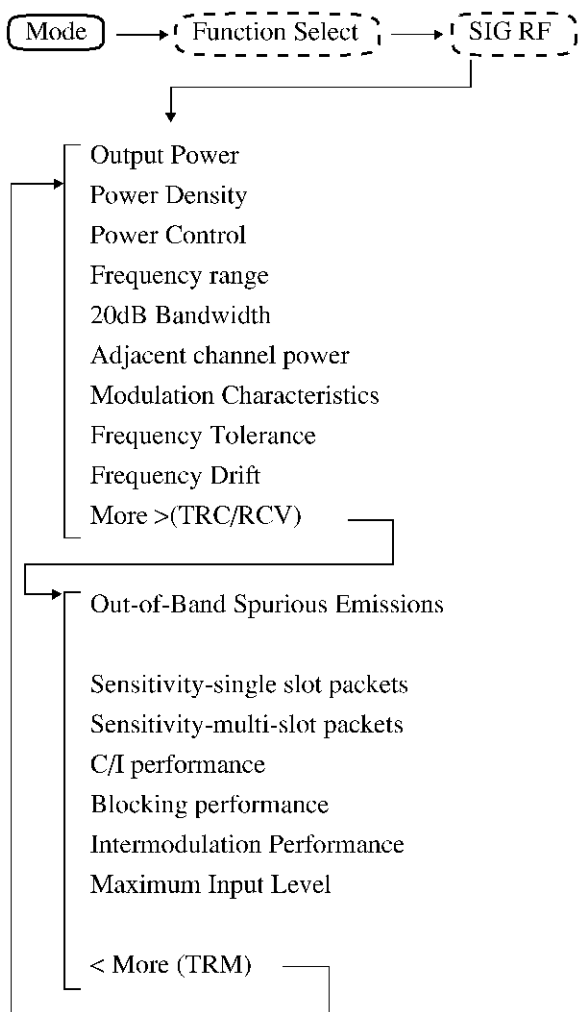


3.2.2 サイド・メニュー

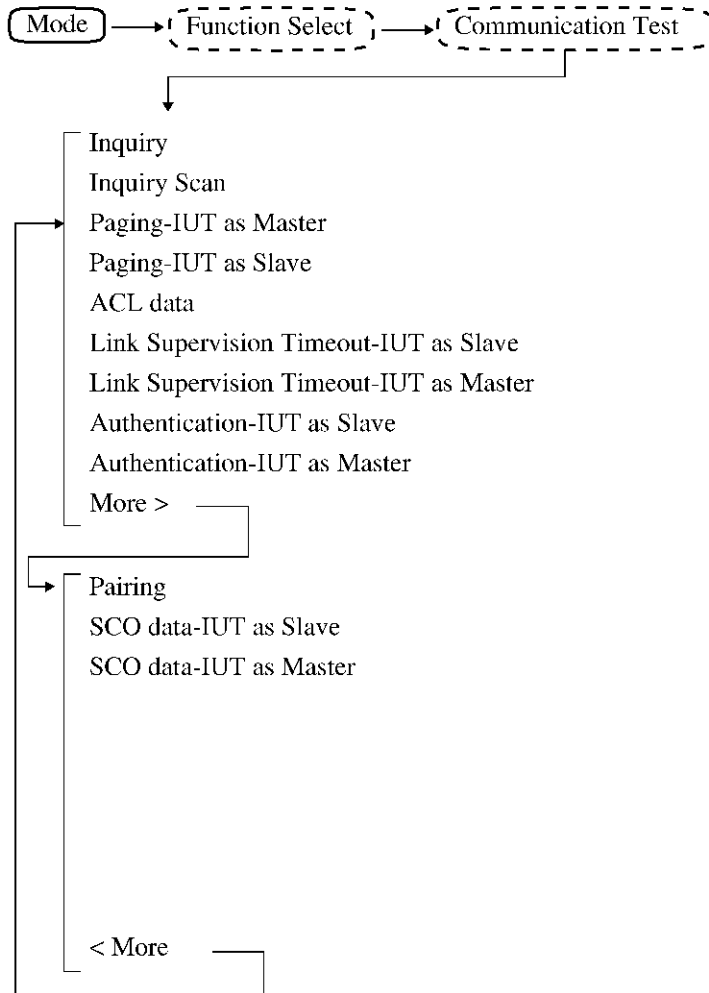
3.2.2 サイド・メニュー

1. Measure モードのメニュー

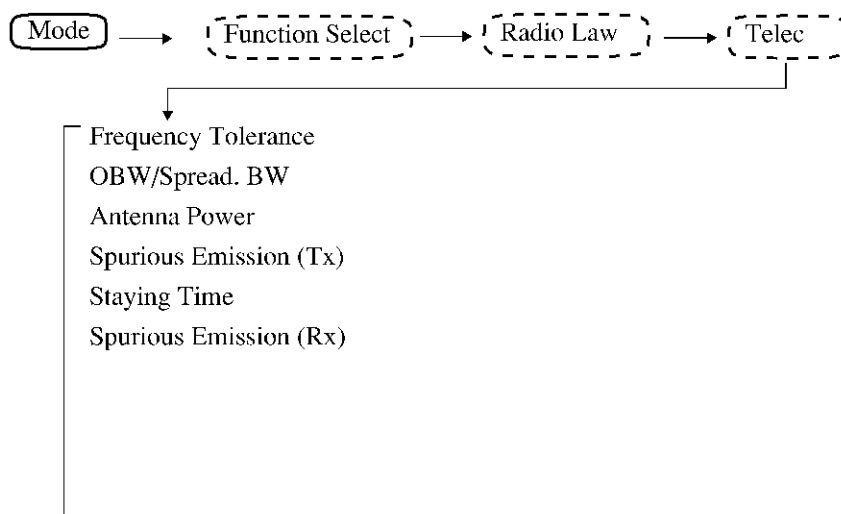
a. SIG RF



b. Communication Test

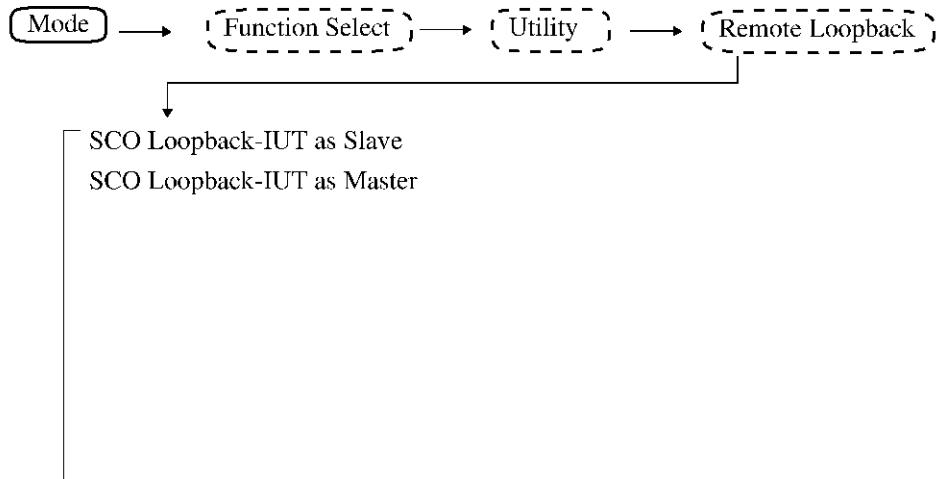


c. Telec

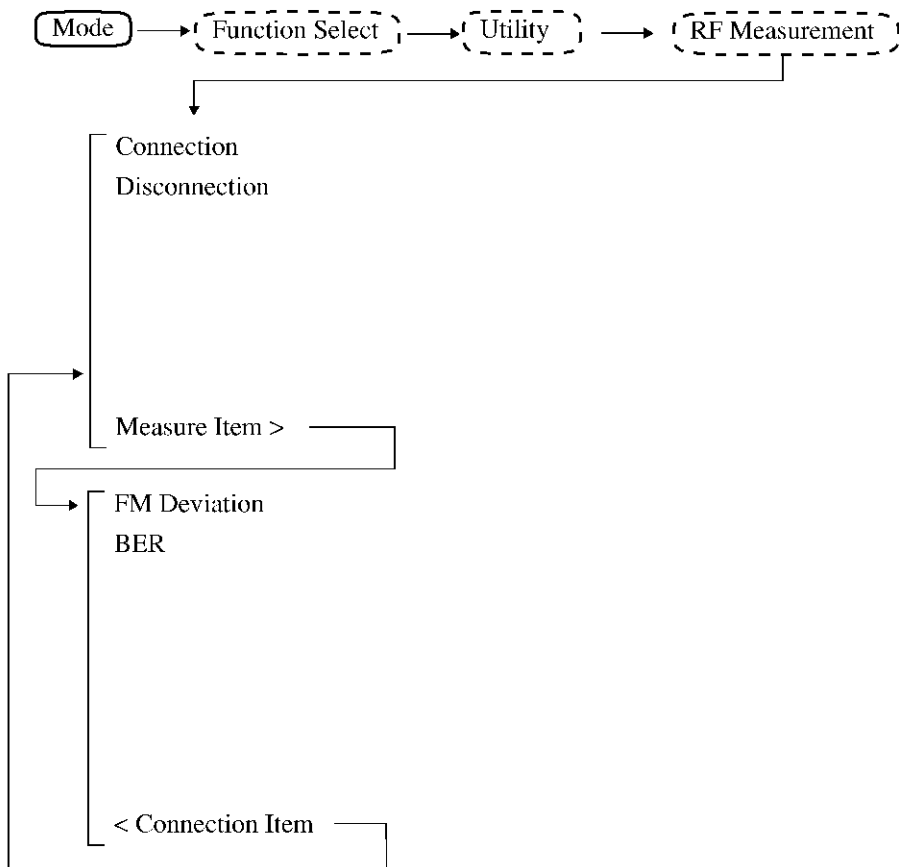


3.2.2 サイド・メニュー

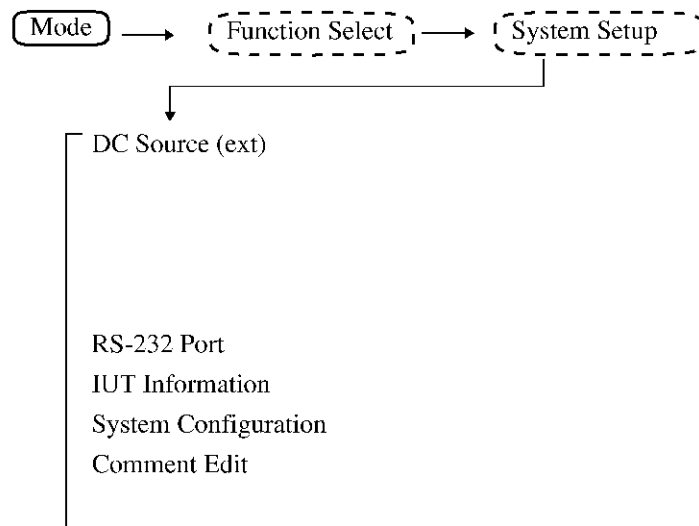
d. Remote Loopback



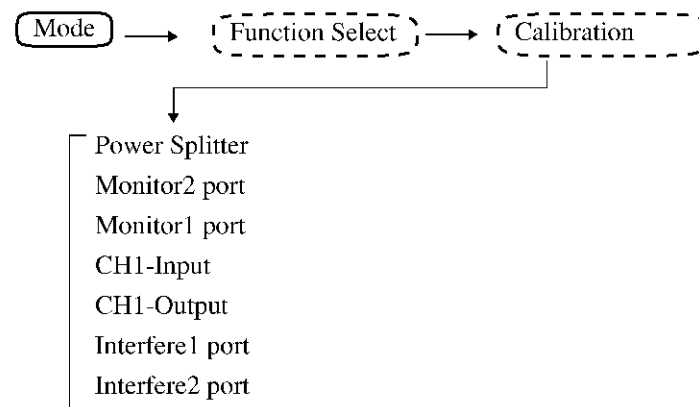
e. RF Measurement



f. System Setup



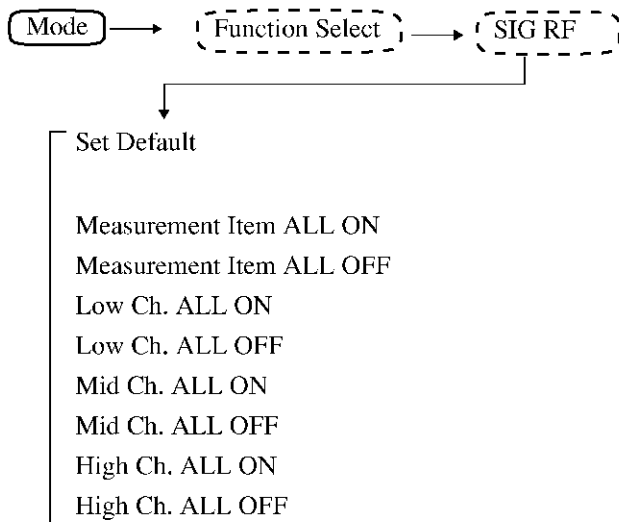
g. Calibration



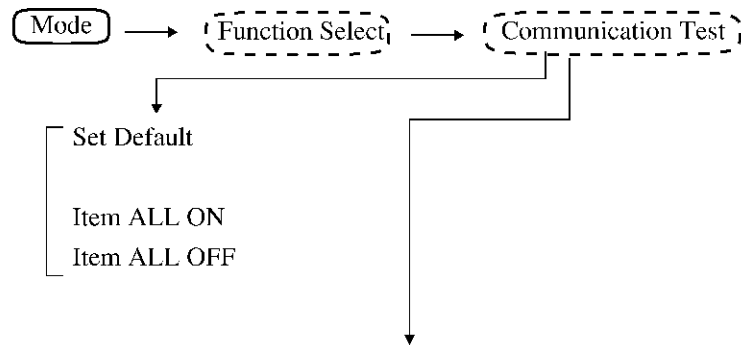
3.2.2 サイド・メニュー

2. Setup モードのメニュー

a. SIG RF



b. Communication Test

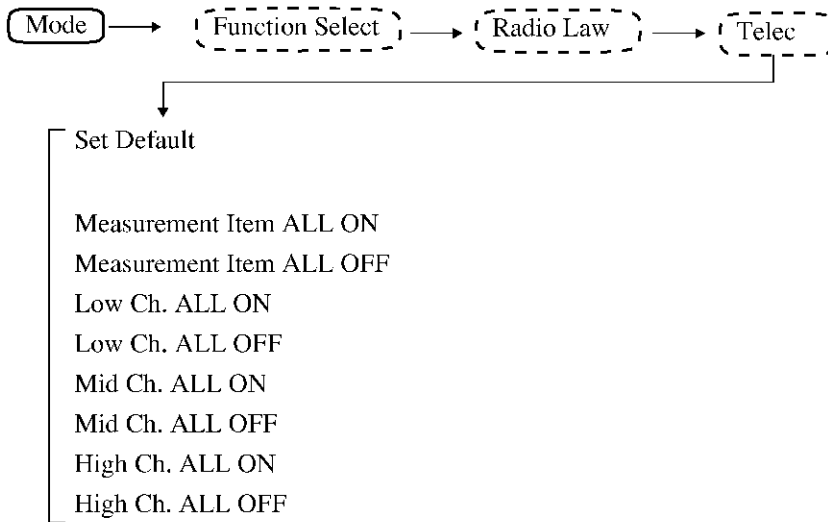


Communication Test – Setup

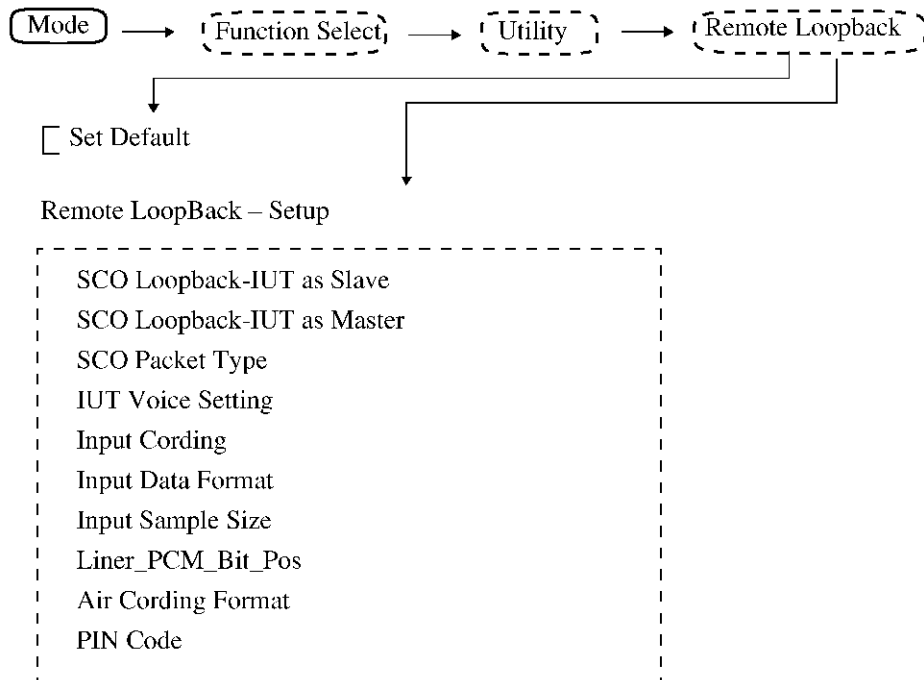
Inquiry
Inquiry_Length
Inquiry Scan
Inquiry_Length
Paging- IUT as Master
Page_Scan_Repetition_Mode
Paging- IUT as Slave
Page_Scan_Repetition_Mode
ACL Packet Types
Packet_Type
Payload_Body
Link Supervision Timeout-IUT as Slave
Link_Supervision_Timeout
Link Supervision Timeout-IUT as Master
Link_Supervision_Timeout
Authentication-IUT as Slave
Page_Scan_Repetition_Mode
Authentication-IUT as Master
Page_Scan_Repetition_Mode
Pairing
Page_Scan_Repetition_Mode
PIN_Code(MAX HEX 32characters)
SCO data-IUT as Slave
Packet_Type
SCO data-IUT as Master
Packet_Type

3.2.2 サイド・メニュー

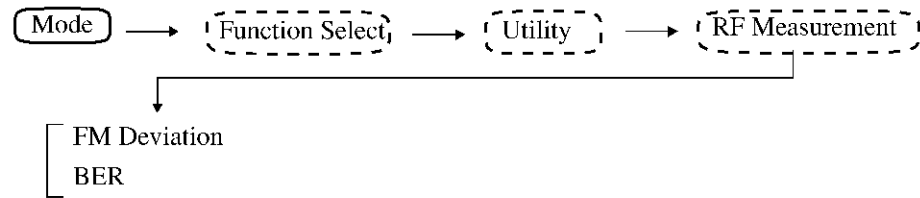
c. Telec



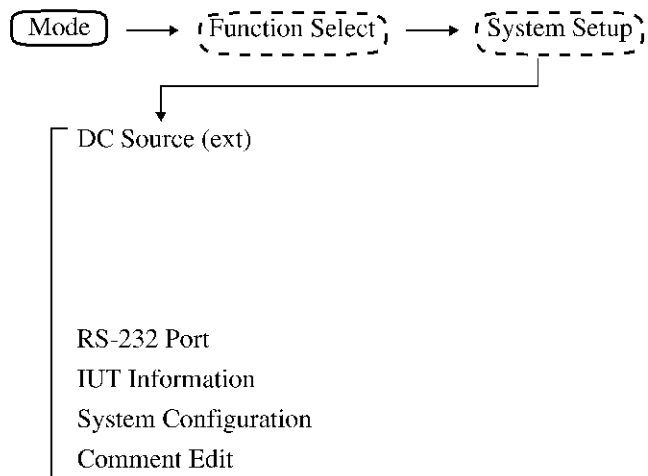
d. Remote Loopback



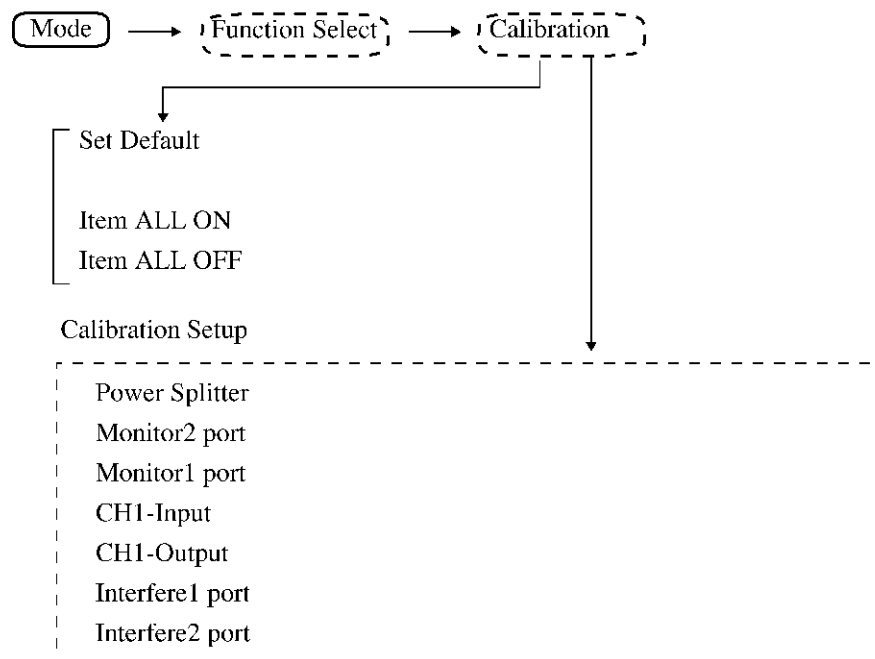
e. RF Measurement



f. System Setup



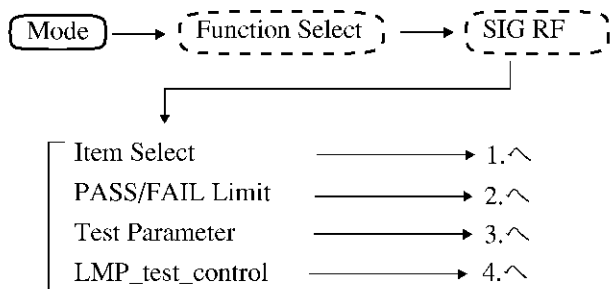
g. Calibration



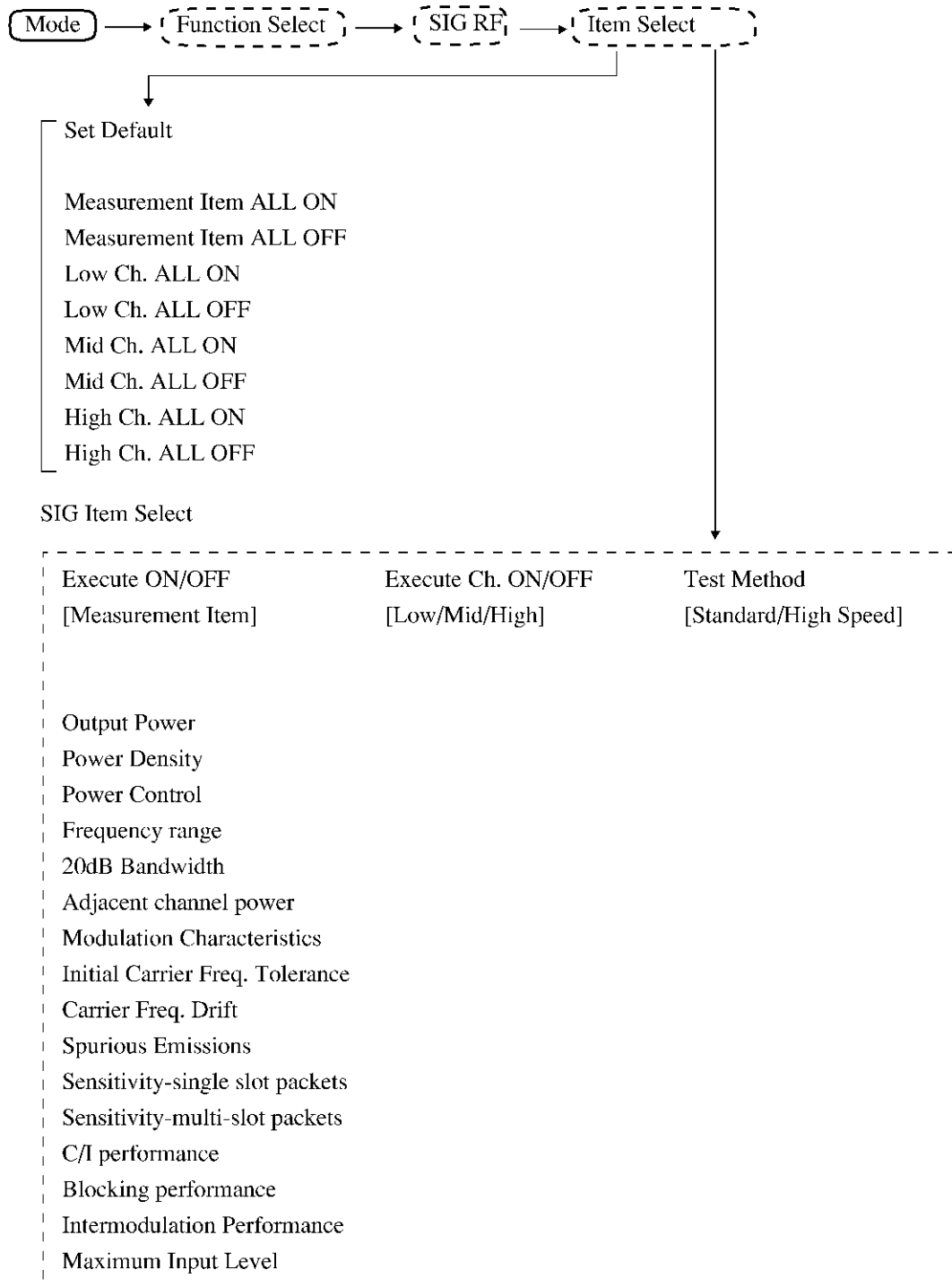
3.2.3 タブ・メニュー

3.2.3 タブ・メニュー

3.2.3.1 SIG RF

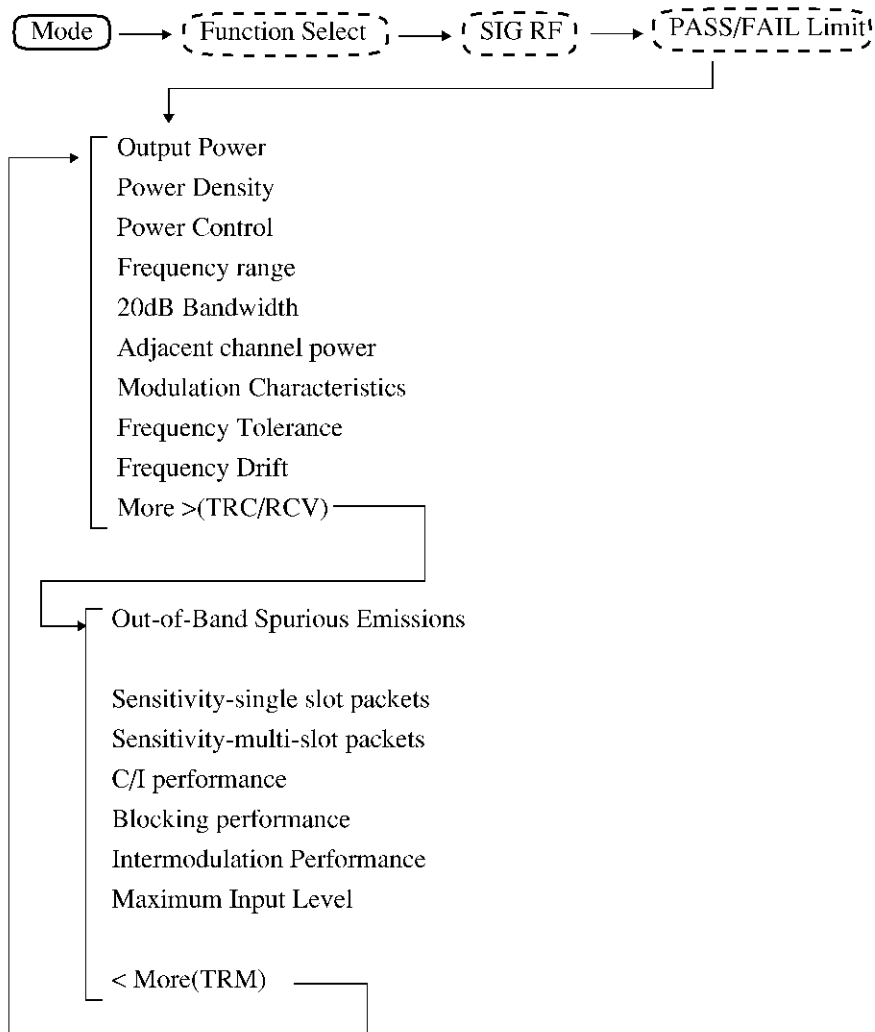


1. Item Select タブ



3.2.3 タブ・メニュー

2. PASS/FAIL Limit タブ

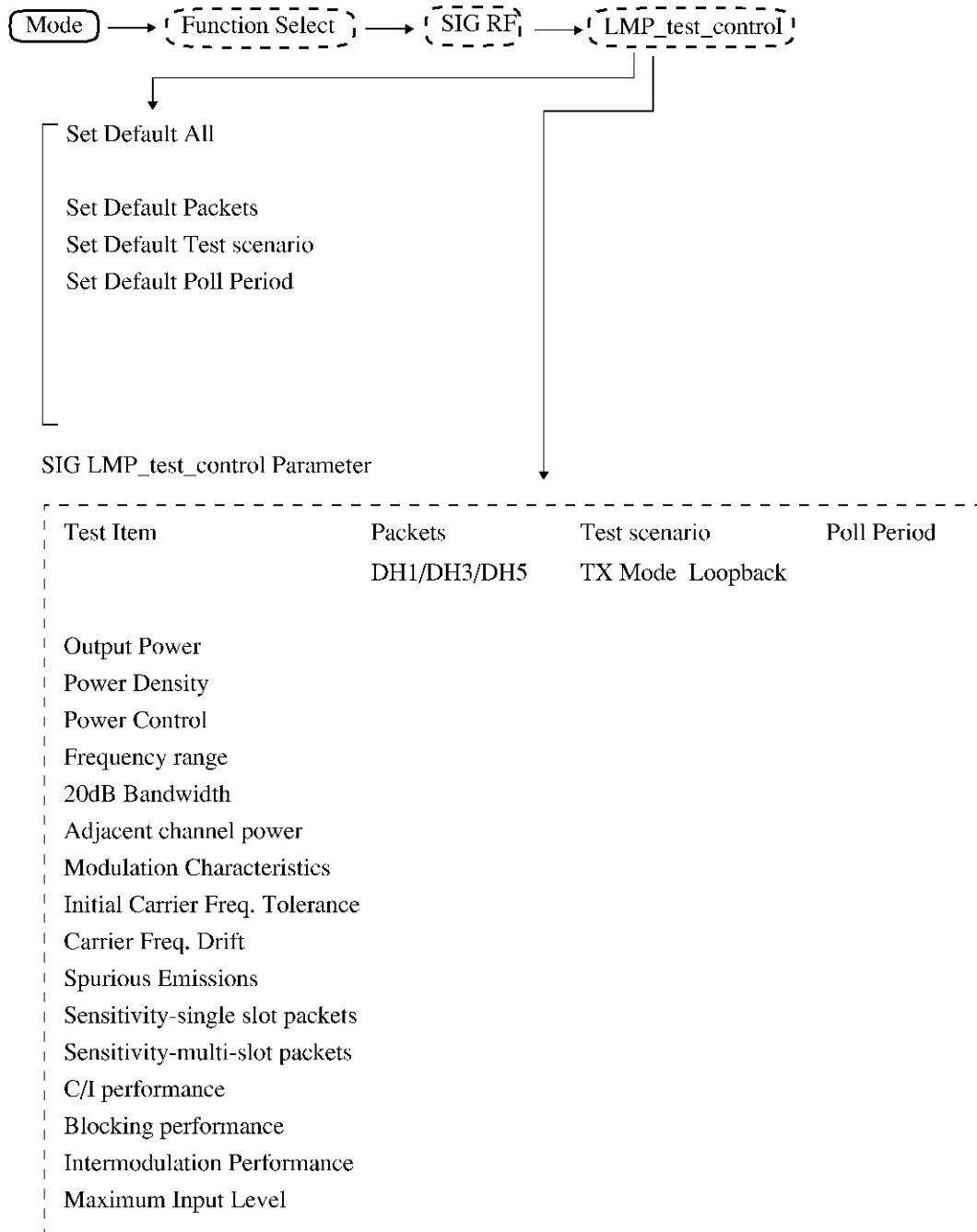


3.2.3 タブ・メニュー

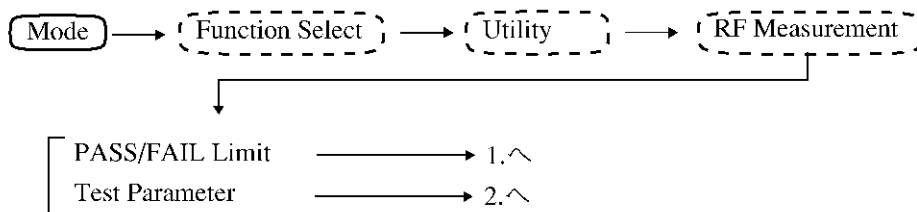
SIG Test Parameter

Output Power	Start Point, Stop Point, Leading and trading point, Average Count
Power Density	Standard: Peak Frequency, Peak Power High Speed: Peak Frequency, Peak Power
Power Control	Step Number, Minimum Level: Standard, High Speed, Wait time out, Judgement: Step number, Minimum Level
Frequency Range	Frequency Range Level, Sweep Count
20dB Bandwidth	Bandwidth Level
Adjacent channel power	Number of Adjacent Channel
Modulation Characteristics	Sample Packets, Gain of frequency deviation, Average frequency calculation
Frequency Tolerance	Sample Packets Select Hopping Mode: Hopping ON/OFF
Carrier Frequency Drift	Sample Packets Select Hopping Mode: Hopping ON/OFF
Spurious Emissions (ETS)	Meas Range (Standard), Meas Point (HighSpeed), Standby Mode
Spurious Emissions (FCC)	Meas Range (Standard), Meas Point (HighSpeed)
Receiver Test (BER,PER)	Standard, High Speed, PER Calculation: HEC and Access Code HEC, Access Code and include Data payload error packets
Sensitivity-single/multi	Dirty ON/OFF, TX Level
C/I Performance	Image Frequency, Interfering Level, Wanted Level
Blocking Performance	Wanted Signal Level, Interfering Signal Level 1/2/3
Intermodulation Performance	Wanted Signal Level,f1 Signal level,f2 Signal Level
Maximum Input Level	TX Level

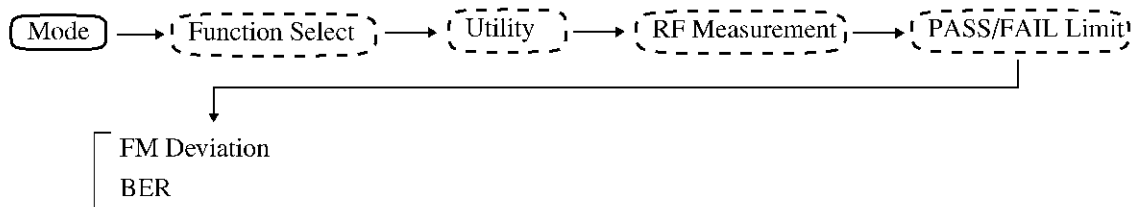
4. LMP_test_control タブ



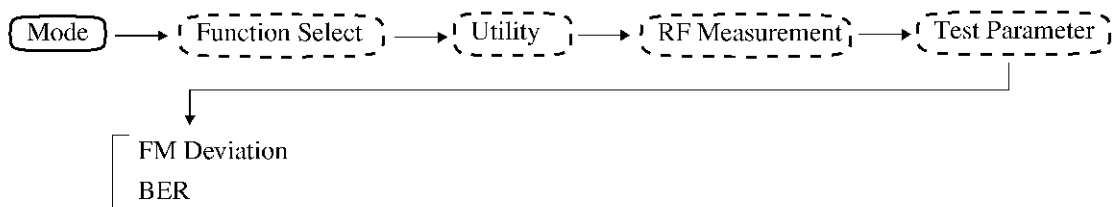
3.2.3.2 RF Measurement



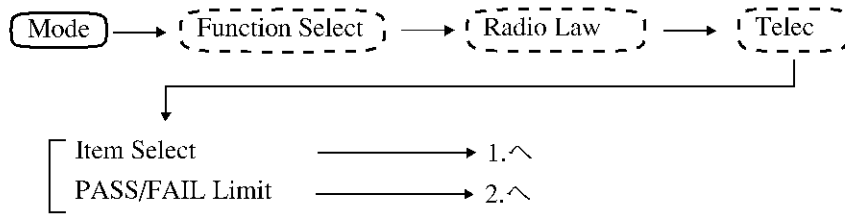
1. PASS/FAIL Limit タブ



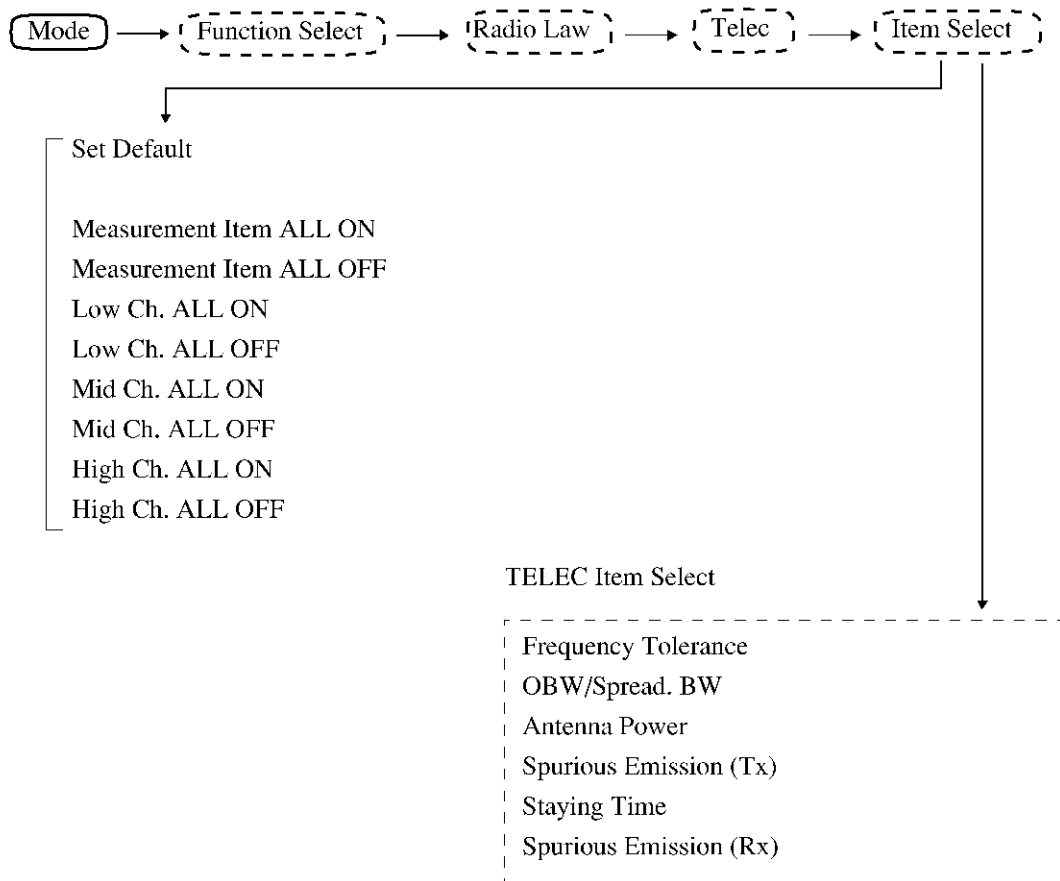
2. Test Parameter タブ



3.2.3.3 TELEC

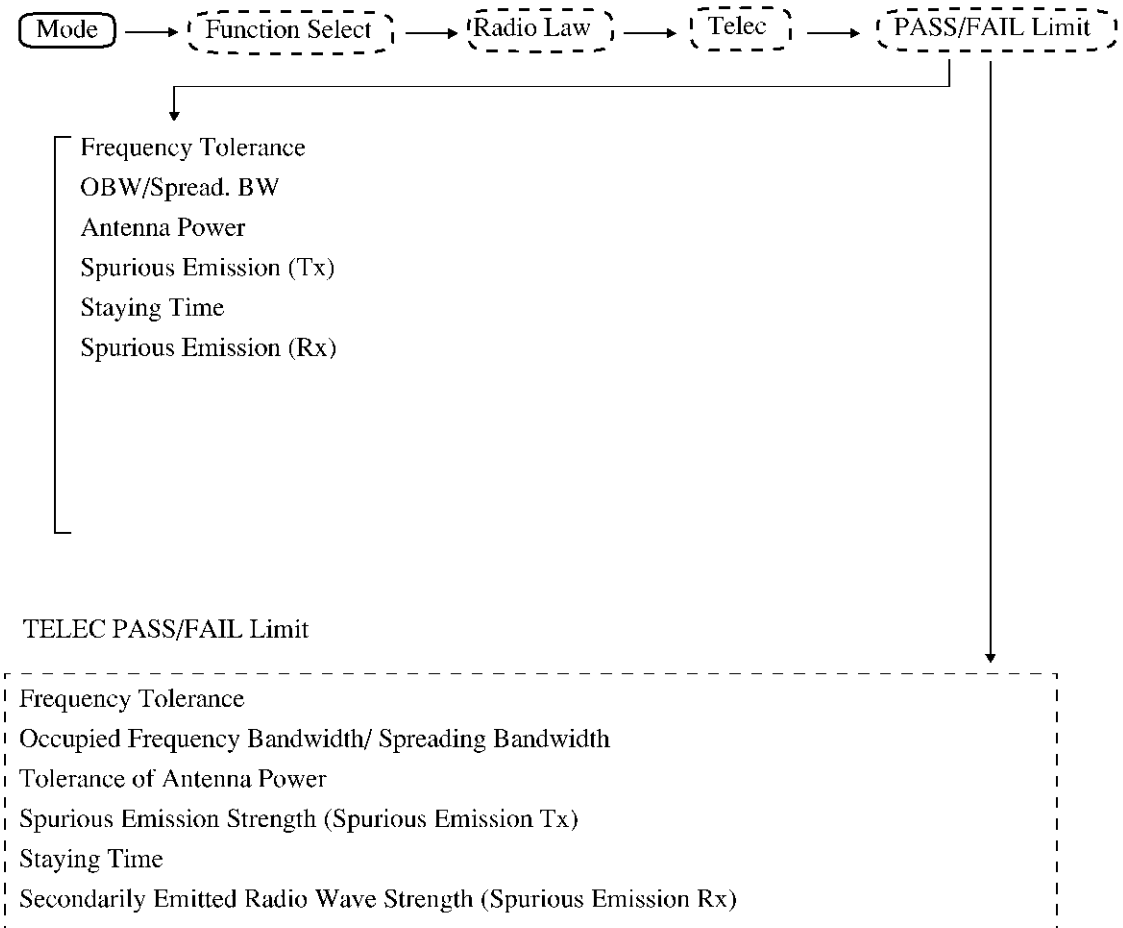


1. Item Select タブ



3.2.3 タブ・メニュー

2. PASS/FAIL Limit タブ



3.3 機能説明

ここでは、各メニューの機能を説明します。

3.3.1 メイン・メニューの説明

File	ファイルの操作に関するメニューおよび本器の終了に関するメニューをドロップダウン・メニューで表示します。
Save...	ファイルを保存するメニューを表示します。
Load...	ファイルを読み出すメニューを表示します。
Delete...	ファイルを削除するメニューを表示します。
Power Off	本器を終了するダイアログ・ボックスを表示します。
Mode	テストにかかわる本器のモードを切り替えます。
Measure	各テストにおける実行画面を表示します。
Setup	各テストにおける条件設定メニューを表示します。
Function Select	テストの種類やシステムの設定を選択するメニューを表示します。
SIG RF	Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト・メニューを表示します。
Communication Test	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のテスト・メニューを表示します。
Current Measure*	現在サポートされていません。
Radio Law	
Telec	TELEC のテスト・メニューを表示します。
Utility	
Remote Loopback	Remote Loopback の評価メニューを表示します。
RF Measurement	RF measurement のテスト・メニューを表示します。
Option*	現在サポートされていません。
System Setup	テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。
Calibration	システム・キャリブレーション・メニューを表示します。
V Source ON	DC 電源装置の出力を ON します。
V Source OFF	DC 電源装置の出力を OFF します。
System	システム機能を設定するメニューを表示します。
Network Config...	Network config ダイアログ・ボックスを表示します。

3.3.2 サイド・メニューの説明

<i>Time Adjust...</i>	Time Adjust ダイアログ・ボックスを表示します。
<i>Explorer</i>	ファイル操作環境 (Explorer) を表示します。
<i>Special</i>	
<i>Panel Lock ON</i>	Panel を Lock します。
<i>Panel Lock OFF</i>	Panel Lock を外します。
<i>Help</i>	
<i>About...</i>	「本器について」の説明をするメニューを表示します。

3.3.2 サイド・メニューの説明

1. Measure モードのメニュー
 - a. SIG RF

SIG RF	Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト・メニューを表示します。
<i>Output Power</i>	Output Power のテストを実行します。
<i>Power Density</i>	Power Density のテストを実行します。
<i>Power Control</i>	Power Control のテストを実行します。
<i>Frequency range</i>	Frequency Range のテストを実行します。
<i>20dB Bandwidth</i>	20dB Bandwidth のテストを実行します。
<i>Adjacent channel power</i>	Adjacent Channel Power のテストを実行します。
<i>Modulation Characteristics</i>	Modulation Characteristics のテストを実行します。
<i>Frequency Tolerance</i>	Initial Carrier Frequency Tolerance のテストを実行します。
<i>Frequency Drift</i>	Carrier Frequency Drift のテストを実行します。
<i>More >(TRC/RCV)</i>	送信、受信テスト・メニューの続きを表示します。
<i>Out-of-Band Spurious Emissions</i>	Out-of-Band Spurious Emissions のテストを実行します。
<i>Sensitivity-single slot packets</i>	Sensitivity-single slot packets のテストを実行します。
<i>Sensitivity-multi-slot packets</i>	Sensitivity-multi-slot packets のテストを実行します。
<i>C/I Performance</i>	C/I Performance のテストを実行します。
<i>Blocking performance</i>	Blocking performance のテストを実行します。
<i>Intermodulation Performance</i>	Intermodulation Performance のテストを実行します。
<i>Maximum Input Level</i>	Maximum Input Level のテストを実行します。
<i>< More (TRM)</i>	送信テスト・メニューに戻ります。

b. Communication Test

Communication Test	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のテスト・メニューを表示します。
Inquiry	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Inquiry のテストを実行します。
Inquiry Scan	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Inquiry-Scan のテストを実行します。
Paging-IUT as Master	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Paging-IUT as Master のテストを実行します。
Paging-IUT as Slave	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Paging-IUT as Slave のテストを実行します。
ACL data	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の ACL Packet Types のテストを実行します。
Link Supervision Timeout-IUT as Slave	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Link Supervision Timeout-IUT as Slave のテストを実行します。
Link Supervision Timeout-IUT as Master	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Link Supervision Timeout-IUT as Master のテストを実行します。
Authentication-IUT as Slave	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Authentication-IUT as Slave のテストを実行します。
Authentication-IUT as Master	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Authentication-IUT as Master のテストを実行します。
More >	残りの Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases のメニューを表示します。
Pairing	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の Pairing のテストを実行します。
SCO data-IUT as Slave	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の SCO data-IUT as Slave を実行します。
SCO data-IUT as Master	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の SCO data-IUT as Master を実行します。
<More	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases の実行初期メニューに戻ります。

c. Telec

Radio Law

Telec	TELEC のテスト・メニューを表示します。
Frequency Tolerance	Frequency Tolerance のテストを実行します。
OBW/Spread. BW	OBW/Spread. BW のテストを実行します。
Antenna Power	Antenna Power のテストを実行します。

3.3.2 サイド・メニューの説明

Spurious Emission (Tx) Spurious Emission(Tx) のテストを実行します。

Staying Time Staying Time のテストを実行します。

Spurious Emission (Rx) Spurious Emission(Rx) のテストを実行します。

d. Utility

Utility

Remote Loopback	SCO Loopback のテスト・メニューを表示します。
SCO Loopback-IUT as Slave	SCO Loopback-IUT as Slave のテストを実行します。
SCO Loopback-IUT as Master	SCO Loopback-IUT as Master のテストを実行します。
RF Measurement	RF Measurement テスト・メニューを表示します。
Connection	Connection を実行します。
Disconnection	Disconnection を実行します。
Measure Item >	Measure Item メニューを表示します。
FM Deviation	FM Deviation を実行します。
BER	BER を実行します。
< Connection Item	Connection Item メニューを表示します。

e. System Setup

System Setup

System Setup	テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。
DC Source (ext)	DC 電源装置の設定メニューを表示します。
RS-232 Port	HCI (Host Control Interface) の設定メニューを表示します。
IUT Information	被測定物 IUT の Information にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
	Channel Number Assignment: 79 チャンネル / 23 チャンネルのうち、どちらかを選択します。
	Power Class: RF 送信電力の最大出力クラスを設定します。
	IUT Control: 被測定物の制御方法を設定します。 ON の場合、本器背面パネルの RS-232 ラインを IUT の HCI として使用します。 OFF の場合、IUT は RS-232 から制御されません。
	Select IUT Information Method: 被測定物のボード・アドレスの取得方法を設定します。

	IUT BD Address:	Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。
	Support Packet:	Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。
System Configuration		本器の System Setup にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
	設定項目	RFCH1の外部Cable Loss RFCH2の外部Cable Loss Tx Signal Level Tx Signal Modulation Index 内部Signaling Unit 1のBD Address Test Channel(Frequency or Channel) Test Channel Low/Mid/High 10 MHz Reference
Comment Edit		以下の項目は、テスト・データにコメントを編集しておくことができます。
		Unit Name Lot Number Device Number Device Number Auto Increment User Comment
f. Calibration		
Calibration		測定システムの信号伝送経路のキャリブレーション・メニューを表示します。
Power Splitter		Power Splitter のポートのキャリブレーションを実行します。
Monitor2 port		IUT 接続ケーブルと Monitor2 port 接続ケーブルを含めたキャリブレーションを実行します。
Monitor1 port		IUT 接続ケーブルと Monitor1 port 接続ケーブルを含めたキャリブレーションを実行します。
CH1-Input		IUT 接続ケーブルを含めた本器への上り通信経路のキャリブレーションを実行します。
CH1-Output		IUT 接続ケーブルを含めた本器への下り通信経路のキャリブレーションを実行します。
Interfere1 port		IUT 接続ケーブルと Interfere1 port 接続ケーブルを含めたキャリブレーションを実行します。
Interfere2 port		IUT 接続ケーブルと Interfere2 port 接続ケーブルを含めたキャリブレーションを実行します。

3.3.2 サイド・メニューの説明

2. Setup モードのメニュー

a. SIG RF

SIG RF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにかかわる Setup メニューを表示します。以下のメニューをそれぞれ選択することにより、詳細を設定できます。

Item Select

テスト項目の選択メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

Set Default

Bluetooth™ SIG RF Test Specification にかかわる 18 項目の設定を Default 値に設定します。

Measurement Item ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト項目をすべて ON に設定します。

Measurement Item ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテスト項目をすべて OFF に設定します。

Low Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルをすべて Low に設定します。

Low Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける、実行チャンネルの Low の設定をすべて外します。

Mid Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルをすべて Mid に設定します。

Mid Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける、実行チャンネルの Mid の設定をすべて外します。

High Ch. ALL ON

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける実行チャンネルをすべて High に設定します。

High Ch. ALL OFF

Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストにおける、実行チャンネルの High の設定をすべて外します。

PASS/FAIL Limit

テストの判定値の設定メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

Output Power

Output Power の PASS/FAIL の Limit を設定します。

Power Density

Power Density の PASS/FAIL の Limit を設定します。

Power Control

Power Control の PASS/FAIL の Limit を設定します。

Frequency Range

Frequency Range の PASS/FAIL の Limit を設定します。

20dB Bandwidth

20dB Bandwidth の PASS/FAIL の Limit を設定します。

<i>Adjacent Channel Power</i>	Adjacent Channel Power の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Modulation Characteristics</i>	Modulation Characteristics の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Frequency Tolerance</i>	Frequency Tolerance の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Frequency Drift</i>	Frequency Drift の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Out-of-band Spurious Emissions</i>	Out-of-band Spurious Emissions の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Sensitivity-single slot packets</i>	Sensitivity-single slot packets の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Sensitivity-multi-slot packets</i>	Sensitivity-multi-slot packets の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>C/I performance</i>	C/I performance の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Blocking performance</i>	Blocking performance の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Intermodulation performance</i>	Intermodulation performance の PASS/FAIL の Limit を設定します。
<i>Maximum Input Level</i>	Maximum Input Level の PASS/FAIL の Limit を設定します。

Test Parameter

テストのための Parameter の設定メニューを表示します。
テスト条件画面を切り替えるために使用します。

注 Bluetooth™ SIG RF Test Specification のテストを行うときのみ表示されます。

<i>Output Power</i>	Output Power の Test Parameter を設定します。
<i>Power Density</i>	Power Density の Test Parameter を設定します。
<i>Power Control</i>	Power Control の Test Parameter を設定します。
<i>Frequency Range</i>	Frequency Range の Test Parameter を設定します。
<i>20dB Bandwidth</i>	20dB Bandwidth の Test Parameter を設定します。
<i>Adjacent Channel Power</i>	Adjacent Channel Power の Test Parameter を設定します。
<i>Modulation Characteristics</i>	Modulation Characteristics の Test Parameter を設定します。
<i>Frequency Tolerance</i>	Frequency Tolerance の Test Parameter を設定します。
<i>Frequency Drift</i>	Frequency Drift の Test Parameter を設定します。
<i>Spurious Emissions (ETS)</i>	Spurious Emissions (ETS) の Test Parameter を設定します。
<i>Spurious Emissions (FCC)</i>	Spurious Emissions (FCC) の Test Parameter を設定します。
<i>Receiver Test (BER,PER)</i>	Receiver Test の Test Parameter を設定します。
<i>Sensitivity-single/multi</i>	Sensitivity-single/multi の Test Parameter を設定します。

3.3.2 サイド・メニューの説明

<i>C/I performance</i>	C/I performance の Test Parameter を設定します。
<i>Blocking performance</i>	Blocking performance の Test Parameter を設定します。
<i>Intermodulation performance</i>	Intermodulation performance の Test Parameter を設定します。
<i>Maximum Input Level</i>	Maximum Input Level の Test Parameter を設定します。
LMP test control	
<i>Set Default All</i>	Bluetooth™ SIG RF 測定時の通信条件を設定します。
<i>Set Default Packets</i>	Packet Type, Test scenario, Poll Period をすべて Default 値に戻します。
<i>Set Default Test scenario</i>	Test scenario をすべて Default 値に戻します。
<i>Set Default Poll Period</i>	Poll Period をすべて Default 値に戻します。
b. Communication Test	
Communication Test	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。
	設定項目 Item Select Inquiry_Length Page_Scan_Repetition_Mode Packet_Type Payload_Body Link_Supervision_Timeout PIN_Code
<i>Set Default</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわる 7 項目の設定を Default 値に設定します。
<i>Item ALL ON</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるテスト項目をすべて ON に設定します。
<i>Item ALL OFF</i>	Bluetooth™ SIG Blue Unit Test Cases にかかわるテスト項目をすべて OFF に設定します。
c. Telec	
Radio Law	
<i>Telec</i>	TELEC テストにかかわる Setup メニューを表示します。以下のメニューをそれぞれ選択することにより、詳細を設定できます。
<i>Set Default</i>	Telec にかかわる 6 項目の設定を Default 値に設定します。
<i>Measurement Item ALL ON</i>	Telec のテスト項目をすべて ON にします。
<i>Measurement Item ALL OFF</i>	Telec のテスト項目をすべて OFF にします。
<i>Low Ch. ALL ON</i>	Telec のテストにおける実行チャンネルをすべて Low に設

	定めます。
Low Ch. ALL OFF	Telec のテストにおける実行チャンネルの Low の設定をすべて外します。
Mid Ch. ALL ON	Telec のテストにおける実行チャンネルをすべて Mid に設定します。
Mid Ch. ALL OFF	Telec のテストにおける実行チャンネルの Mid の設定をすべて外します。
High Ch. ALL ON	Telec のテストにおける実行チャンネルをすべて High に設定します。
High Ch. ALL OFF	Telec のテストにおける実行チャンネルの High の設定をすべて外します。
d. Utility	
Utility	
Remote Loopback	SCO Loopback の Setup メニューを表示します。
Set Default	SCO Loopback にかかわる 4 項目の設定を Default 値に設定します。 設定項目 SCO Loopback-IUT as Slave SCO Loopback-IUT as Master SCO Packet Type IUT Voice Setting
RF Measurement	RF Measurement にかかわるメニューを表示します。
PASS/FAIL Limit	テストの判定値の設定メニューを表示します。 テスト条件を切り替えるために使用します。
	注 Utility の RF measurement のテストを行うときのみ表示されます。
FM Deviation	FM Deviation にかかわる項目 PASS/FAIL の Limit の設定をします。
BER	BER の PASS/FAIL の Limit の設定をします。
Test Parameter	テストの Parameter の設定メニューを表示します。 テスト条件画面を切り替えるために使用します。
	注 Utility の RF measurement のテストを行うときのみ表示されます。
FM Deviation	FM Deviation の Parameter の設定をします。
BER	BER の Test Parameter の設定をします。

3.3.2 サイド・メニューの説明

e. System Setup

System Setup

テストにかかわる本器と IUT、テスト用コメント・メニューを表示します。

DC Source (ext)

DC 電源装置の設定メニューを表示します。

RS-232 Port

HCI(Host Control Interface) の設定メニューを表示します。

IUT Information

被測定物 IUT の Information にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。

Channel Number Assignment:

79 チャンネル / 23 チャンネルのうち、どちらかを選択します。

Power Class:

RF 送信電力の最大出力クラスを設定します。

IUT Control:

被測定物の制御方法を設定します。
ONの場合、本器背面パネルのRS-232 ラインを IUT の HCI として使用します。
OFFの場合、IUT はRS-232 から制御されません。

Select IUT Information Method:

被測定物のボード・アドレスの取得方法を設定します。

IUT BD Address:

Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。

Support Packet:

Select IUT Information Method を User Setting に設定した場合、入力可能です。

System Configuration

本器の System Setup にかかわるダイアログ・ボックスのメニューを表示します。

設定項目 RFCH1の外部Cable Loss
RFCH2の外部Cable Loss
Tx Signal Level
Tx Signal Modulation Index
内部Signaling Unit 1のBD Address
Test Channel(Frequency or Channel)
Test Channel Low/Mid/High
10MHz Reference

Comment Edit

以下の項目は、テスト・データにコメントを編集しておくことができます。

Unit Name
Lot Number
Device Number
Device Number Auto Increment
User Comment

f. Calibration

Calibration

システムの Calibration にかかわる Setup メニューを表示します。

Set Default

システム Calibration にかかわる 7 項目の設定を Default に設定します。

Item ALL ON

システム Calibration にかかわる 7 項目の設定をすべて ON にします。

Item ALL OFF

システム Calibration にかかわる 7 項目の設定をすべて OFF にします。

3.4 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲

3.4 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲

1. RF ポート CH1

表 3-1 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 CH1 (1/2)

規格	テスト項目	設定範囲		Note-1	Note-2
TRM/CA/01/C	Output power	Average Power	+25 dBm ~ -33 dBm	Class 1-3 同じ	
		Peak Power	+25 dBm ~ -30 dBm	Class 1-3 同じ	
TRM/CA/02/C	Power Density	Power Density	+25 dBm ~ -30 dBm		
TRM/CA/03/C	Power Control	Power Control	1 dB ~ 10 dB		
		Power Minimum	+25 dBm ~ -30 dBm		
TRM/CA/04/C	Frequency Range	FL:USA/Europe/Japan	2400 MHz ~ 2402 MHz		
		FH:USA/Europe/Japan	2480 MHz ~ 2483.5 MHz		
		FL:France	2446.5 MHz ~ 2454 MHz		
		FH:France	2476 MHz ~ 2483.5 MHz		
TRM/CA/05/C	20dB Bandwidth	20dB Bandwidth	0.1 MHz ~ 2.0 MHz		
TRM/CA/06/C	Adjacent Channel Power	$ M-N = 2$	-20 dBm ~ -55 dBm		
		$ M-N \geq 3$	-40 dBm ~ -60 dBm		
TRM/CA/07/C	Modulation Characteristics	$\Delta f_{1\text{avg}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{max}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{avg}}$		表示のみ	
		PASS/All $\Delta f_{2\text{max}}$	0% ~ 100%		
		Ratio ($\Delta f_{2\text{avg}}/\Delta f_{1\text{avg}}$)	0 ~ 1.0		
TRM/CA/08/C	Initial Carrier Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance	0 kHz ~ 300 kHz		
TRM/CA/09/C	Carrier Frequency Drift	DH1 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH3 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH5 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
TRC/CA/01/C	Out of Band Spurious Emission				
		ETS	30 MHz ~ 1 GHz	0 dBm ~ -65 dBm	Operation
		ETS	1 GHz ~ 12.75 GHz	0 dBm ~ -65 dBm	Standby
		ETS	1.8 GHz ~ 1.9 GHz	0 dBm ~ -65 dBm	(Narrow)
		ETS	5.15 GHz ~ 5.3 GHz	0 dBm ~ -65 dBm	
		ETS	30 MHz ~ 1 GHz	0 dBm/Hz ~ -115 dBm/Hz	Operation
		ETS	1 GHz ~ 12.75 GHz	0 dBm/Hz ~ -115 dBm/Hz	Standby
		ETS	1.8 GHz ~ 1.9 GHz	0 dBm/Hz ~ -115 dBm/Hz	(Wide)
		ETS	5.15 GHz ~ 5.3 GHz	0 dBm/Hz ~ -115 dBm/Hz	
FCC	30 MHz ~ 25 GHz	0 dB ~ 45 dB			

表 3-1 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 CH1 (2/2)

規格	テスト項目	設定範囲		Note-1	Note-2
RCV/CA/01/C	Sensitivity-single slot packets	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	
RCV/CA/02/C	Sensitivity-multi-slot packets	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	
RCV/CA/03/C	C/I Performance	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	
RCV/CA/04/C	Blocking Performance	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	
RCV/CA/05/C	Intermodulation Performance	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	
RCV/CA/06/C	Maximum Input Level	BER	0% ~ 100%	Resolution 0.0001%	

2. RF ポート CH2

表 3-2 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 CH2

規格	テスト項目	設定範囲		Note-1	Note-2
TRM/CA/01/C	Output power	Average Power	+8 dBm ~ -50 dBm	Class 1-3 同じ	
		Peak Power	+8 dBm ~ -50 dBm	Class 1-3 同じ	
TRM/CA/07/C	Modulation Characteristics	$\Delta f_{1\text{avg}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{max}}$	0 kHz ~ 300 kHz		
		$\Delta f_{2\text{avg}}$		表示のみ	
		PASS/All $\Delta f_{2\text{max}}$	0% ~ 100%		
		Ratio ($\Delta f_{2\text{avg}}/\Delta f_{1\text{avg}}$)	0 ~ 1.0		
TRM/CA/08/C	Initial Carrier Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance	0 kHz ~ 300 kHz		
TRM/CA/09/C	Carrier Frequency Drift	DH1 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH3 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		
		DH5 Drift	0 kHz ~ 300 kHz		

3.5 SIG RF Test の Pass/Fail 判定について

3.5 SIG RF Test の Pass/Fail 判定について

ここでは、Bluetooth SIG RF Test の Pass/Fail 判定について説明します。

表 3-3 Bluetooth SIG RF Test の Pass/Fail 判定 (1/2)

規格	テスト項目	判定対象項目	判定方法
TRM/CA/01/C	Output Power	Average Power	IUT Information で設定した Power Class および Pass/Fail Limit で設定した対象となる Power Class の Average Power の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		Peak Power	Pass/Fail Limit で設定した Peak Power の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/02/C	Power Density	Power Density	Pass/Fail Limit で設定した Power Density の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/03/C	Power Control	Step Size	Pass/Fail Limit で設定した Step Size の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		Minimum Power	IUT Information で設定した Power Class が 1 のとき、Pass/Fail Limit で設定した Minimum Power の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/04/C	Frequency Range	FL	IUT Information で設定した Channel Number Assignment の設定および Pass/Fail Limit で設定した Lowest Frequency の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		FH	IUT Information で設定した Channel Number Assignment の設定および Pass/Fail Limit で設定した Highest Frequency の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/05/C	20dB Bandwidth	20dB Bandwidth	Pass/Fail Limit で設定した 20dB Bandwidth の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/06/C	Adjacent Channel Power	$ M-N = 2$	Pass/Fail Limit で設定した $ M-N = 2$ での電力の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		$ M-N \geq 3$	Pass/Fail Limit で設定した $ M-N \geq 3$ での電力の判定範囲により、測定結果が判定されます。ただし、総合判定では測定結果が設定した値から -20 dBm までの値であれば 3 つまで許されます (注 1)。
TRM/CA/07/C	Modulation Characteristics	$\Delta f1_{avg}$	Pass/Fail Limit で設定した $\Delta f1_{avg}$ の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		$\Delta f2_{max}$	Pass/Fail Limit で設定した $\Delta f2_{max}$ の判定範囲により、測定結果が判定されます。ただし、総合判定は Pass/All $\Delta f2_{max}$ の結果に依存します。
		Pass/All $\Delta f2_{max}$	Pass/Fail Limit で設定した Pass/All $\Delta f2_{max}$ の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		$\Delta f2_{avg}/\Delta f1_{avg}$	Pass/Fail Limit で設定した $\Delta f2_{avg}/\Delta f1_{avg}$ の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRM/CA/08/C	Initial Carrier Frequency Tolerance	Initial Carrier Frequency Tolerance	Pass/Fail Limit で設定した Initial Carrier Frequency Tolerance の判定範囲により、測定結果が判定されます。

表 3-3 Bluetooth SIG RF Test の Pass/Fail 判定 (2/2)

規格	テスト項目	判定対象項目	判定方法
TRM/CA/09/C	Carrier Frequency Drift	DH1 Drift	Pass/Fail Limit で設定した DH1 Drift の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		DH3 Drift	Pass/Fail Limit で設定した DH3 Drift の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		DH5 Drift	Pass/Fail Limit で設定した DH5 Drift の判定範囲により、測定結果が判定されます。
		Drift Rate	Pass/Fail Limit で設定した Drift Rate の判定範囲により、測定結果が判定されます。
TRC/CA/01/C	Out of Band Spurious Emissions (ETS)	Spurious	Pass/Fail Limit で設定した Spurious Level の判定範囲により、測定結果が判定されます (注 2)。
	Out of Band Spurious Emissions (FCC)	$P_{ref} - P_{pk}$	Pass/Fail Limit で設定した $P_{ref} - P_{pk}$ の判定範囲により、測定結果が判定されます。
RCV/CA/01/C	Sensitivity-single slot packets	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます。
RCV/CA/02/C	Sensitivity-multi-slot packets	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます。
RCV/CA/03/C	C/I Performance	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます (注 3)。
RCV/CA/04/C	Blocking Performance	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます (注 4)。
RCV/CA/05/C	Intermodulation Performance	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます。
RCV/CA/06/C	Maximum Input Level	BER	Pass/Fail Limit で設定した BER の判定範囲により、測定結果が判定されます。

注

1. Test Method が Standard のときのみ適用されます。High Speed のときは Pass/Fail Limit で設定した値のみで判定されます。また、Standard のときに測定チャンネル数の設定を 3 以下にして測定すると、判定が正しく行われませんので注意して下さい。
2. 探索されたスプリアスのレベルが (判定値 - 6 dB) 以上であれば、SPA の設定を Wideband mode に設定して測定します。このとき、スプリアスのレベルが 2 dB 以上の変化がない場合、Narrowband Spurious として判定します。2 dB 以上の変化がある場合は、Wideband Spurious として判定します。
3. 測定周波数に対して、2 MHz 以上離れたポイントで Fail と判定された場合は、SG の出力レベルを Pass/Fail Limit の Relaxed で設定した値にして測定を行います。このとき、判定が Pass しても、Normal 設定時に 6 つ以上の Fail 判定があれば、総合判定は Fail となります。また、Co-Channel と 1MHz 離れのポイントで Fail と判定されたら、2 MHz 以上離れたポイントで Fail になった数に関係なく、総合判定は Fail となります。
4. レベル 1 での測定では、Fail 判定が 24 まで許されます。したがって、25 以上 Fail になったら、総合判定は Fail となります。レベル 2 での測定は、レベル 1 で Fail になった周波数のみ測定を行います。Fail 判定は 5 まで許されます。したがって、6 以上 Fail になったら、総合判定は Fail となります。また、レベル 3 での測定は、レベル 2 で Fail になった周波数のみ測定を行います。ここで、Fail になったら、総合判定は Fail となります。

4. テスト方法

この章では、Bluetooth SIG および Telec の RF テスト項目において、本器の内部動作について説明します。ここでは、本器でテストが可能な 24 項目を説明します。

1. SIG RF

- Output Power
- Power Density
- Power Control
- TX Output Spectrum - Frequency Range
- TX Output Spectrum - 20dB Bandwidth
- TX Output Spectrum - Adjacent Channel Power
- Modulation Characteristics
- Initial Carrier Frequency Tolerance
- Carrier Frequency Drift
- Out- of - band Spurious Emissions
- Sensitivity - Single slot packets
- Sensitivity - Multi-slot packets
- C/I performance
- Blocking performance
- Intermodulation performance
- Maximum Input Level

2. Telec test

- Frequency Tolerance
- Occupied Frequency Bandwidth / Spread Bandwidth
- Tolerance of Antenna Power
- Spurious Emission Strength
- Staying Time
- Secondly Emitted Radio Wave Strength

4.1 SIG RF

4.1.1 Output Power

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の送信出力テストをします。

1. 通信状態

Standard モード (R3273 で測定)

- Hopping: ON
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定

High Speed モード (R4870 で測定)

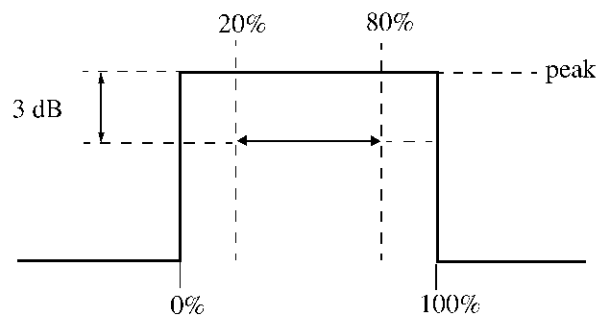
- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- TX Mode または Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 受信周波数: 設定についての詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。

2. テスト項目

- Average Power
- Peak Power

注 テストは、Packet Type が DH1, DH3, DH5 のいずれの場合も送信バースト波形の 20% 以下および 80% 以上^{*1} の Average Power と Peak Power をテストします。

*1:



4.1.2 Power Density

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の電力密度テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: ON
 - Test mode: ON
 - Loopback Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
2. テスト項目
 - Power Density

4.1.3 Power Control

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の出力制御テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: OFF
 - Test mode: ON
 - TX Mode または Loopback Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
 - Power Control mode
 - 受信周波数: 設定についての詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。
2. テスト項目
 - Step size of power control
 - Minimum power (Class 1)

注 Standard モードは R3273、High Speed モードは R4870 で測定します。

4.1.4 TX Output Spectrum - Frequency Range

4.1.4 TX Output Spectrum - Frequency Range

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の出力周波数帯域幅テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: OFF
 - Test mode: ON
 - Loopback Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
 - 受信周波数: Lowest Frequency 測定時は Highest Frequency に、Highest Frequency 測定時は Lowest Frequency になります。
2. テスト項目
 - Frequency Range

4.1.5 TX Output Spectrum - 20dB Bandwidth

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の出力 20 dB 帯域幅テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: OFF
 - Test mode: ON
 - Loopback Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
 - 受信周波数: 設定についての詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。

注 受信周波数を送信周波数と同一または隣接周波数（1 MHz または 2 MHz）に設定すると、結果に影響しますので注意して下さい。

2. テスト項目
 - 20dB Bandwidth

4.1.6 TX Output Spectrum - Adjacent Channel Power

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の出力隣接チャンネル電力テストをします。

1. 通信状態

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 受信周波数: Measurement Point を避けるように設定されています。

注 試験周波数の設定範囲は、2405 MHz ~ 2477 MHz となっています。

2. テスト項目

- Adjacent Channel Power

4.1.7 Modulation Characteristics

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の変調特性テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.2 Modulation Characteristics」を参照して下さい。

4.1.8 Initial Carrier Frequency Tolerance

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の初期搬送波周波数テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.3 Initial Carrier Frequency Tolerance」を参照して下さい。

4.1.9 Carrier Frequency Drift

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の周波数ドリフト・テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.4 Carrier Frequency Drift」を参照して下さい。

4.1.10 Out-of-Band Spurious Emissions

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の帯域外スプリアス強度のテストをします。

1. 通信状態

Operation Mode

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- 受信周波数: 測定結果に影響ないように設定されています。

Standby Mode

- Inquiry Scan Mode

2. テスト項目

- Spurious Emissions (operation mode narrow ; ETS)
- Spurious Emissions (standby mode narrow; ETS)
- Spurious Emissions (operation mode wide; ETS)
- Spurious Emissions (standby mode wide; ETS)
- Spurious Emissions (operation mode ; FCC)

4.1.11 Sensitivity (single slot packets)

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の受信感度テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.5 Sensitivity (single slot packets)」を参照して下さい。

4.1.12 Sensitivity (multi-slot packets)

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の受信感度テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.6 Sensitivity (multi-slot packets)」を参照して下さい。

4.1.13 C/I performance

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の同一隣接チャンネル妨害波テストをします。

1. 通信状態

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- Verification bit number:
1600000 bits (注 1)
- Wanted Signal Level: -60 dBm 妨害波 : Co-channel, 1 MHz, 2 MHz (注 2)
-67 dBm 妨害波 : ≥ 3 MHz, Image (注 2)
- 送信周波数 : 受信 (test) 周波数と同一周波数になります。設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
 2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、C/I の Wanted Signal Level (IUT Input Level)
 3. Wanted Signal Frequency の設定範囲は、2405 MHz ~ 2477 MHz となっています。
-

2. 妨害波

- Modulation: Bluetooth Modulated Signal
 - Frequency: Co-channel, Adjacent (1 MHz, 2 MHz, ≥ 3 MHz)、Image (2402 MHz ~ 2480 MHz)
-

注 IUT への妨害波供給レベルの設定は、SIG Test Parameter において、C/I の Interfered Signal Level で行えます。

3. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

4.1.14 Blocking performance

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の妨害波テストをします。

1. 通信状態

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1 つだけ選択して測定
- Verification bit number:
1600000 bits (注 1)
- Wanted Signal Level: -67 dBm (注 2)
- 送信周波数: 2460 MHz に固定 (受信周波数と同一)

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、Blocking の Wanted Signal Level (IUT Input Level)

2. 妨害波

- Modulation: Continuous Wave Signal (No modulated)
- Frequency: 30 MHz ~ 2 GHz, 2 GHz ~ 2.4 GHz, 2.5 GHz ~ 3 GHz,
3 GHz ~ 12.75 GHz

注 IUT への妨害波供給レベルの設定は、SIG Test Parameter において、Blocking の Interfere Signal Level で行えます。

3. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

4.1.15 Intermodulation performance

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の混変調テストをします。

1. 通信状態

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, DH5 のうち、1つだけ選択して測定
- Verification bit number:
1600000 bits (注 1)
- Wanted Signal Level: -64 dBm (注 2)
- 送信周波数: 受信 (test) 周波数と同一周波数になります。設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。

注

1. High Speed モード、Standard モードの検証ビット数は、以下の範囲で任意に変更可能です。
High Speed モード : 1 ~ 1600000 bits
Standard モード : 1600000 ~ 9999999 bits
2. IUT 入力レベルは、以下の場合に変更可能です。
SIG Test Parameter 設定において、Intermodulation の Wanted Signal Level (IUT Input Level)

2. 妨害波

- Modulation: Continuous Wave Signal (妨害波 1: f1)
Bluetooth Modulated Signal (妨害波 2: f2)
- Frequency: $f1 = f_{tx} \pm n \text{ MHz}$
 $f2 = f_{tx} \pm 2n \text{ MHz}$
(f_{tx}: Wanted Signal Frequency [MHz], n: 3, 4, 5)

注 IUT への妨害波供給レベルの設定は、SIG Test Parameter において、Intermodulation の Interfere Signal Level で行えます。

3. テスト項目

- BER (Bit Error Rate)
- PER (Packet Error Rate)

4.1.16 Maximum Input Level

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の最大受信入力テストをします。

通信状態およびテスト項目についての詳細は、R4870 取扱説明書「4.7 Maximum Input Level」を参照して下さい。

4.2 Telec Test

4.2.1 Frequency Tolerance

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の周波数精度テストをします。

1. 通信状態

- Hopping: OFF
- Test mode: ON
- Loopback Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, or DH5 with the longest support
- 受信周波数: 設定の詳細は、R4870 取扱説明書「2.4.3 System Configuration 設定」の Test Channel を参照して下さい。

注 受信周波数を送信周波数と同一または隣接周波数（1 MHz または 2 MHz）に設定すると、結果に影響しますので注意して下さい。

2. テスト項目

- Frequency Tolerance

4.2.2 Occupied Frequency Bandwidth / Spread Bandwidth

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の OBW / 拡散帯域幅テストをします。

1. 通信条件

- Hopping: ON and OFF
- Test mode: ON
- TX Mode
- Payload: PRBS 9
- Packet type: DH1, DH3, or DH5 with the longest support

2. テスト項目

- Occupied Frequency Bandwidth
- Spread Bandwidth (Hopping On)
- Spread Bandwidth (Hopping Off)

4.2.3 Tolerance of Antenna Power

4.2.3 Tolerance of Antenna Power

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の空中線電力テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: ON
 - Test mode: ON
 - TX Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, or DH5 with the longest support
2. テスト項目
 - Output Power (Average)
 - Antenna Power
 - Tolerance of Antenna Power

4.2.4 Spurious Emission Strength

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT のスプリアス強度テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: OFF
 - Test mode: ON
 - TX Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, or DH5 with the longest support
2. テスト項目
 - Spurious Emission Strength

4.2.5 Staying Time

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の滞留時間テストをします。

1. 通信状態
 - Hopping: ON
 - Test mode: ON
 - Loopback Mode
 - Payload: PRBS 9
 - Packet type: DH1, DH3, or DH5 with the longest support
2. テスト項目
 - Staying Time

4.2.6 Secondarily Emitted Radio Wave Strength

本器は、下記の条件で Bluetooth IUT の副次放射強度テストをします。

1. 通信状態
 - Inquiry Scan Mode
2. テスト項目
 - Secondarily Emitted Radio Wave Strength

5. キャリブレーション方法

R4870 OPT01 GPIB-Master のキャリブレーション方法（7項目）について説明します。

1. Power Splitter
2. Monitor2 port
3. Monitor1 port
4. CH1-Input
5. CH1-Output
6. Interfere1 port
7. Interfere2 port

5.1 キャリブレーション設定手順

メイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Function Select** → **Calibration** と選択します。

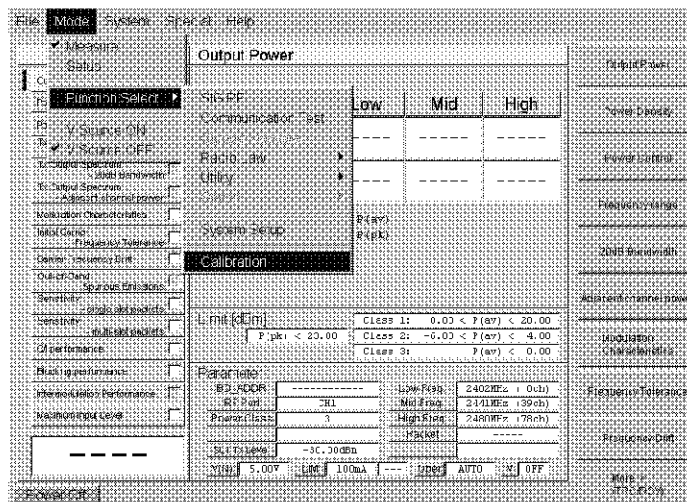


図 5-1 Calibration 設定への移行

Calibration 画面にてメイン・メニューの **Mode** をクリックして、ドロップダウン・メニューの **Setup** を選択します（図 5-2 参照）。

5.1 キャリブレーション設定手順

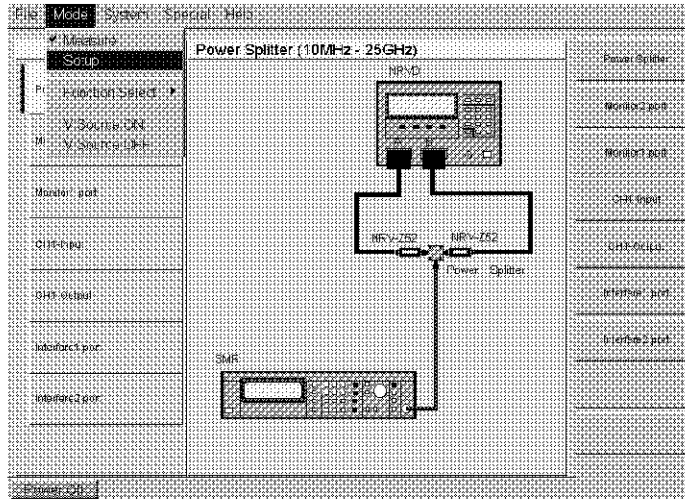


図 5-2 Calibration Setup 画面への移行

Calibration Setup 画面が表示されますので、必要な項目を選択します。

(キャリブレーション項目をクリックするとチェック・ボックスにチェック・マークが表示され、その項目のキャリブレーションが実行されることを意味します。)

全項目キャリブレーションを実行する場合は、**Item ALL ON** をクリックすることによりすべてのチェック・ボックスにチェック・マークが表示されます。

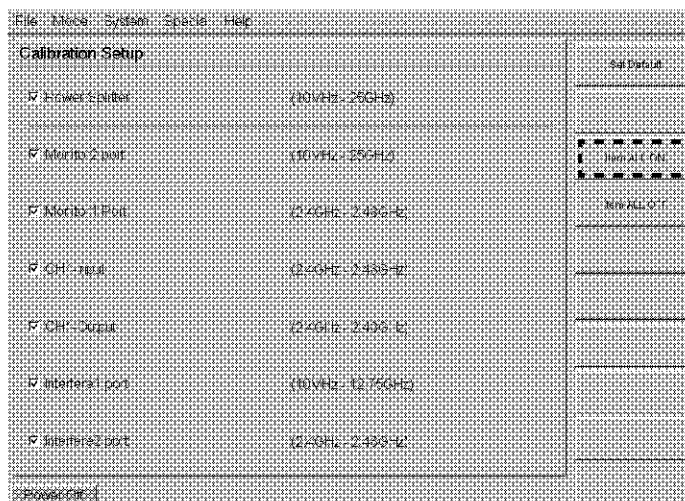


図 5-3 Calibration Setup

セットアップ完了後に、ドロップダウン・メニューの **Measure** を選択すると、キャリブレーション実行画面に切り替わります。

5.2 Power Splitter キャリブレーション

Power Splitter のキャリブレーション画面に移行すると、画面に接続図が表示されます。図を参考に接続して下さい。

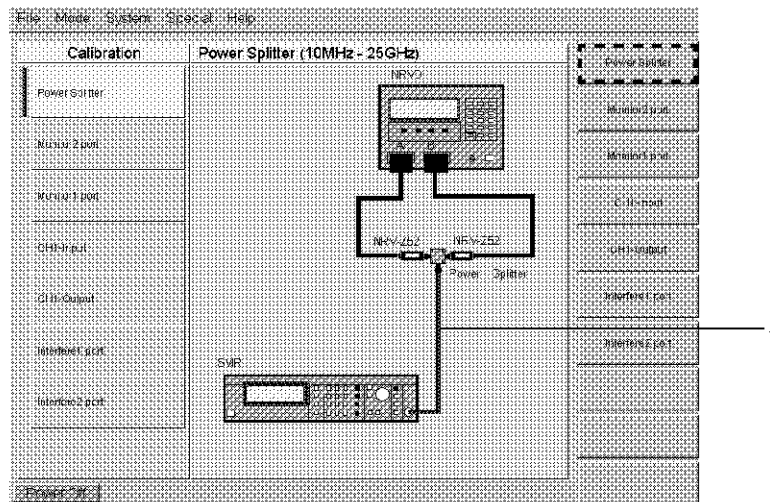


図 5-4 Power Splitter Calibration

SMR と Power Splitter 間の信号ケーブルを以下に示します。

1. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

Power Splitter はシステム全般のキャリブレーションを実行するために必要となります。

他の項目のキャリブレーションを行う前に、必ず実行して下さい。

(実行しない場合には、工場出荷時の Power Splitter キャリブレーション・データにより各項目のキャリブレーションが実行されます。)

注 添付されているキャリブレーション用の Power Splitter はメスの 3.5 mm コネクタです。SMA、2.92 mm のいずれのコネクタとも適合しますが、以下に示すような無理な取り付けにより壊れる場合もありますので、注意して下さい。

1. コネクタとケーブルの適合部分が傾いた状態での無理な取り付け
2. 適合用ナットを廻さず、ケーブルを廻す等の取り付けによる、中心コンタクト部分の磨耗

接続完了後に **SINGLE** を押すと、ケーブル接続の完了を確認するメッセージ・ボックスが表示されます。**OK** を押すことによりキャリブレーションが開始されます。

注 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。

5.2 Power Splitter キャリブレーション

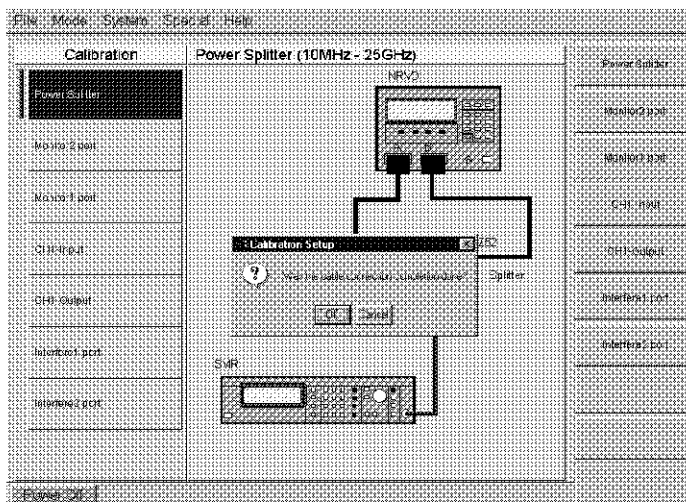


図 5-5 接続完了確認のメッセージ

注 エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.3 Monitor2 Port キャリブレーション

ここでは、RF IN/OUT CH1 と Monitor2 port 間の信号ケーブルを含めた経路のキャリブレーションを行います。

(上記以外の RF Port は必ず 50 Ω 終端器で終端して下さい。)

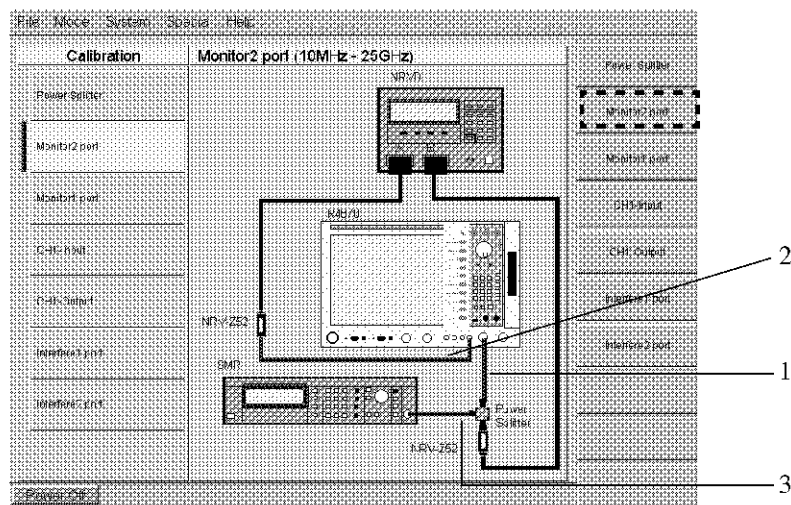


図 5-6 Monitor2 Port Calibration

キャリブレーションで使用する RF ケーブルを以下に示します (図 5-6 参照)。

1. R4870: RF IN/OUT CH1 → IUT 接続ケーブル
2. R4870: Monitor2 port → R3273: Input 50 Ω 接続ケーブル
3. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

接続が完了したらプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Calibration Setup のメッセージ・ボックスが表示されますので、接続確認後に **OK** をクリックしてキャリブレーションを実行させます。

注

1. 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。
2. エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.5 CH1-Input キャリブレーション

ここでは、RF IN/OUT CH1 の信号ケーブルを含めた経路のキャリブレーションを行います。
(上記以外の RF Port は必ず 50 Ω 終端器で終端して下さい。)

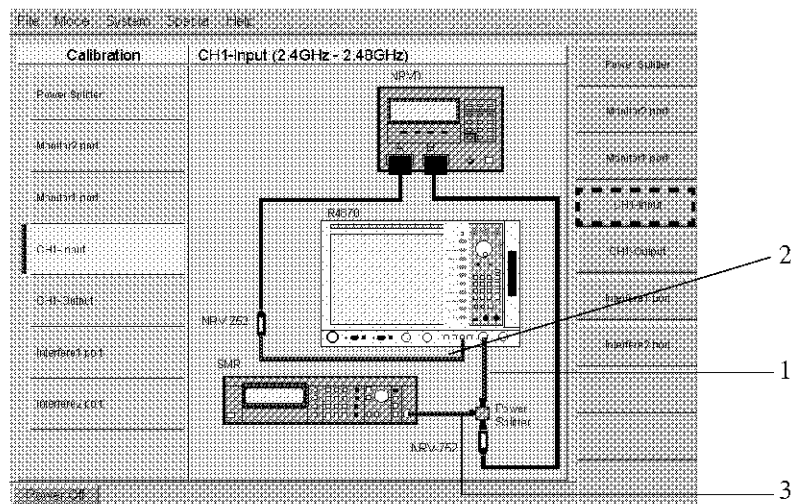


図 5-8 CH1-Input Calibration

キャリブレーションで使用する RF ケーブルを以下に示します (図 5-8 参照)。

1. R4870: RF IN/OUT CH1 → IUT 接続ケーブル
2. R4870: Monitor1 port → NRV-Z52 接続ケーブル
3. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

接続が完了したらプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Calibration Setup のメッセージ・ボックスが表示されますので、接続確認後に **OK** をクリックしてキャリブレーションを実行させます。

注

1. 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。
2. エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.6 CH1-Output キャリブレーション

ここでは、RF IN/OUT CH1 の信号ケーブルを含めた経路のキャリブレーションを行います。
(上記以外の RF Port は必ず 50 Ω 終端器で終端して下さい。)

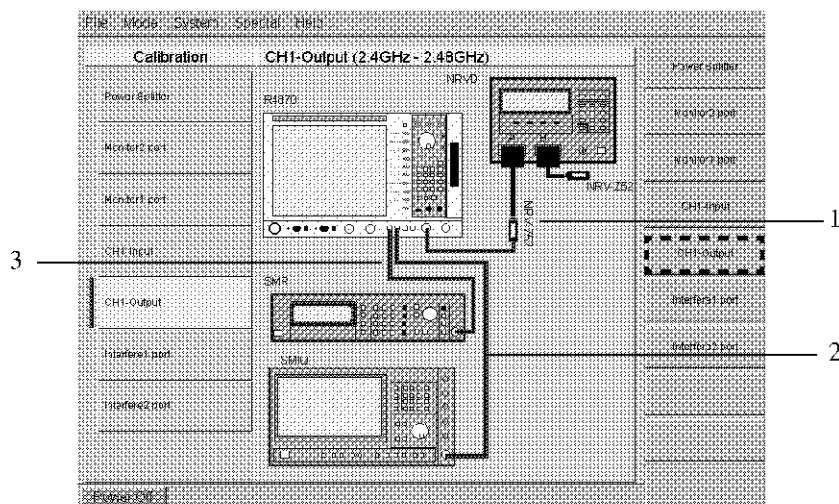


図 5-9 CH1-Output Calibration

キャリブレーションで使用する RF ケーブルを以下に示します (図 5-9 参照)。

1. R4870: RF IN/OUT CH1 → IUT 接続ケーブル
2. SMIQ: RF Port → R4870: Interfere2 port 接続ケーブル
3. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

接続が完了したらプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Calibration Setup のメッセージ・ボックスが表示されますので、接続確認後に **OK** をクリックしてキャリブレーションを実行させます。

注

1. 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。
2. エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.7 Interfere1 Port キャリブレーション

ここでは、RF IN/OUT CH1 と Interfere1 port 間の信号ケーブルを含めた経路のキャリブレーションを行います。

(上記以外の RF Port は必ず 50 Ω 終端器で終端して下さい。)

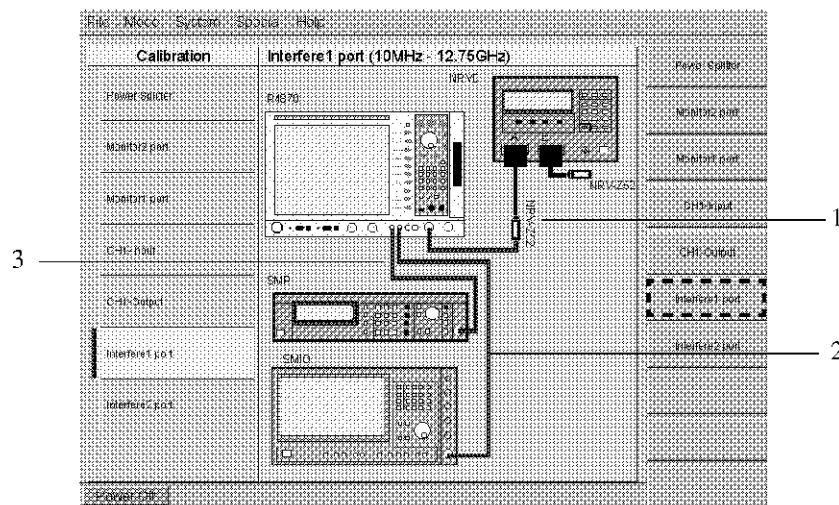


図 5-10 Interfere1 Port Calibration

キャリブレーションで使用する RF ケーブルを以下に示します (図 5-10 参照)。

1. R4870: RF IN/OUT CH1 → IUT 接続ケーブル
2. SMIQ: RF Port → R4870: Interfere2 port 接続ケーブル
3. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

接続が完了したらプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Calibration Setup のメッセージ・ボックスが表示されますので、接続確認後に **OK** をクリックしてキャリブレーションを実行させます。

注

1. 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。
2. エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.8 Interfere2 Port キャリブレーション

ここでは、RF IN/OUT CH1 と Interfere2 port 間の信号ケーブルを含めた経路のキャリブレーションを行います。

(上記以外の RF Port は必ず 50 Ω 終端器で終端して下さい。)

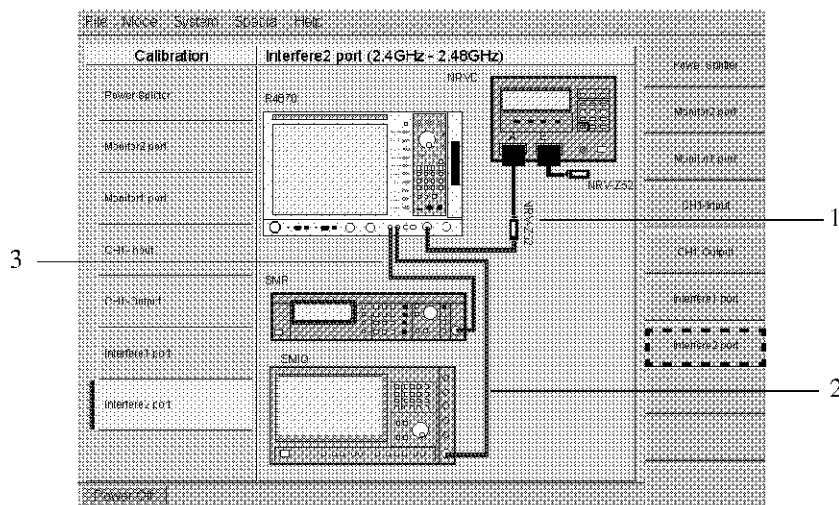


図 5-11 Interfere2 Port Calibration

キャリブレーションで使用する RF ケーブルを以下に示します (図 5-11 参照)。

1. R4870: RF IN/OUT CH1 → IUT 接続ケーブル
2. SMIQ: RF Port → R4870: Interfere2 port 接続ケーブル
3. SMR: RF Port → R4870: Interfere1 port 接続ケーブル

接続が完了したらプログラム・ボタンの **SINGLE** を押すと、Calibration Setup のメッセージ・ボックスが表示されますので、接続確認後に **OK** をクリックしてキャリブレーションを実行させます。

注

1. 接続が不十分な状態で **OK** を押すと、キャリブレーションが途中で終了します。再度接続の確認を行った上で、キャリブレーションを実行して下さい。
2. エラーが発生した場合には、A.2 エラー・メッセージを参照して下さい。

キャリブレーション完了時には Calibration Completed のメッセージ・ボックスが表示されます。前に取得したキャリブレーション・データと、新たに取得したキャリブレーション・データを置き換えるかどうかの確認を行うもので、良ければ **OK** を押して下さい。

Cancel を押すと新たに取得したキャリブレーション・データに置き換えずに終了します。

5.9 キャリブレーションを連続して行う方法

ここでは、プログラム・ボタンの **START** により、各キャリブレーションを連続して実行する方法を説明します。

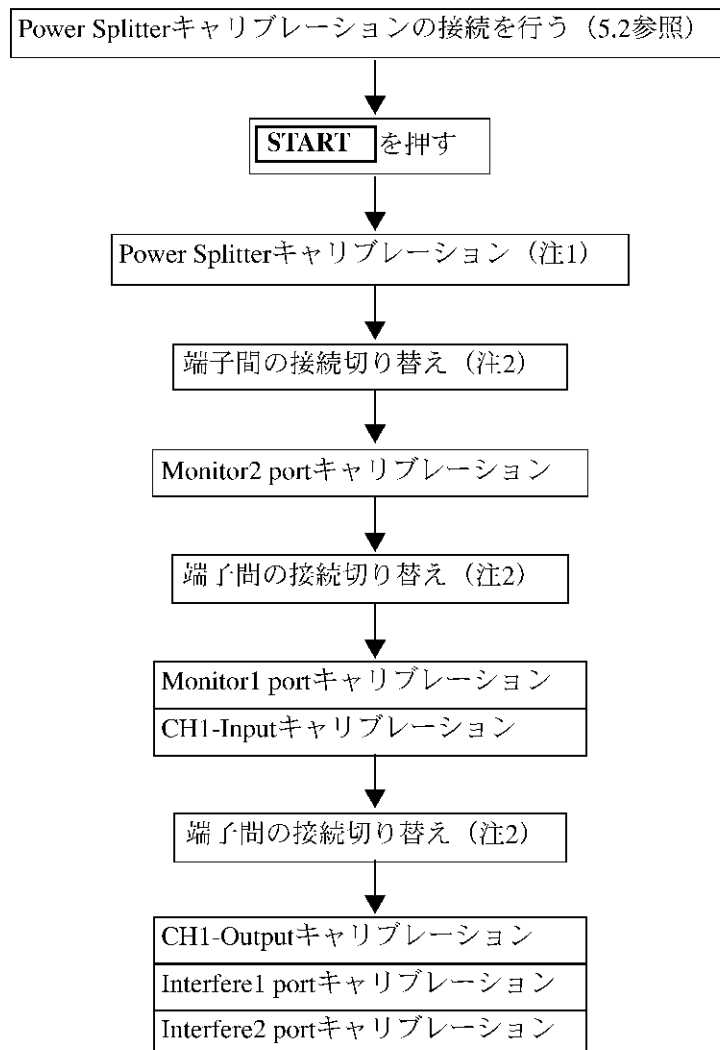


図 5-12 キャリブレーションを連続して行う手順

注

1. 各々のキャリブレーションを実行するごとに、キャリブレーション・データのセーブ処理（確認）が必要となります。
2. 1 項目または複数項目のキャリブレーションを実行するごとに、端子間の接続を切り替える必要があります。

6. リモート制御

ここでは、R4870 Option01 の機能を外部 PC を使って Ethernet 経由で制御する関数について説明します。

制御方法、プログラミング方法等の詳細については、「R4870 無線機テスト取扱説明書」を参照して下さい。

6.1 関数仕様

インデックス

関数名	参照ページ
CONFigure サブシステム - SIG RF	
QryConfSig20dBBwid	6-10
QryConfSig20dBBwidLev	6-44
QryConfSig20dBBwidTestPack	6-60
QryConfSig20dBBwidTestType	6-18
QryConfSig20dBBwidUp	6-27
QryConfSigACP	6-11
QryConfSigACPMN2Up	6-28
QryConfSigACPMN3Up	6-28
QryConfSigACPNumAdCh	6-45
QryConfSigACPTestPack	6-60
QryConfSigACPTestType	6-18
QryConfSigBlocPerf	6-14
QryConfSigBlocPerfBerUp	6-32
QryConfSigBlocPerfInteLev	6-54
QryConfSigBlocPerfSmpAlc	6-57
QryConfSigBlocPerfTestPack	6-62
QryConfSigBlocPerfTestType	6-20
QryConfSigBlocPerfWantLev	6-53
QryConfSigCIPerf	6-13
QryConfSigCIPerfBerUp	6-31
QryConfSigCIPerfImagFreq	6-49
QryConfSigCIPerfInteLev	6-51
QryConfSigCIPerfInteRelaLev	6-52
QryConfSigCIPerfTestPack	6-62
QryConfSigCIPerfTestType	6-20
QryConfSigCIPerfWantLev	6-50
QryConfSigFreqRang	6-9
QryConfSigFreqRangFranLo	6-26
QryConfSigFreqRangFranUp	6-26
QryConfSigFreqRangLev	6-43
QryConfSigFreqRangLo	6-25
QryConfSigFreqRangSweeCnt	6-43
QryConfSigFreqRangTestPack	6-59
QryConfSigFreqRangTestType	6-17

6.1 関数仕様

QryConfSigFreqRangUp	6-24
QryConfSigIModPerf	6-14
QryConfSigIModPerfBerUp	6-33
QryConfSigIModPerfF1Lev	6-56
QryConfSigIModPerfF2Lev	6-56
QryConfSigIModPerfTestPack	6-63
QryConfSigIModPerfTestType	6-21
QryConfSigIModPerfWantLev	6-55
QryConfSigOutpPowAvgCnt	6-35
QryConfSigOutpPowBursLo	6-33
QryConfSigOutpPowBursUp	6-34
QryConfSigOutpPowLeadTrad	6-35
QryConfSigOutpPowTestType	6-15
QryConfSigPowCont	6-9
QryConfSigPowContClas1Lo	6-22
QryConfSigPowContHspdMinPowUp	6-40
QryConfSigPowContJudgMinPow	6-42
QryConfSigPowContJudgStepNum	6-41
QryConfSigPowContStdMinPowUp	6-39
QryConfSigPowContStepLo	6-24
QryConfSigPowContStepNum	6-39
QryConfSigPowContStepUp	6-23
QryConfSigPowContTestPack	6-58
QryConfSigPowContTestType	6-16
QryConfSigPowContWaitTout	6-41
QryConfSigPowDens	6-8
QryConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime	6-38
QryConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime	6-37
QryConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime	6-37
QryConfSigPowDensStdPkPowSweeTime	6-36
QryConfSigPowDensTestPack	6-58
QryConfSigPowDensTestType	6-16
QryConfSigPowDensUp	6-22
QryConfSigSpurEmis	6-12
QryConfSigSpurEmisEtsHspdFreq	6-45
QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo	6-46
QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp	6-47
QryConfSigSpurEmisEtsUp	6-29
QryConfSigSpurEmisFccHspdFreq	6-47
QryConfSigSpurEmisFccStdFreqLo	6-48
QryConfSigSpurEmisFccStdFreqUp	6-49
QryConfSigSpurEmisFccUp	6-30
QryConfSigSpurEmisSele	6-31
QryConfSigSpurEmisTestPack	6-61
QryConfSigSpurEmisTestType	6-19
WmtConfSig20dBBwid	6-10
WmtConfSig20dBBwidLev	6-44
WmtConfSig20dBBwidTestPack	6-59
WmtConfSig20dBBwidTestType	6-17
WmtConfSig20dBBwidUp	6-27
WmtConfSigACP	6-11

WmtConfSigACPMN2Up	6-27
WmtConfSigACPMN3Up	6-28
WmtConfSigACPNumAdCh	6-44
WmtConfSigACPTestPack	6-60
WmtConfSigACPTestType	6-18
WmtConfSigBlocPerf	6-13
WmtConfSigBlocPerfBerUp	6-32
WmtConfSigBlocPerfInteLev	6-54
WmtConfSigBlocPerfSmpAlc	6-57
WmtConfSigBlocPerfTestPack	6-62
WmtConfSigBlocPerfTestType	6-20
WmtConfSigBlocPerfWantLev	6-53
WmtConfSigCIPerf	6-13
WmtConfSigCIPerfBerUp	6-31
WmtConfSigCIPerfImagFreq	6-49
WmtConfSigCIPerfInteLev	6-51
WmtConfSigCIPerfInteRelaLev	6-52
WmtConfSigCIPerfTestPack	6-61
WmtConfSigCIPerfTestType	6-19
WmtConfSigCIPerfWantLev	6-50
WmtConfSigFreqRang	6-9
WmtConfSigFreqRangFranLo	6-26
WmtConfSigFreqRangFranUp	6-25
WmtConfSigFreqRangLev	6-42
WmtConfSigFreqRangLo	6-25
WmtConfSigFreqRangSweeCnt	6-43
WmtConfSigFreqRangTestPack	6-59
WmtConfSigFreqRangTestType	6-17
WmtConfSigFreqRangUp	6-24
WmtConfSigIModPerf	6-14
WmtConfSigIModPerfBerUp	6-32
WmtConfSigIModPerfF1Lev	6-55
WmtConfSigIModPerfF2Lev	6-56
WmtConfSigIModPerfTestPack	6-63
WmtConfSigIModPerfTestType	6-21
WmtConfSigIModPerfWantLev	6-55
WmtConfSigOutpPowAvgCnt	6-35
WmtConfSigOutpPowBursLo	6-33
WmtConfSigOutpPowBursUp	6-34
WmtConfSigOutpPowLeadTrad	6-34
WmtConfSigOutpPowTestType	6-15
WmtConfSigPowCont	6-8
WmtConfSigPowContClas1Lo	6-22
WmtConfSigPowContHspdMinPowUp	6-40
WmtConfSigPowContJudgMinPow	6-42
WmtConfSigPowContJudgStepNum	6-41
WmtConfSigPowContStdMinPowUp	6-39
WmtConfSigPowContStepLo	6-23
WmtConfSigPowContStepNum	6-38
WmtConfSigPowContStepUp	6-23
WmtConfSigPowContTestPack	6-58

6.1 関数仕様

WmtConfSigPowContTestType	6-16
WmtConfSigPowContWaitTout	6-40
WmtConfSigPowDens	6-8
WmtConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime	6-38
WmtConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime	6-37
WmtConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime	6-36
WmtConfSigPowDensStdPkPowSweeTime	6-36
WmtConfSigPowDensTestPack	6-57
WmtConfSigPowDensTestType	6-15
WmtConfSigPowDensUp	6-21
WmtConfSigSpurEmis	6-12
WmtConfSigSpurEmisEtsHspdFreq	6-45
WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo	6-46
WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp	6-46
WmtConfSigSpurEmisEtsUp	6-29
WmtConfSigSpurEmisFccHspdFreq	6-47
WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqLo	6-48
WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqUp	6-48
WmtConfSigSpurEmisFccUp	6-30
WmtConfSigSpurEmisSele	6-30
WmtConfSigSpurEmisTestPack	6-61
WmtConfSigSpurEmisTestType	6-19
CONFigure サブシステム - Telec	
QryConfTeleAntPow	6-92
QryConfTeleAntPowBursRati	6-99
QryConfTeleAntPowRefPow	6-98
QryConfTeleAntPowToleLo	6-98
QryConfTeleAntPowToleUp	6-97
QryConfTeleFreqTole	6-90
QryConfTeleFreqToleSampNum	6-95
QryConfTeleOBW	6-91
QryConfTeleOBWBwidUp	6-96
QryConfTeleOBWSpreBwidLo	6-96
QryConfTeleSecoEmit	6-93
QryConfTeleSecoEmitLevLowUp	6-100
QryConfTeleSecoEmitLevUppUp	6-101
QryConfTeleSpurEmis	6-92
QryConfTeleSpurEmisLevUp	6-100
QryConfTeleStayTime	6-94
QryConfTeleStayTimeTimeUp	6-102
QryConfTeleToleToleUp	6-94
WmtConfTeleAntPow	6-91
WmtConfTeleAntPowBursRati	6-99
WmtConfTeleAntPowRefPow	6-98
WmtConfTeleAntPowToleLo	6-97
WmtConfTeleAntPowToleUp	6-97
WmtConfTeleFreqTole	6-90
WmtConfTeleFreqToleSampNum	6-95
WmtConfTeleOBW	6-91
WmtConfTeleOBWBwidUp	6-95
WmtConfTeleOBWSpreBwidLo	6-96

WmtConfTeleSecoEmit	6-93
WmtConfTeleSecoEmitLevLowUp	6-100
WmtConfTeleSecoEmitLevUppUp	6-101
WmtConfTeleSpurEmis	6-92
WmtConfTeleSpurEmisLevUp	6-99
WmtConfTeleStayTime	6-93
WmtConfTeleStayTimeTimeUp	6-101
WmtConfTeleTolTolUp	6-94
FETCh サブシステム - SIG RF	
QryFetcSig20dBBwid	6-71
QryFetcSigACPACP	6-74
QryFetcSigACPCH	6-75
QryFetcSigACPMN2Hi	6-72
QryFetcSigACPMN2Lo	6-72
QryFetcSigACPMN3Hi	6-73
QryFetcSigACPMN3Lo	6-73
QryFetcSigACPNum	6-74
QryFetcSigBlocPerfBer	6-82
QryFetcSigBlocPerfFreq	6-82
QryFetcSigBlocPerfPer	6-83
QryFetcSigBlocPerfSumErr	6-81
QryFetcSigCIPerfBer	6-79
QryFetcSigCIPerfBerRela	6-80
QryFetcSigCIPerfPer	6-79
QryFetcSigCIPerfPerRela	6-81
QryFetcSigCIPerfSumErr	6-78
QryFetcSigCIPerfSumErrRela	6-80
QryFetcSigCIPerfCh	6-78
QryFetcSigFreqRangHiFreq	6-71
QryFetcSigFreqRangLowFreq	6-71
QryFetcSigIModPerfN3HiBer	6-84
QryFetcSigIModPerfN3HiPer	6-85
QryFetcSigIModPerfN3LoBer	6-83
QryFetcSigIModPerfN3LoPer	6-84
QryFetcSigIModPerfN4HiBer	6-86
QryFetcSigIModPerfN4HiPer	6-87
QryFetcSigIModPerfN4LoBer	6-85
QryFetcSigIModPerfN4LoPer	6-86
QryFetcSigIModPerfN5HiBer	6-88
QryFetcSigIModPerfN5HiPer	6-89
QryFetcSigIModPerfN5LoBer	6-87
QryFetcSigIModPerfN5LoPer	6-88
QryFetcSigPowContNumDown	6-68
QryFetcSigPowContNumUp	6-69
QryFetcSigPowContPavDown	6-69
QryFetcSigPowContPavMin	6-70
QryFetcSigPowContPavUp	6-70
QryFetcSigPowDens	6-68
QryFetcSigSpurEmisFccRefPow	6-77
QryFetcSigSpurEmisFreq	6-76
QryFetcSigSpurEmisPow	6-77

6.1 関数仕様

QryFetcSigSpurEmisSele	6-75
FETCh サブシステム - Telec	
QryFetcTeleAntPowAntPow	6-109
QryFetcTeleAntPowOutPow	6-109
QryFetcTeleAntPowTole	6-108
QryFetcTeleFreqToleFreq	6-106
QryFetcTeleFreqToleTole	6-106
QryFetcTeleOBWBwid	6-107
QryFetcTeleOBWFreqHi	6-107
QryFetcTeleOBWFreqLow	6-107
QryFetcTeleOBWSpreBwid	6-108
QryFetcTeleOBWSpreBwidHopOff	6-108
QryFetcTeleSecoEmitFreqLow	6-111
QryFetcTeleSecoEmitFreqUpp	6-112
QryFetcTeleSecoEmitLevLow	6-111
QryFetcTeleSecoEmitLevUpp	6-111
QryFetcTeleSpurEmisFreq	6-110
QryFetcTeleSpurEmisLev	6-110
QryFetcTeleStayTimeTime	6-112
PROCEDURE サブシステム - SIG RF	
WmtProcSig20dBBwid	6-65
WmtProcSigACP	6-65
WmtProcSigBlocPerf	6-66
WmtProcSigCIPerf	6-66
WmtProcSigFreqRang	6-64
WmtProcSigIModPerf	6-67
WmtProcSigPowCont	6-64
WmtProcSigPowDens	6-64
WmtProcSigSpurEmis	6-66
PROCEDURE サブシステム - Telec	
WmtProcTeleAll	6-105
WmtProcTeleAntPow	6-104
WmtProcTeleAntPowPow	6-103
WmtProcTeleFreqTole	6-103
WmtProcTeleOBW	6-103
WmtProcTeleSecoEmit	6-104
WmtProcTeleSpurEmis	6-104
WmtProcTeleStayTime	6-105
SOURCE サブシステム - DC Power Source	
QryOutpVsimStat	6-120
QryOutpVsimStatType	6-119
QrySourVsimBattType	6-113
QrySourVsimBattTypeStd	6-114
QrySourVsimCurrLim	6-117
QrySourVsimCurrLimType	6-118
QrySourVsimCurrStat	6-118
QrySourVsimVoltLo	6-117
QrySourVsimVoltNomi	6-115
QrySourVsimVoltType	6-114
QrySourVsimVoltUp	6-116
WmtOutpVsimStat	6-119

WmtOutpVsimStatType	6-119
WmtSourVsimBattType	6-113
WmtSourVsimBattTypeStd	6-113
WmtSourVsimCurrLim	6-117
WmtSourVsimCurrLimType	6-118
WmtSourVsimVoltLo	6-116
WmtSourVsimVoltNomi	6-115
WmtSourVsimVoltType	6-114
WmtSourVsimVoltUp	6-116

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.1 WmtConfSigPowDens

関数名	long WmtConfSigPowDens
機能	電力密度試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.1.2 QryConfSigPowDens

関数名	long QryConfSigPowDens
機能	電力密度試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.3 WmtConfSigPowCont

関数名	long WmtConfSigPowCont
機能	電力制御試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.4 QryConfSigPowCont

関数名	long QryConfSigPowCont
機能	電力制御試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) OUT long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.5 WmtConfSigFreqRang

関数名	long WmtConfSigFreqRang
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.1.6 QryConfSigFreqRang

関数名	long QryConfSigFreqRang
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.7 WmtConfSig20dBBwid

関数名	long WmtConfSig20dBBwid
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル 20dB 帯域幅試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.8 QryConfSig20dBBwid

関数名	long QryConfSig20dBBwid
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル 20dB 帯域幅試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.9 WmtConfSigACP

関数名	long WmtConfSigACP
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル隣接チャンネル漏洩電力試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.10 QryConfSigACP

関数名	long QryConfSigACP
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル隣接チャンネル漏洩電力試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.11 WmtConfSigSpurEmis

関数名	long WmtConfSigSpurEmis
機能	帯域外スプリアス放射試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // 0xFF: Standby (ETS の Standby モード) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.12 QryConfSigSpurEmis

関数名	long QryConfSigSpurEmis
機能	帯域外スプリアス放射試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // 0xFF: Standby (ETS の Standby モード) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.13 WmtConfSigCIPerf

関数名	long WmtConfSigCIPerf
機能	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.14 QryConfSigCIPerf

関数名	long QryConfSigCIPerf
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.15 WmtConfSigBlocPerf

関数名	long WmtConfSigBlocPerf
機能	ブロッキング性能試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.1.16 QryConfSigBlocPerf

関数名	long QryConfSigBlocPerf
機能	ブロッキング性能試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.17 WmtConfSigIModPerf

関数名	long WmtConfSigIModPerf
機能	相互変調性能試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnOff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.1.18 QryConfSigIModPerf

関数名	long QryConfSigIModPerf
機能	相互変調性能試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnOff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.19 WmtConfSigOutPowTestType

関数名	long WmtConfSigOutPowTestType
機能	出力パワー試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.20 QryConfSigOutPowTestType

関数名	long QryConfSigOutPowTestType
機能	出力パワー試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.21 WmtConfSigPowDensTestType

関数名	long WmtConfSigPowDensTestType
機能	電力密度試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.22 QryConfSigPowDensTestType

関数名	long QryConfSigPowDensTestType
機能	電力密度試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.23 WmtConfSigPowContTestType

関数名	long WmtConfSigPowContTestType
機能	電力制御試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.24 QryConfSigPowContTestType

関数名	long QryConfSigPowContTestType
機能	電力制御試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.25 WmtConfSigFreqRangTestType

関数名	long WmtConfSigFreqRangTestType
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.26 QryConfSigFreqRangTestType

関数名	long QryConfSigFreqRangTestType
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.27 WmtConfSig20dBBwidTestType

関数名	long WmtConfSig20dBBwidTestType
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.28 QryConfSig20dBBwidTestType

関数名	long QryConfSig20dBBwidTestType
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.29 WmtConfSigACPTestType

関数名	long WmtConfSigACPTestType
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.30 QryConfSigACPTestType

関数名	long QryConfSigACPTestType
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル隣接チャンネル漏洩電力試験の試験方法を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.31 WmtConfSigSpurEmisTestType

関数名	long WmtConfSigSpurEmisTestType
機能	帯域外スプリアス放射試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.32 QryConfSigSpurEmisTestType

関数名	long QryConfSigSpurEmisTestType
機能	帯域外スプリアス放射試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験の試験方法を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.33 WmtConfSigCIPerfTestType

関数名	long WmtConfSigCIPerfTestType
機能	搬送波/干渉 (C/I) 性能試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波/干渉 (C/I) 性能試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.34 QryConfSigCIPerfTestType

関数名	long QryConfSigCIPerfTestType
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の試験方式を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.35 WmtConfSigBlocPerfTestType

関数名	long WmtConfSigBlocPerfTestType
機能	ブロッキング性能試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速／簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.36 QryConfSigBlocPerfTestType

関数名	long QryConfSigBlocPerfTestType
機能	ブロッキング性能試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の試験方式を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.37 WmtConfSigIModPerfTestType

関数名	long WmtConfSigIModPerfTestType
機能	相互変調性能試験の試験方法を選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 測定タイプ 0x00: STANDARD (SIG 規格準拠) // 0x01: HIGH SPEED (高速/簡易版)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の試験方法を設定します。初期値は 0 (SIG 規格準拠) となります。

6.1.1.38 QryConfSigIModPerfTestType

関数名	long QryConfSigIModPerfTestType
機能	相互変調性能試験の試験方法を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の試験方式を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.39 WmtConfSigPowDensUp

関数名	long WmtConfSigPowDensUp
機能	電力密度試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.00 ~ 25.00 [dBm/100 kHz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 20.00 [dBm/100 kHz] となります。

6.1.1.40 QryConfSigPowDensUp

関数名	long QryConfSigPowDensUp
機能	電力密度試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.41 WmtConfSigPowContClas1Lo

関数名	long WmtConfSigPowContClas1Lo
機能	電力制御試験の Class1 での最小出力パワーの判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -33.00 ~ 25.00 [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の Class1 での最小出力パワーの判定値を設定します。初期値は 4.00 [dBm] となります。

6.1.1.42 QryConfSigPowContClas1Lo

関数名	long QryConfSigPowContClas1Lo
機能	電力制御試験の Class1 での最小出力パワーの判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の Class1 での最小出力パワーの判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.43 WmtConfSigPowContStepUp

関数名	long WmtConfSigPowContStepUp
機能	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 1.00 ~ 10.00 [dB]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 8.00[dB] となります。設定値がその時点で設定されている下限値未満だった場合、自動的に下限値と同じ値に設定されます。

6.1.1.44 QryConfSigPowContStepUp

関数名	long QryConfSigPowContStepUp
機能	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.45 WmtConfSigPowContStepLo

関数名	long WmtConfSigPowContStepLo
機能	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 1.00 ~ 10.00 [dB]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 2.00 [dB] となります。設定値がその時点で設定されている上限値より大きかった場合、自動的に上限値と同じ値に設定されます。

6.1.1.46 QryConfSigPowContStepLo

関数名	long QryConfSigPowContStepLo
機能	電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の 1 ステップの変化量の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.47 WmtConfSigFreqRangUp

関数名	long WmtConfSigFreqRangUp
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 2480.000E+6 ~ 2483.500E+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 2483.500E+6 [Hz] となります。

6.1.1.48 QryConfSigFreqRangUp

関数名	long QryConfSigFreqRangUp
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の上限値の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.49 WmtConfSigFreqRangLo

関数名	long WmtConfSigFreqRangLo
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 2400.000E+6 ~ 2402.000E+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 2400.000E+6 [Hz] となります。

6.1.1.50 QryConfSigFreqRangLo

関数名	long QryConfSigFreqRangLo
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の USA, Europe, Japan の設定での周波数範囲の下限値の判定値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.51 WmtConfSigFreqRangFranUp

関数名	long WmtConfSigFreqRangFranUp
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 2476.000E+6 ~ 2483.500E+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 2483.500E+6 [Hz] となります。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.52 QryConfSigFreqRangFranUp

関数名	long QryConfSigFreqRangFranUp
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の上限値の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.53 WmtConfSigFreqRangFranLo

関数名	long WmtConfSigFreqRangFranLo
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 2446.500E+6 ~ 2454.000E+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 2446.500E+6 [Hz] となります。

6.1.1.54 QryConfSigFreqRangFranLo

関数名	long QryConfSigFreqRangFranLo
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の France の設定での周波数範囲の下限値の判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.55 WmtConfSig20dBBwidUp

関数名	long WmtConfSig20dBBwidUp
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.100E+6 ~ 2.000E+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 1.000E+6 [Hz] となります。

6.1.1.56 QryConfSig20dBBwidUp

関数名	long QryConfSig20dBBwidUp
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.57 WmtConfSigACPMN2Up

関数名	long WmtConfSigACPMN2Up
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N =2$ の場合での判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -55.00 ~ -20.00 [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N =2$ の場合の判定に使用する上限値を設定します。初期値は -20.00[dBm] となります。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.58 QryConfSigACPMN2Up

関数名	long QryConfSigACPMN2Up
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N =2$ の場合での判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N =2$ の場合での判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.59 WmtConfSigACPMN3Up

関数名	long WmtConfSigACPMN3Up
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N \geq 3$ の場合での判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -60.00 ~ -40.00 [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N \geq 3$ の場合での判定に使用する上限値を設定します。初期値は -40.00 [dBm] となります。

6.1.1.60 QryConfSigACPMN3Up

関数名	long QryConfSigACPMN3Up
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N \geq 3$ の場合での判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の、 $ M-N \geq 3$ の場合での判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.61 WmtConfSigSpurEmisEtsUp

関数名	long WmtConfSigSpurEmisEtsUp
機能	帯域外スプリアス放射試験の ETS の場合での判定に使用する上限値を設定
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 対象範囲指定 // 0 : Narrow band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz(OP) // 1 : Narrow band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz(OP) // 2 : Narrow band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz(OP) // 3 : Narrow band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz(OP) // 4 : Wide band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz(OP) // 5 : Wide band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz(OP) // 6 : Wide band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz(OP) // 7 : Wide band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz(OP) // 8 : Narrow band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz(SB) // 9 : Narrow band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz(SB) // 10: Narrow band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz(SB) // 11: Narrow band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz(SB) // 12: Wide band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz(SB) // 13: Wide band - 1.00 GHz ~ 12.75GHz(SB) // 14: Wide band - 1.80G Hz ~ 1.90 GHz(SB) // 15: Wide band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz(SB)// // * OP: Operate (動作モード)、SB: Standby (準備モード) double dblLimit // Narrow band : -65.00 ~ 0.00 [dBm] // Wide band : -115.00 ~ 0.00 [dBm/Hz]</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験の ETS の場合での判定に使用する上限値を設定します。設定は測定対象帯域別に設定することが可能です (測定対象帯域は <i>lngItem</i> にて指定します)。初期値は ETS の規格値となります。

6.1.1.62 QryConfSigSpurEmisEtsUp

関数名	long QryConfSigSpurEmisEtsUp
機能	帯域外スプリアス放射試験の ETS の場合での判定に使用する上限値を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 対象範囲指定 : 詳細は WmtConfSigSpurEmisEtsUp を参照 [OUT] double * dblLimit</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験の ETS の場合での判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.63 WmtConfSigSpurEmisFccUp

関数名	long WmtConfSigSpurEmisFccUp
機能	帯域外スプリアス放射試験の FCC の場合での判定値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.00 ~ 45.00 [dB]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験の FCC の場合での判定値を設定します。初期値は 20.00 [dB] となります。

6.1.1.64 QryConfSigSpurEmisFccUp

関数名	long QryConfSigSpurEmisFccUp
機能	帯域外スプリアス放射試験の FCC の場合での判定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験の FCC の場合での判定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.65 WmtConfSigSpurEmisSele

関数名	long WmtConfSigSpurEmisSele
機能	帯域外スプリアス放射試験方法を ETS/FCC のいずれかから選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSpec // 0: ETS // 1: FCC
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験方法を設定します。初期値は 0 (ETS) となります。

6.1.1.66 QryConfSigSpurEmisSele

関数名	long QryConfSigSpurEmisSele
機能	帯域外スプリアス放射試験方法の選択状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngSpec
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験方法の選択状況を読み出し、 <i>lngSpec</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.67 WmtConfSigCIPerfBerUp

関数名	long WmtConfSigCIPerfBerUp
機能	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 [%] となります。

6.1.1.68 QryConfSigCIPerfBerUp

関数名	long QryConfSigCIPerfBerUp
機能	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.69 WmtConfSigBlocPerfBerUp

関数名	long WmtConfSigBlocPerfBerUp
機能	ブロッキング性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000 [%] となります。

6.1.1.70 QryConfSigBlocPerfBerUp

関数名	long QryConfSigBlocPerfBerUp
機能	ブロッキング性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.71 WmtConfSigModPerfBerUp

関数名	long WmtConfSigModPerfBerUp
機能	相互変調性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.0000 ~ 100.0000 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を設定します。初期値は 0.1000[%] となります。

6.1.1.72 QryConfSigIModPerfBerUp

関数名	long QryConfSigIModPerfBerUp
機能	相互変調性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の BER(Bit Error Rate) の許容範囲の上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.73 WmtConfSigOutpPowBursLo

関数名	long WmtConfSigOutpPowBursLo
機能	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のスタート・ポイントを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 100 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のスタート・ポイントを設定します。初期値は 20 [%] となります。設定値がその時点で設定されているストップ・ポイント以上だった場合、自動的にストップ・ポイント未満の値に設定されます。

6.1.1.74 QryConfSigOutpPowBursLo

関数名	long QryConfSigOutpPowBursLo
機能	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のスタート・ポイントを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている平均電力を求めるバースト区間のスタート・ポイントを読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.75 WmtConfSigOutPowBursUp

関数名	long WmtConfSigOutPowBursUp
機能	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のストップ・ポイントを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0 ~ 100 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のストップ・ポイントを設定します。初期値は 80 [%] となります。設定値がその時点で設定されているスタート・ポイント以下だった場合、自動的にスタート・ポイントより大きい値に設定されます。

6.1.1.76 QryConfSigOutPowBursUp

関数名	long QryConfSigOutPowBursUp
機能	出力パワー試験および電力制御試験の平均電力を求めるバースト区間のストップ・ポイントを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている平均電力を求めるバースト区間のストップ・ポイントを読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.77 WmtConfSigOutPowLeadTrad

関数名	long WmtConfSigOutPowLeadTrad
機能	出力パワー試験および電力制御試験のバースト継続時間 (バースト幅) の検出条件の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLeadTrad // 0.00 ~ 40.00 [dB]: 検出条件
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験および電力制御試験のバースト継続時間 (バースト幅) の検出条件を設定します。設定値 <i>dblLeadTrad</i> はパワーの相対値を指定し、バーストのピーク電力からこの値を引いた値以上の部分をバーストとします。初期値は 10.00 [dB] となります。

6.1.1.78 QryConfSigOutPowLeadTrad

関数名	long QryConfSigOutPowLeadTrad
機能	出力パワー試験および電力制御試験のバースト継続時間（バースト幅）の検出条件を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLeadTrad
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験および電力制御試験のバースト継続時間（バースト幅）の検出条件を読み出し、 <i>dblLeadTrad</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.79 WmtConfSigOutPowAvgCnt

関数名	long WmtConfSigOutPowAvgCnt
機能	出力パワー試験および電力制御試験のスペクトラム・アナライザのアベレージ・カウント数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngAvgCnt // 1 ~ 999
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	出力パワー試験および電力制御試験のスペクトラム・アナライザのアベレージ・カウント数を設定します。 初期値は 20 になります。

6.1.1.80 QryConfSigOutPowAvgCnt

関数名	long QryConfSigOutPowAvgCnt
機能	出力パワー試験および電力制御試験のスペクトラム・アナライザのアベレージ・カウント数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] long * lngAvgCnt
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている出力パワー試験および電力制御試験のスペクトラム・アナライザのアベレージ・カウント数を読み出し、 <i>lngAvgCnt</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.81 WmtConfSigPowDensStdPkPowSweeTime

関数名	long WmtConfSigPowDensStdPkPowSweeTime
機能	電力密度試験の STANDARD モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblSweeTime // 1 ~ 1000 [sec]: スイープ継続時間
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の STANDARD モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を設定します。初期値は 60[sec] になります。

6.1.1.82 QryConfSigPowDensStdPkPowSweeTime

関数名	long QryConfSigPowDensStdPkPowSweeTime
機能	電力密度試験の STANDARD モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblSweeTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の STANDARD モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出し、 <i>dblSweeTime</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.83 WmtConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime

関数名	long WmtConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime
機能	電力密度試験の STANDARD モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblSweeTime // 100e+3 ~ 10000e+3[Hz/s]: スイープ継続時間
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の STANDARD モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を決定するスイープ 1 秒あたりの周波数スパンを設定します。初期値は 100e+3 になり単位は [Hz/s] で、SPAN をこの値で割った結果をスイープ・タイムとします。 Ex.) SPAN=240MHz, 設定値が 100kHz/s (1s/100kHz) の場合、 スペクトラム・アナライザのスイープ・タイムは、240e+6/100e+3 で 2400s となる。

6.1.1.84 QryConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime

関数名	long QryConfSigPowDensStdPkFreqSweeTime
機能	電力密度試験の STANDARD モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblSweeTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の STANDARD モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間 (スイープ 1 秒あたりの周波数、単位は [Hz/s]) を読み出し、 <i>dblSweeTime</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.85 WmtConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime

関数名	long WmtConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime
機能	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblSweeTime // 1 ~ 1000 [sec]: スイープ継続時間
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を設定します。初期値は 2 [sec] になります。

6.1.1.86 QryConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime

関数名	long QryConfSigPowDensHspdPkPowSweeTime
機能	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblSweeTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、探索された周波数でピーク・パワーを求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出し、 <i>dblSweeTime</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.87 WmtConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime

関数名	long WmtConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime
機能	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblSweeTime // 100e+3 ~ 10000e+3[Hz/s]: スイープ継続時間
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を決定するスイープ 1 秒あたりの周波数を設定します。初期値は 1000e+3 になり単位は [Hz/s] で、SPAN をこの値で割った結果をスイープ・タイムとします。

6.1.1.88 QryConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime

関数名	long QryConfSigPowDensHspdPkFreqSweeTime
機能	電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblSweeTime
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の HIGH SPEED モード時の、IUT の出力が最大となっている周波数を求めるためのスペクトラム・アナライザのスイープ継続時間 (スイープ 1 秒あたりの周波数、単位は [Hz/s]) を読み出し、dblSweeTime で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.89 WmtConfSigPowContStepNum

関数名	long WmtConfSigPowContStepNum
機能	電力制御試験の最大ステップ数の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngStepNum // 1 ~ 20 [ステップ]: 最大ステップ数
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の最大ステップ数を設定します。初期値は 15[ステップ] になります。SIG 規格にはないですが、Decrease Control 時に最後のステップまで実行したかの判断に使用します。

6.1.1.90 QryConfSigPowContStepNum

関数名	long QryConfSigPowContStepNum
機能	電力制御試験の最大ステップ数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStepNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の最大ステップ数を読み出し、 <i>lngStepNum</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.91 WmtConfSigPowContStdMinPowUp

関数名	long WmtConfSigPowContStdMinPowUp
機能	電力制御試験の STANDARD モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -50.00 ~ 25.00 [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の STANDARD モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力を設定します。初期値は -30.00[dBm] になります。SIG 規格にはないですが、Decrease Control 時デバイスの出力電力がこの値以下になったとき、最小出力電力に達したと判断します。

6.1.1.92 QryConfSigPowContStdMinPowUp

関数名	long QryConfSigPowContStdMinPowUp
機能	電力制御試験の STANDARD モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の STANDARD モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力の設定値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.93 WmtConfSigPowContHspdMinPowUp

関数名	long WmtConfSigPowContHspdMinPowUp
機能	電力制御試験の HIGH SPEED モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -15.00 ~ 25.00 [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の HIGH SPEED モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力を設定します。初期値は -10.00 [dBm] になります。SIG 規格にはないですが、Decrease Control 時デバイスの出力電力がこの値以下になったとき、最小出力電力に達したと判断します。

6.1.1.94 QryConfSigPowContHspdMinPowUp

関数名	long QryConfSigPowContHspdMinPowUp
機能	電力制御試験の HIGH SPEED モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力の設定値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の HIGH SPEED モード時用の、デバイスが出力する最小出力電力の設定値を読み出し、dblLimit で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.95 WmtConfSigPowContWaitTout

関数名	long WmtConfSigPowContWaitTout
機能	電力制御試験の LMP コマンド送信後の、パワー変動待ち時間のタイムアウト設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblWaitTout // 0.000 ~ 0.999 [sec]: タイムアウト設定
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の LMP コマンド送信後の、パワー変動待ち時間のタイムアウトを設定します。初期値は 0.000 [sec]、分解能は 1 [msec] になります。SIG 規格にはないですが、LMP コマンド送信後、パワー変動が行われたかを検出するまでのタイムアウト時間に使用します。

6.1.1.96 QryConfSigPowContWaitTout

関数名	long QryConfSigPowContWaitTout
機能	電力制御試験の LMP コマンド送信後の、パワー変動待ち時間のタイムアウト値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblWaitTout
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の LMP コマンド送信後の、パワー変動待ち時間のタイムアウト値を読み出し、 <i>dblWaitTout</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.97 WmtConfSigPowContJudgStepNum

関数名	long WmtConfSigPowContJudgStepNum
機能	電力制御試験のステップ数が最大ステップ数に満たなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグ設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngJudgStepNum // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験のステップ数が最大ステップ数に満たなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグを設定します。初期値は OFF になります。SIG 規格にはないですが、Decrease Control 時に、最大ステップ数に満たさずに電力制御試験が終了した場合を FAIL とする判定を行うかのフラグの設定です。

6.1.1.98 QryConfSigPowContJudgStepNum

関数名	long QryConfSigPowContJudgStepNum
機能	電力制御試験のステップ数が最大ステップ数に満たなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngJudgStepNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験のステップ数が最大ステップ数に満たなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチフラグを読み出し、 <i>lngJudgStepNum</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.99 WmtConfSigPowContJudgMinPow

関数名	long WmtConfSigPowContJudgMinPow
機能	電力制御試験の最小出力電力値以下にパワーが下がらなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグ設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngJudgMinPow // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の最小出力電力値以下にパワーが下がらなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグを設定します。初期値は OFF になります。SIG 規格にはないですが、Decrease Control 時に、最小出力電力値以下にならずに電力制御試験が終了した場合を FAIL とする判定を行うかのフラグの設定です。

6.1.1.100 QryConfSigPowContJudgMinPow

関数名	long QryConfSigPowContJudgMinPow
機能	電力制御試験の最小出力電力値以下にパワーが下がらなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチ・フラグを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngJudgMinPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の最小出力電力値以下にパワーが下がらなかった場合に、FAIL 判定を行うかのスイッチフラグを読み出し、lngJudgMinPow で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.101 WmtConfSigFreqRangLev

関数名	long WmtConfSigFreqRangLev
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の最低/最高周波数として認識するパワー・レベルの設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dbLLev // -60.00 ~ 0.00 [dBm/100kHz]: パワー・レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の最低/最高周波数として認識するパワー・レベルを設定します。初期値は -30.00[dBm/100kHz] で分解能は 0.01[dBm/100kHz] になります。

6.1.1.102 QryConfSigFreqRangLev

関数名	long QryConfSigFreqRangLev
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の最低／最高周波数として認識するパワー・レベルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている 送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の最低／最高周波数として認識するパワー・レベルを読み出し、 <i>dblLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.103 WmtConfSigFreqRangSweeCnt

関数名	long WmtConfSigFreqRangSweeCnt
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の スペクトラム・アナライザのスイープ・カウント数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngSweeCnt // 1 ~ 999 分解能 1
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の スペクトラム・アナライザのスイープ・カウント数を設定します。初期値は 50 になります。

6.1.1.104 QryConfSigFreqRangSweeCnt

関数名	long QryConfSigFreqRangSweeCnt
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の スペクトラム・アナライザのスイープ・カウント数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngSweeCnt
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている 送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の スペクトラム・アナライザのスイープ・カウント数を読み出し、 <i>lngSweeCnt</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.105 WmtConfSig20dBBwidLev

関数名	long WmtConfSig20dBBwidLev
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の帯域幅を測るためのパワー・レベル設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLev // 0.00 ~ 60.00 [dB]: パワー・レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の帯域幅を測るためのパワー・レベルを設定します。初期値は 20.00 [dB] で分解能は 0.01 [dB] になります。

6.1.1.106 QryConfSig20dBBwidLev

関数名	long QryConfSig20dBBwidLev
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の帯域幅を測るためのパワー・レベルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている 送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の帯域幅を測るためのパワー・レベルを読み出し、dblLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.107 WmtConfSigACPNumAdCh

関数名	long WmtConfSigACPNumAdCh
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の STANDARD モード時の、測定を行うチャンネル範囲 (隣接チャンネル) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNumAdCh // 2 ~ 75: チャンネル範囲
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の STANDARD モード時の、測定を行うチャンネル範囲 (隣接チャンネル) を設定します。初期値は 75 になります。

6.1.1.108 QryConfSigACPNumAdCh

関数名	long QryConfSigACPNumAdCh
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の STANDARD モード時の、測定を行うチャンネル範囲（隣接チャンネル）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） OUT long * lngNumAdCh
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の STANDARD モード時の、測定を行うチャンネル範囲（隣接チャンネル）を読み出し、lngNumAdCh で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.109 WmtConfSigSpurEmisEtsHspdFreq

関数名	long WmtConfSigSpurEmisEtsHspdFreq
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngNum // 1 ~ 20 : 配列要素番号 double dblFreq // 30.000e+6 ~ 2446.500e+6, 2483.500e+6 ~ 12750.000e+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を設定します。分解能 : 0.001e+6 [Hz]

6.1.1.110 QryConfSigSpurEmisEtsHspdFreq

関数名	long QryConfSigSpurEmisEtsHspdFreq
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngNum // 1 ~ 20 : 配列要素番号 OUT double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を読み出し、dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.111 WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo

関数名	long WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 30.000e+6 ~ 12750.000e+6[Hz]: 周波数 (Low 側)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を設定します。初期値は 30.000e+6[Hz]、分解能は 0.001e+6[Hz] になります。設定値がその時点で設定されている Upper 側の値以上だった場合、自動的に Upper 側の値未満の値に設定されます。

6.1.1.112 QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo

関数名	long QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqLo
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を読み出し、dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.113 WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp

関数名	long WmtConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 30.000e+6 ~ 12750.000e+6[Hz]: 周波数 (Upper 側)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を設定します。初期値は 12750.000e+6[Hz]、分解能は 0.001e+6[Hz] になります。設定値がその時点で設定されている Low 側の値以下だった場合、自動的に Low 側の値を超える値に設定されます。

6.1.1.114 QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp

関数名	long QryConfSigSpurEmisEtsStdFreqUp
機能	帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (ETS) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.115 WmtConfSigSpurEmisFccHspdFreq

関数名	long WmtConfSigSpurEmisFccHspdFreq
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 20 ; 配列要素番号 double dblFreq // 30.000e+6 ~ 2400.000e+6 , 2483.500e+6 ~ 25000.000e+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を設定します。分解能 : 0.001e+6 [Hz]

6.1.1.116 QryConfSigSpurEmisFccHspdFreq

関数名	long QryConfSigSpurEmisFccHspdFreq
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 20 ; 配列要素番号 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の HIGH SPEED モードで測定対象となる周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1 CONFigure サブシステム - SIG RF

6.1.1.117 WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqLo

関数名	long WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqLo
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 30.000e+6 ~ 25000.000e+6[Hz]: 周波数 (Low 側)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を設定します。初期値は 30.000e+6[Hz]、分解能は 0.001e+6[Hz] になります。設定値がその時点で設定されている Upper 側の値以上だった場合、自動的に Upper 側の値未満の値に設定されます。

6.1.1.118 QryConfSigSpurEmisFccStdFreqLo

関数名	long QryConfSigSpurEmisFccStdFreqLo
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Low 側) を読み出し、dblFreq で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.119 WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqUp

関数名	long WmtConfSigSpurEmisFccStdFreqUp
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblFreq // 30.000e+6 ~ 25000.000e+6[Hz]: 周波数 (Upper 側)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を設定します。初期値は 25000.000e+6[Hz]、分解能は 0.001e+6[Hz] になります。設定値がその時点で設定されている Low 側の値以下だった場合、自動的に Low 側の値を超える値に設定されます。

6.1.1.120 QryConfSigSpurEmisFccStdFreqUp

関数名	long QryConfSigSpurEmisFccStdFreqUp
機能	帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験 (FCC) の、STANDARD モードで測定を行う周波数範囲 (Upper 側) を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.121 WmtConfSigCIPerfImagFreq

関数名	long WmtConfSigCIPerfImagFreq
機能	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験で使用されるイメージ周波数を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 3 : 配列要素番号 double dblFreq // 2402e+6 ~ 2480e+6 [Hz] : イメージ周波数
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験で使用されるイメージ周波数を設定します。分解能は 1e+6[Hz] です。

6.1.1.122 QryConfSigCIPerfImagFreq

関数名	long QryConfSigCIPerfImagFreq
機能	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験で使用されるイメージ周波数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 1 ~ 3 : 配列要素番号 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験で使用されるイメージ周波数を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.123 WmtConfSigCIPerfWantLev

関数名	long WmtConfSigCIPerfWantLev
機能	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 設定項目 // 0: C/I co-channel // 1: C/I 1 MHz // 2: C/I 2 MHz // 3: C/I ≥ 3 MHz // 4: C/I Image // 5: C/I Image ±1 MHz double dblWantLev // SIG 規格値に対し ±10.00 [dB]: 目的の信号レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は SIG 規格値です。SIG 規格値については SIG Document 「Test Specification」 を参照して下さい。

6.1.1.124 QryConfSigCIPerfWantLev

関数名	long QryConfSigCIPerfWantLev
機能	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 指定項目は WmtConfSigCIPerfWantLev 参照 [OUT] double * dblWantLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出し、dblWantLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.125 WmtConfSigCIPerfInteLev

関数名	long WmtConfSigCIPerfInteLev
機能	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (下渉波レベル: normal) の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 設定項目 // 0: C/I co-channel // 1: C/I 1 MHz // 2: C/I 2 MHz // 3: C/I ≥ 3 MHz // 4: C/I Image // 5: C/I Image ±1 MHz double dblInteLev // 規格に対して ±10 [dB]: 下渉波レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (下渉波レベル: normal) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は SIG 規格値です。SIG 規格値については SIG Document 「Test Specification」を参照して下さい。

6.1.1.126 QryConfSigCIPerfInteLev

関数名	long QryConfSigCIPerfInteLev
機能	搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (下渉波レベル: normal) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 指定項目は WmtConfSigCIPerfInteLev 参照 OUT double * dblInteLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／下渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (下渉波レベル: normal) を読み出し、dblInteLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.127 WmtConfSigCIPerfInteRelaLev

関数名	long WmtConfSigCIPerfInteRelaLev
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (干渉波レベル: Relaxed) の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 設定項目 // 2: C/I 2 MHz // 3: C/I ≥ 3 MHz // 4: C/I Image // 5: C/I Image ±1 MHz double dblInteLev // 規格に対して ±10 [dB]: 干渉波レベル (Relaxed)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (干渉波レベル: Relaxed) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は SIG 規格値です。SIG 規格値については SIG Document 「Test Specification」 を参照して下さい。

6.1.1.128 QryConfSigCIPerfInteRelaLev

関数名	long QryConfSigCIPerfInteRelaLev
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (干渉波レベル: Relaxed) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngItem // 指定項目は WmtConfSigCIPerfInteRelaLev 参照 OUT double * dblInteLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の Interfere Level (干渉波レベル: Relaxed) を読み出し、dblInteLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.129 WmtConfSigBlocPerfWantLev

関数名	long WmtConfSigBlocPerfWantLev
機能	ブロッキング性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblWantLev // 信号レベル // <CH1> (-93.00 -(Cable Loss)) ~ (-13.00 -(Cable Loss)) [dBm] // <CH2> (-76.00 -(Cable Loss)) ~ (+4.00 -(Cable Loss)) [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は -67.00[dBm]、範囲は -93.00 ~ -13.00[dBm] を基本とし、Cable Loss の値を減算、および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には 17[dB] を加算した値です。 Ex.) Cable Loss=5dB, CH2 を選択時には、入力範囲は -81.00 ~ -1.00 dBm になる。

6.1.1.130 QryConfSigBlocPerfWantLev

関数名	long QryConfSigBlocPerfWantLev
機能	ブロッキング性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblWantLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出し、dblWantLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.131 WmtConfSigBlocPerfInteLev

関数名	long WmtConfSigBlocPerfInteLev
機能	ブロッキング性能試験の Interfere Level (干渉波レベル) の設定
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngFreqBand // 周波数帯 0: 30 MHz-2000 MHz // 1: 2000 MHz-2400 MHz // 2: 2500 MHz-3000 MHz // 3: 3000 MHz-12.75 GHz long lngLevNum // レベル 1: Level1 // 2: Level2 // 3: Level3 double dblInteLev // -60.00 ~ -5.00 [dBm]: 干渉信号レベル</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の Interfere Level (干渉波レベル) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は SIG 規格値です。SIG 規格値については SIG Document 「Test Specification」 を参照して下さい。

6.1.1.132 QryConfSigBlocPerfInteLev

関数名	long QryConfSigBlocPerfInteLev
機能	ブロッキング性能試験の Interfere Level (干渉波レベル) を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngFreqBand // 周波数帯 (詳細は WmtConfSigBlocPerfInteLev 参照) long lngLevNum // レベル (詳細は WmtConfSigBlocPerfInteLev 参照) [OUT] double * dblInteLev</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の Interfere Level (干渉波レベル) を読み出し、 <i>dblInteLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.133 WmtConfSigIModPerfWantLev

関数名	long WmtConfSigIModPerfWantLev
機能	相互変調性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblWantLev // 信号レベル // <CH1> (-93.00 -(Cable Loss)) ~ (-13.00 -(Cable Loss)) [dBm] // <CH2> (-76.00 -(Cable Loss)) ~ (+4.00 -(Cable Loss)) [dBm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を設定します。分解能は 0.01[dB]、初期値は -64.00[dBm]、範囲は -93.00 ~ -13.00[dBm] を基本とし、Cable Loss の値を減算および RF Port の設定で CH2 が指定されていた場合には、17[dBm] を加算した値です。 Ex.) Cable Loss=5dB, CH2 を選択時には、入力範囲は -81.00 ~ -1.00 dBm になる。

6.1.1.134 QryConfSigIModPerfWantLev

関数名	long QryConfSigIModPerfWantLev
機能	相互変調性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblWantLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の Wanted Signal Level (目的とする信号レベル) を読み出し、dblWantLev で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.135 WmtConfSigIModPerfF1Lev

関数名	long WmtConfSigIModPerfF1Lev
機能	相互変調性能試験の正弦波信号 (f1) のレベルの設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblF1Lev // -60.00 ~ -5.00 [dBm] : レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の正弦波信号 (f1) のレベルを設定します。初期値は -39.00[dBm]、分解能は 0.01[dB] です。

6.1.1.136 QryConfSigModPerfF1Lev

関数名	long QryConfSigModPerfF1Lev
機能	相互変調性能試験の正弦波信号 (f1) のレベルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblF1Lev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の正弦波信号 (f1) のレベルを読み出し、 <i>dblF1Lev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.137 WmtConfSigModPerfF2Lev

関数名	long WmtConfSigModPerfF2Lev
機能	相互変調性能試験の Bluetooth 変調信号 (f2) のレベルの設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblF2Lev // -60.00 ~ -5.00 [dBm]: レベル
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の Bluetooth 変調信号 (f2) のレベルを設定します。初期値は -39.00[dBm]、分解能は 0.01[dB] です。

6.1.1.138 QryConfSigModPerfF2Lev

関数名	long QryConfSigModPerfF2Lev
機能	相互変調性能試験の Bluetooth 変調信号 (f2) のレベルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblF2Lev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の Bluetooth 変調信号 (f2) のレベルを読み出し、 <i>dblF2Lev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.139 WmtConfSigBlocPerfSmpAlc

関数名	long WmtConfSigBlocPerfSmpAlc
機能	ブロッキング性能試験の SMR(SMP) の ALC の On/Off を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の SMR(SMP) の ALC の On/Off を指定します。 値の範囲は 1(WMT_ON)/0(WMT_OFF)、初期値は 1 です。

6.1.1.140 QryConfSigBlocPerfSmpAlc

関数名	long QryConfSigBlocPerfSmpAlc
機能	ブロッキング性能試験の SMR(SMP) の ALC の On/Off を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnOff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の SMR(SMP) の ALC の On/Off の設定を読み出し、 <i>lngOnOff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.141 WmtConfSigPowDensTestPack

関数名	long WmtConfSigPowDensTestPack
機能	電力密度試験の測定パッケージを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験の測定パッケージを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

6.1.1.142 QryConfSigPowDensTestPack

関数名	long QryConfSigPowDensTestPack
機能	電力密度試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力密度試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.143 WmtConfSigPowContTestPack

関数名	long WmtConfSigPowContTestPack
機能	電力制御試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.144 QryConfSigPowContTestPack

関数名	long QryConfSigPowContTestPack
機能	電力制御試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電力制御試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.145 WmtConfSigFreqRangTestPack

関数名	long WmtConfSigFreqRangTestPack
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

6.1.1.146 QryConfSigFreqRangTestPack

関数名	long QryConfSigFreqRangTestPack
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.147 WmtConfSig20dBBwidTestPack

関数名	long WmtConfSig20dBBwidTestPack
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000004 (DH5) になります。

6.1.1.148 QryConfSig20dBBwidTestPack

関数名	long QryConfSig20dBBwidTestPack
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の測定パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.149 WmtConfSigACPTestPack

関数名	long WmtConfSigACPTestPack
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.150 QryConfSigACPTestPack

関数名	long QryConfSigACPTestPack
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の測定パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.151 WmtConfSigSpurEmisTestPack

関数名	long WmtConfSigSpurEmisTestPack
機能	帯域外スプリアス放射試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.152 QryConfSigSpurEmisTestPack

関数名	long QryConfSigSpurEmisTestPack
機能	帯域外スプリアス放射試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている帯域外スプリアス放射試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.153 WmtConfSigCIPerfTestPack

関数名	long WmtConfSigCIPerfTestPack
機能	搬送波/干渉 (C/I) 性能試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波/干渉 (C/I) 性能試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.154 QryConfSigCIPerfTestPack

関数名	long QryConfSigCIPerfTestPack
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている搬送波／干渉 (C/I) 性能試験の測定パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.155 WmtConfSigBlocPerfTestPack

関数名	long WmtConfSigBlocPerfTestPack
機能	ブロッキング性能試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.156 QryConfSigBlocPerfTestPack

関数名	long QryConfSigBlocPerfTestPack
機能	ブロッキング性能試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているブロッキング性能試験の測定パケットを読み出し、 <i>lngPack</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.1.157 WmtConfSigIModPerfTestPack

関数名	long WmtConfSigIModPerfTestPack
機能	相互変調性能試験の測定パケットを設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPack // 0x00000001: DH1 // 0x00000002: DH3 // 0x00000004: DH5
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験の測定パケットを設定します。初期値は 0x00000001 (DH1) になります。

6.1.1.158 QryConfSigIModPerfTestPack

関数名	long QryConfSigIModPerfTestPack
機能	相互変調性能試験の測定パケットを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngPack
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている相互変調性能試験の測定パケットを読み出し、lngPack で指定された変数にその値を格納します。

6.1.2 PROCEDURE サブシステム - SIG RF

6.1.2.1 WmtProcSigPowDens

関数名	long WmtProcSigPowDens
機能	電力密度試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験を実行します。

6.1.2.2 WmtProcSigPowCont

関数名	long WmtProcSigPowCont
機能	電力制御試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.2.3 WmtProcSigFreqRang

関数名	long WmtProcSigFreqRang
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験を実行します。

6.1.2.4 WmtProcSig20dBBwid

関数名	long WmtProcSig20dBBwid
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.2.5 WmtProcSigACP

関数名	long WmtProcSigACP
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	隣接チャンネル漏洩電力試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.2.6 WmtProcSigSpurEmis

関数名	long WmtProcSigSpurEmis
機能	帯域外スプリアス放射試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点および Standby) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // 0xFF: Standby (ETS の Standby モード)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数または Standby モードを除きます。

6.1.2.7 WmtProcSigCIPerf

関数名	long WmtProcSigCIPerf
機能	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波 / 干渉 (C/I) 性能試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.2.8 WmtProcSigBlocPerf

関数名	long WmtProcSigBlocPerf
機能	ブロッキング性能試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.2.9 WmtProcSigIModPerf

関数名	long WmtProcSigIModPerf
機能	相互変調性能試験の実行
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.1 QryFetcSigPowDens

関数名	long QryFetcSigPowDens
機能	電力密度試験時の測定結果（電力密度）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力密度試験時の測定結果（電力密度）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.2 QryFetcSigPowContNumDown

関数名	long QryFetcSigPowContNumDown
機能	電力制御試験時の測定結果（Decrease Control 時のステップ数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] long * lngStep
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験時の測定結果（Decrease Control 時のステップ数）を読み出し、 <i>lngStep</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.3 QryFetcSigPowContPavDown

関数名	long QryFetcSigPowContPavDown
機能	電力制御試験時の測定結果（Decrease Control 時の各ステップにおける出力電力）を読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）</p> <p>long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数）</p> <p>// 0x02: MID（中間周波数）</p> <p>// 0x03: HIGH（最高周波数）</p> <p>// なお、ALL は設定できません。</p> <p>long lngNum // 読み出し対象を示すステップ数</p> <p>[OUT] double * dblPow</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験時の測定結果（Decrease Control 時の各ステップにおける出力電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.4 QryFetcSigPowContNumUp

関数名	long QryFetcSigPowContNumUp
機能	電力制御試験時の測定結果（Increase Control 時のステップ数）を読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用）</p> <p>long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数）</p> <p>// 0x02: MID（中間周波数）</p> <p>// 0x03: HIGH（最高周波数）</p> <p>// なお、ALL は設定できません。</p> <p>[OUT] long * lngStep</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験時の測定結果（Increase Control 時のステップ数）を読み出し、 <i>lngStep</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.5 QryFetcSigPowContPavUp

関数名	long QryFetcSigPowContPavUp
機能	電力制御試験時の測定結果 (Increase Control 時の各ステップにおける出力電力) を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 読み出し対象を示すステップ数 [OUT] double * dblPow </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験時の測定結果 (Increase Control 時の各ステップにおける出力電力) を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.6 QryFetcSigPowContPavMin

関数名	long QryFetcSigPowContPavMin
機能	電力制御試験時の測定結果 (Decrease Control 後の最小出力電力) を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPow </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電力制御試験時の測定結果 (Decrease Control 後の最小出力電力) を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.7 QryFetcSigFreqRangLowFreq

関数名	long QryFetcSigFreqRangLowFreq
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験時の測定結果（最低出力周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験時の測定結果（最低出力周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.8 QryFetcSigFreqRangHiFreq

関数名	long QryFetcSigFreqRangHiFreq
機能	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験時の測定結果（最高出力周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 周波数範囲試験時の測定結果（最高出力周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.9 QryFetcSig20dBBwid

関数名	long QryFetcSig20dBBwid
機能	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験時の測定結果（帯域幅）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 20dB 帯域幅試験時の測定結果（帯域幅）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.10 QryFetcSigACPMN2Lo

関数名	long QryFetcSigACPMN2Lo
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= -2 時の ACP) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblAcp
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= -2 時の ACP) を読み出し、dblAcp で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.11 QryFetcSigACPMN2Hi

関数名	long QryFetcSigACPMN2Hi
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= +2 時の ACP) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblAcp
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= +2 時の ACP) を読み出し、dblAcp で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.12 QryFetcSigACPMN3Lo

関数名	long QryFetcSigACPMN3Lo
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= -3 時の ACP) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblAcp
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= -3 時の ACP) を読み出し、 <i>dblAcp</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.13 QryFetcSigACPMN3Hi

関数名	long QryFetcSigACPMN3Hi
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= +3 時の ACP) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblAcp
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時の測定結果 (M-N= +3 時の ACP) を読み出し、 <i>dblAcp</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.14 QryFetcSigACPNum

関数名	long QryFetcSigACPNum
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果数を読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)</p> <p>long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数)</p> <p>// 0x02: MID (中間周波数)</p> <p>// 0x03: HIGH (最高周波数)</p> <p>// なお、ALL は設定できません。</p> <p>[OUT] long * lngNum</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果数を読み出し、lngNum で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.15 QryFetcSigACPACP

関数名	long QryFetcSigACPACP
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果 (ACP) を読み出す
引数	<p>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)</p> <p>long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数)</p> <p>// 0x02: MID (中間周波数)</p> <p>// 0x03: HIGH (最高周波数)</p> <p>// なお、ALL は設定できません。</p> <p>long lngNum // 読み出す配列の要素番号</p> <p>[OUT] double * dblAcp</p>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果 (ACP) を読み出し、dblAcp で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.16 QryFetcSigACPCH

関数名	long QryFetcSigACPCH
機能	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果 (CH) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 読み出す配列の要素番号 [OUT] long * lngCh
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	送信出力スペクトル - 隣接チャンネル漏洩電力試験時、 $ M-N > 3$ の条件において読み出し可能な測定結果 (CH) を読み出し、lngCh で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.17 QryFetcSigSpurEmisSele

関数名	long QryFetcSigSpurEmisSele
機能	帯域外スプリアス放射試験後の試験方法 (ETS/FCC) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngMeas // 0: ETS // 1: FCC
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験後の試験方法 (ETS/FCC) を読み出し、lngMeas で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.18 QryFetcSigSpurEmisFreq

関数名	long QryFetcSigSpurEmisFreq
機能	帯域外スプリアス放射試験時の測定結果（スプリアス周波数）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // 0xFF: Standby（ETS の Standby モード） // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 読み出す配列の要素番号 // < ETS > // 0 : Narrow band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz // 1 : Narrow band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz // 2 : Narrow band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz // 3 : Narrow band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz // 4 : Wide band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz // 5 : Wide band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz // 6 : Wide band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz // 7 : Wide band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz // < FCC > // 1 ~ 15 [OUT] double * dblFreq </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験時の測定結果（スプリアス周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.19 QryFetcSigSpurEmisPow

関数名	long QryFetcSigSpurEmisPow
機能	帯域外スプリアス放射試験時の測定結果（スプリアス電力）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // 0xFF: Standby（ETS の Standby モード） // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 読み出す配列の要素番号 // < ETS > // 0 : Narrow band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz // 1 : Narrow band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz // 2 : Narrow band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz // 3 : Narrow band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz // 4 : Wide band - 0.03 GHz ~ 1.00 GHz // 5 : Wide band - 1.00 GHz ~ 12.75 GHz // 6 : Wide band - 1.80 GHz ~ 1.90 GHz // 7 : Wide band - 5.15 GHz ~ 5.30 GHz // < FCC > // 1 ~ 15 [OUT] double * dblPow </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験時の測定結果（スプリアス電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.20 QryFetcSigSpurEmisFccRefPow

関数名	long QryFetcSigSpurEmisFccRefPow
機能	帯域外スプリアス放射試験時の、各ポイントでのリファレンス・レベルを読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPow </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	帯域外スプリアス放射試験時の、各動作周波数でのリファレンス・レベルを読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。 この測定値は、FCC 測定の場合でのみセットされます。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.21 QryFetcSigCIPerfSumErr

関数名	long QryFetcSigCIPerfSumErr
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] long * lngSum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数を読み出し、lngSum で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.22 QryFetcSigCIPerfCh

関数名	long QryFetcSigCIPerfCh
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の、測定チャンネルを読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 16: 読み出し対象となる配列の要素番号 [OUT] long * lngCh
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の、測定チャンネル (0 ~ 78) を読み出し、lngCh で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.23 QryFetcSigCIPerfBer

関数名	long QryFetcSigCIPerfBer
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 16: 読み出し対象となる配列の要素番号 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.24 QryFetcSigCIPerfPer

関数名	long QryFetcSigCIPerfPer
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 16: 読み出し対象となる配列の要素番号 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.25 QryFetcSigCIPerfSumErrRela

関数名	long QryFetcSigCIPerfSumErrRela
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時 (Relaxed 時) の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] long * lngSum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時 (Relaxed 時) の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数を読み出し、lngSum で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.26 QryFetcSigCIPerfBerRela

関数名	long QryFetcSigCIPerfBerRela
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (BER : Relaxed 測定時) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 16 : 読み出し対象となる配列の要素番号 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (BER : Relaxed 測定時) を読み出し、dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.27 QryFetcSigCIPerfPerRela

関数名	long QryFetcSigCIPerfPerRela
機能	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (PER: Relaxed 測定時) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 16: 読み出し対象となる配列の要素番号 OUT double * dblPer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	搬送波／干渉 (C/I) 性能試験時の測定結果 (PER: Relaxed 測定時) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.28 QryFetcSigBlocPerfSumErr

関数名	long QryFetcSigBlocPerfSumErr
機能	ブロッキング性能試験時の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数 (最大 100) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 妨害信号レベル指定 0x01: Level1 // 0x02: Level2 // 0x03: Level3 // なお、ALL は設定できません。 OUT long * lngSum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験時の、BER が Limit 値を超えたエラー・データ数 (最大 100) を読み出し、 <i>lngSum</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.29 QryFetcSigBlocPerfFreq

関数名	long QryFetcSigBlocPerfFreq
機能	ブロッキング性能試験時の測定結果（周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngNum // 1 ~ 15 : 読み出す配列要素 [OUT] double * dblFreq
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験時の測定結果（周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.30 QryFetcSigBlocPerfBer

関数名	long QryFetcSigBlocPerfBer
機能	ブロッキング性能試験時の測定結果 (BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 妨害信号レベル指定 0x01: Level1 // 0x02: Level2 // 0x03: Level3 // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 15 : 読み出す配列要素 [OUT] double * dblBer
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験時の測定結果 (BER) を読み出し、それぞれ <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.31 QryFetcSigBlocPerfPer

関数名	long QryFetcSigBlocPerfPer
機能	ブロッキング性能試験時の測定結果 (PER) を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 妨害信号レベル指定 0x01: Level1 // 0x02: Level2 // 0x03: Level3 // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 1 ~ 15: 読み出す配列要素 [OUT] double * dblPer // [%]</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ブロッキング性能試験時の測定結果 (PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.32 QryFetcSigIModPerfN3LoBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN3LoBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, 一側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, 一側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出し、 <i>dblBer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.33 QryFetcSigIModPerfN3HiBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN3HiBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出し、 dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.34 QryFetcSigIModPerfN3LoPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN3LoPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出し、 dblPer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.35 QryFetcSigIModPerfN3HiPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN3HiPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, +側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=3, +側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出し、 dblPer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.36 QryFetcSigIModPerfN4LoBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN4LoBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, -側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, -側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出し、 dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.37 QryFetcSigIModPerfN4HiBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN4HiBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出し、 dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.38 QryFetcSigIModPerfN4LoPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN4LoPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出し、 dblPer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.39 QryFetcSigIModPerfN4HiPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN4HiPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, +側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=4, +側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出し、 dblPer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.40 QryFetcSigIModPerfN5LoBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN5LoBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, -側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, -側 (f(tx) の Low 側) の BER) を読み出し、 dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3 FETCh サブシステム - SIG RF

6.1.3.41 QryFetcSigIModPerfN5HiBer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN5HiBer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblBer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, +側 (f(tx) の High 側) の BER) を読み出し、 dblBer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.42 QryFetcSigIModPerfN5LoPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN5LoPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, -側 (f(tx) の Low 側) の PER) を読み出し、 dblPer で指定された変数にその値を格納します。

6.1.3.43 QryFetcSigIModPerfN5HiPer

関数名	long QryFetcSigIModPerfN5HiPer
機能	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, + 側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblPer // [%]</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	相互変調性能試験時の測定結果 (n=5, + 側 (f(tx) の High 側) の PER) を読み出し、 <i>dblPer</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4 CONFigure サブシステム - Telec

6.1.4.1 WmtConfTeleFreqTole

関数名	long WmtConfTeleFreqTole
機能	周波数の偏差試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.4.2 QryConfTeleFreqTole

関数名	long QryConfTeleFreqTole
機能	周波数の偏差試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている周波数の偏差試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.3 WmtConfTeleOBW

関数名	long WmtConfTeleOBW
機能	占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.4.4 QryConfTeleOBW

関数名	long QryConfTeleOBW
機能	占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験の ON/OFF を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.5 WmtConfTeleAntPow

関数名	long WmtConfTeleAntPow
機能	空中線電力の偏差試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.4.6 QryConfTeleAntPow

関数名	long QryConfTeleAntPow
機能	空中線電力の偏差試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている空中線電力の偏差試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.7 WmtConfTeleSpurEmis

関数名	long WmtConfTeleSpurEmis
機能	スプリアス発射の強度試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	スプリアス発射の強度試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.4.8 QryConfTeleSpurEmis

関数名	long QryConfTeleSpurEmis
機能	スプリアス発射の強度試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているスプリアス発射の強度試験の ON/OFF 状況を読み出し、lngOnoff で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.9 WmtConfTeleSecoEmit

関数名	long WmtConfTeleSecoEmit
機能	副次的に発する電波等の限度試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験の ON/OFF を設定します。初期値は ON となります。

6.1.4.10 QryConfTeleSecoEmit

関数名	long QryConfTeleSecoEmit
機能	副次的に発する電波等の限度試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている副次的に発する電波等の限度試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.11 WmtConfTeleStayTime

関数名	long WmtConfTeleStayTime
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の ON/OFF を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) long lngOnoff // WMT_OFF(0): OFF / WMT_ON(1): ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ホッピング周波数滞留時間試験の ON/OFF を設定します。初期値は試験項目およびすべての動作周波数に対して ON となります。

6.1.4.12 QryConfTeleStayTime

関数名	long QryConfTeleStayTime
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の ON/OFF 状況を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 試験項目設定 0x00: 試験項目の ON/OFF // 動作周波数設定 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数) [OUT] long * lngOnoff
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているホッピング周波数滞留時間試験の ON/OFF 状況を読み出し、 <i>lngOnoff</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.13 WmtConfTeleTolUp

関数名	long WmtConfTeleTolUp
機能	周波数の偏差試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 1.0 ~ 100.0 [ppm]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 50.0 [ppm] となります。

6.1.4.14 QryConfTeleTolUp

関数名	long QryConfTeleTolUp
機能	周波数の偏差試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている周波数の偏差試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.15 WmtConfTeleFreqToleSampNum

関数名	long WmtConfTeleFreqToleSampNum
機能	周波数の偏差試験のバースト波のサンプリング数 (AVG 回数) を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 2 ~ 32
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験のバースト波のサンプリング数 (AVG 回数) を設定します。初期値は 20 となります。

6.1.4.16 QryConfTeleFreqToleSampNum

関数名	long QryConfTeleFreqToleSampNum
機能	周波数の偏差試験のバースト波のサンプリング数 (AVG 回数) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngNum
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている周波数の偏差試験のバースト波のサンプリング数 (AVG 回数) を読み出し、lngNum で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.17 WmtConfTeleOBWBwidUp

関数名	long WmtConfTeleOBWBwidUp
機能	占有周波数帯幅試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 1.00e+6 ~ 1000.00e+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 83.50e+6[Hz] (83.5 MHz) となります。

6.1.4.18 QryConfTeleOBWBwidUp

関数名	long QryConfTeleOBWBwidUp
機能	占有周波数帯幅試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている占有周波数帯幅試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.19 WmtConfTeleOBWSpreBwidLo

関数名	long WmtConfTeleOBWSpreBwidLo
機能	拡散帯域幅試験の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.10e+6 ~ 100.00e+6 [Hz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	拡散帯域幅試験の判定に使用する下限値を設定します。初期値は 0.5e+6[Hz] (500 kHz) となります。

6.1.4.20 QryConfTeleOBWSpreBwidLo

関数名	long QryConfTeleOBWSpreBwidLo
機能	拡散帯域幅試験の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている拡散帯域幅試験の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.21 WmtConfTeleAntPowToleUp

関数名	long WmtConfTeleAntPowToleUp
機能	空中線電力の偏差試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -100.0 ~ 100.0 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 20.0[%] となります。設定値がその時点で設定されている下限値未満だった場合、自動的に下限値と同じ値に設定されます。

6.1.4.22 QryConfTeleAntPowToleUp

関数名	long QryConfTeleAntPowToleUp
機能	空中線電力の偏差試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている空中線電力の偏差試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.23 WmtConfTeleAntPowToleLo

関数名	long WmtConfTeleAntPowToleLo
機能	空中線電力の偏差試験の判定に使用する下限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // -100.0 ~ 100.0 [%]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の判定に使用する下限値を設定します。初期値は -80.0[%] となります。設定値がその時点で設定されている上限値を越える値だった場合、自動的に上限値と同じ値に設定されます。

6.1.4.24 QryConfTeleAntPowToleLo

関数名	long QryConfTeleAntPowToleLo
機能	空中線電力の偏差試験の判定に使用する下限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている空中線電力の偏差試験の判定に使用する下限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.25 WmtConfTeleAntPowRefPow

関数名	long WmtConfTeleAntPowRefPow
機能	空中線電力の偏差試験の定格空中線電力 (メーカー申請値) 設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblPow // 0.0001 ~ 10.0000 [mW/MHz]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の定格空中線電力 (メーカー申請値) を設定します。初期値は 0.0300[mW/MHz] となります。

6.1.4.26 QryConfTeleAntPowRefPow

関数名	long QryConfTeleAntPowRefPow
機能	空中線電力の偏差試験の定格空中線電力 (メーカー申請値) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている空中線電力の偏差試験の定格空中線電力 (メーカー申請値) を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.27 WmtConfTeleAntPowBursRati

関数名	long WmtConfTeleAntPowBursRati
機能	空中線電力の偏差試験の送信時間率（メーカー申請値）を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblRatio // 0.01 ~ 0.99
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の送信時間率（メーカー申請値）を設定します。初期値は 0.50 となります。

6.1.4.28 QryConfTeleAntPowBursRati

関数名	long QryConfTeleAntPowBursRati
機能	空中線電力の偏差試験の送信時間率（メーカー申請値）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblRatio
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている空中線電力の偏差試験の送信時間率（メーカー申請値）を読み出し、 <i>dblRatio</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.29 WmtConfTeleSpurEmisLevUp

関数名	long WmtConfTeleSpurEmisLevUp
機能	スプリアス発射の強度試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngNum // 周波数帯 // 0: 2387 MHz 未満が対象 // 1: 2387 MHz ~ 2400 MHz が対象 // 2: 2483.5 MHz ~ 2496.5 MHz が対象 // 3: 2496.5 MHz 超が対象 double dblLimit // 0.01e-6 ~ 100.00e-6 [W]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	スプリアス発射の強度試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は以下の通りです。 lngNum = 0: 2.50e-6 [W] lngNum = 1: 25.00e-6 [W] lngNum = 2: 25.00e-6 [W] lngNum = 3: 2.50e-6 [W]

6.1.4 CONFigure サブシステム - Telec

6.1.4.30 QryConfTeleSpurEmisLevUp

関数名	long QryConfTeleSpurEmisLevUp
機能	スプリアス発射の強度試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngNum // 指定周波数帯は WmtConfTeleSpurEmisLevUp 参照 [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているスプリアス発射の強度試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.31 WmtConfTeleSecoEmitLevLowUp

関数名	long WmtConfTeleSecoEmitLevLowUp
機能	副次的に発する電波等の限度試験 (1 GHz 未満時) の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblLimit // 0.01e-9 ~ 100.00e-9 [W]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験 (1 GHz 未満時) の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 4.00e-9 [W] (4.00 nW) となります。

6.1.4.32 QryConfTeleSecoEmitLevLowUp

関数名	long QryConfTeleSecoEmitLevLowUp
機能	副次的に発する電波等の限度試験 (1 GHz 未満時) の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている副次的に発する電波等の限度試験 (1 GHz 未満時) の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.33 WmtConfTeleSecoEmitLevUppUp

関数名	long WmtConfTeleSecoEmitLevUppUp
機能	副次的に発する電波等の限度試験（1 GHz 以上時）の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit // 0.01e-9 ~ 100.00e-9 [W]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験（1 GHz 以上時）の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 20.00e-9[W] (20.00 nW) となります。

6.1.4.34 QryConfTeleSecoEmitLevUppUp

関数名	long QryConfTeleSecoEmitLevUppUp
機能	副次的に発する電波等の限度試験（1GHz 以上時）の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている副次的に発する電波等の限度試験（1GHz 以上時）の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.4.35 WmtConfTeleStayTimeTimeUp

関数名	long WmtConfTeleStayTimeTimeUp
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の判定に使用する上限値を設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） double dblLimit // 0.0001 ~ 1.0000 [sec]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ホッピング周波数滞留時間試験の判定に使用する上限値を設定します。初期値は 0.4000[sec] となります。

6.1.4.36 QryConfTeleStayTimeTimeUp

関数名	long QryConfTeleStayTimeTimeUp
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の判定に使用する上限値を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT double * dblLimit
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されているホッピング周波数滞留時間試験の判定に使用する上限値を読み出し、 <i>dblLimit</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.5 PROCEDURE サブシステム - Telec

6.1.5.1 WmtProcTeleFreqTole

関数名	long WmtProcTeleFreqTole
機能	周波数の偏差試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.5.2 WmtProcTeleOBW

関数名	long WmtProcTeleOBW
機能	占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅と拡散帯域幅試験を実行します。

6.1.5.3 WmtProcTeleAntPowPow

関数名	long WmtProcTeleAntPowPow
機能	空中線電力の偏差試験の前に行うパワー・メータの初期化
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の前に行うパワー・メータの初期化を行います。空中線電力の偏差試験を実行する前に必ずこの関数を実行して下さい。

6.1.5.4 WmtProcTeleAntPow

関数名	long WmtProcTeleAntPow
機能	空中線電力の偏差試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験を実行します。この関数実行前に必ずパワー・メータの初期化関数 (WmtProcTeleAntPowPow) を実行して下さい。

6.1.5.5 WmtProcTeleSpurEmis

関数名	long WmtProcTeleSpurEmis
機能	スプリアス発射の強度試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	スプリアス発射の強度試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.5.6 WmtProcTeleSecoEmit

関数名	long WmtProcTeleSecoEmit
機能	副次的に発する電波等の限度試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験を実行します。

6.1.5.7 WmtProcTeleStayTime

関数名	long WmtProcTeleStayTime
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の実行
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngPoint // 動作周波数設定 0x00: ALL (LOW/MID/HIGH 3 点全部) // 0x01: LOW (最低周波数) // 0x02: MID (中間周波数) // 0x03: HIGH (最高周波数)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ホッピング周波数滞留時間試験を実行します。ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている動作周波数を除きます。

6.1.5.8 WmtProcTeleAll

関数名	long WmtProcTeleAll
機能	Telec 技適試験全項目を実行 ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている項目および動作周波数を除く
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Telec 技適試験に関するすべての試験を実行します。 ただし、ユーザによって試験の実行を OFF にされている項目および動作周波数は除きます。

6.1.6 FETCh サブシステム - Telec

6.1.6.1 QryFetcTeleFreqToleTole

関数名	long QryFetcTeleFreqToleTole
機能	周波数の偏差試験の測定結果（偏差）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 long lngUnit // 単位 0: ppm // 1: Hz [OUT] double * dblDevi </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験の測定結果（偏差）を読み出し、 <i>dblDevi</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.2 QryFetcTeleFreqToleFreq

関数名	long QryFetcTeleFreqToleFreq
機能	周波数の偏差試験の測定結果（周波数）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	周波数の偏差試験の測定結果（周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.3 QryFetcTeleOBWBwid

関数名	long QryFetcTeleOBWBwid
機能	占有周波数帯幅試験の測定結果（占有周波数帯幅）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅試験の測定結果（占有周波数帯幅）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.4 QryFetcTeleOBWFreqHi

関数名	long QryFetcTeleOBWFreqHi
機能	占有周波数帯幅試験の測定結果（High 側周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅試験の測定結果（High 側周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.5 QryFetcTeleOBWFreqLow

関数名	long QryFetcTeleOBWFreqLow
機能	占有周波数帯幅試験の測定結果（Low 側周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	占有周波数帯幅試験の測定結果（Low 側周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6 FETCh サブシステム - Telec

6.1.6.6 QryFetcTeleOBWSpreBwid

関数名	long QryFetcTeleOBWSpreBwid
機能	拡散帯域幅試験の測定結果（拡散帯域幅）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	拡散帯域幅試験の測定結果（拡散帯域幅）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.7 QryFetcTeleOBWSpreBwidHopOff

関数名	long QryFetcTeleOBWSpreBwidHopOff
機能	Hopping Off 時の拡散帯域幅試験の測定結果（拡散帯域幅）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Hopping Off 時の拡散帯域幅試験の測定結果（拡散帯域幅）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.8 QryFetcTeleAntPowTole

関数名	long QryFetcTeleAntPowTole
機能	空中線電力の偏差試験の測定結果（偏差）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngUnit // 単位 0: % // 1: dB [OUT] double * dblTole
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の測定結果（偏差）を読み出し、 <i>dblTole</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.9 QryFetcTeleAntPowOutPow

関数名	long QryFetcTeleAntPowOutPow
機能	空中線電力の偏差試験の測定結果（出力電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngUnit // 単位 0: W // 1: dBm OUT double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の測定結果（出力電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.10 QryFetcTeleAntPowAntPow

関数名	long QryFetcTeleAntPowAntPow
機能	空中線電力の偏差試験の測定結果（空中線電力）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngUnit // 単位 0: mW/MHz // 1: dBm/MHz OUT double * dblPow
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	空中線電力の偏差試験の測定結果（空中線電力）を読み出し、 <i>dblPow</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6 FETCh サブシステム - Telec

6.1.6.11 QryFetcTeleSpurEmisLev

関数名	long QryFetcTeleSpurEmisLev
機能	スプリアス発射の強度試験の測定結果（スプリアス信号レベル）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 周波数帯 0: 2387 MHz 未満が対象 // 1: 2387 MHz ~ 2400 MHz が対象 // 2: 2483.5 MHz ~ 2496.5 MHz が対象 // 3: 2496.5 MHz 超が対象 long lngUnit // 単位 0: W // 1: dBm [OUT] double * dblLev </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	スプリアス発射の強度試験の測定結果（スプリアス信号レベル）を読み出し、 <i>dblLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.12 QryFetcTeleSpurEmisFreq

関数名	long QryFetcTeleSpurEmisFreq
機能	スプリアス発射の強度試験の測定結果（スプリアス信号周波数）を読み出す
引数	<pre> [IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 long lngNum // 周波数帯 0: 2387 MHz 未満が対象 // 1: 2387 MHz ~ 2400 MHz が対象 // 2: 2483.5 MHz ~ 2496.5 MHz が対象 // 3: 2496.5 MHz 超が対象 [OUT] double * dblFreq // 1Hz 単位で格納 </pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	スプリアス発射の強度試験の測定結果（スプリアス信号周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.13 QryFetcTeleSecoEmitLevLow

関数名	long QryFetcTeleSecoEmitLevLow
機能	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 未満のスプリアス信号レベル）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngUnit // 単位 0: W // 1: dBm [OUT] double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1GHz 未満のスプリアス信号レベル）を読み出し、 <i>dblLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.14 QryFetcTeleSecoEmitLevUpp

関数名	long QryFetcTeleSecoEmitLevUpp
機能	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 以上のスプリアス信号レベル）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngUnit // 単位 0: W // 1: dBm [OUT] double * dblLev
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 以上のスプリアス信号レベル）を読み出し、 <i>dblLev</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.15 QryFetcTeleSecoEmitFreqLow

関数名	long QryFetcTeleSecoEmitFreqLow
機能	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 未満のスプリアス信号周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 未満のスプリアス信号周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6 FETCh サブシステム - Telec

6.1.6.16 QryFetcTeleSecoEmitFreqUpp

関数名	long QryFetcTeleSecoEmitFreqUpp
機能	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 以上のスプリアス信号周波数）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） [OUT] double * dblFreq // 1 Hz 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	副次的に発する電波等の限度試験の測定結果（1 GHz 以上のスプリアス信号周波数）を読み出し、 <i>dblFreq</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.6.17 QryFetcTeleStayTimeTime

関数名	long QryFetcTeleStayTimeTime
機能	ホッピング周波数滞留時間試験の測定結果（滞留時間）を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子（接続確定時に得られた ID を使用） long lngPoint // 動作周波数設定 0x01: LOW（最低周波数） // 0x02: MID（中間周波数） // 0x03: HIGH（最高周波数） // なお、ALL は設定できません。 [OUT] double * dblTime // 1 sec 単位で格納
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	ホッピング周波数滞留時間試験の測定結果（滞留時間）を読み出し、 <i>dblTime</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7 SOURce サブシステム - DC Power Source

6.1.7.1 WmtSourVsimBattType

関数名	long WmtSourVsimBattType
機能	Battery タイプの選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: SIG STD // 1: Manual
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Battery タイプの選択を設定します。初期値は 0: SIG STD となります。

6.1.7.2 QrySourVsimBattType

関数名	long QrySourVsimBattType
機能	Battery タイプの選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) OUT long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Battery タイプの選択を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.3 WmtSourVsimBattTypeStd

関数名	long WmtSourVsimBattTypeStd
機能	Battery の選択 (SIG STD 時)
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Lead-Acid // 1: Lithium // 2: Mercury or Nickel-cadmium
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Battery の選択 (SIG STD 時) を設定します。初期値は 1: Lithium となります。

6.1.7.4 QrySourVsimBattTypeStd

関数名	long QrySourVsimBattTypeStd
機能	Battery の選択 (SIG STD 時) を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Battery の選択 (SIG STD 時) を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.5 WmtSourVsimVoltType

関数名	long WmtSourVsimVoltType
機能	電圧出力値の選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Upper // 1: Nominal // 2: Lower
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電圧出力値の選択を設定します。初期値は 1: Nominal となります。

6.1.7.6 QrySourVsimVoltType

関数名	long QrySourVsimVoltType
機能	電圧出力値の選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電圧出力値の選択を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.7 WmtSourVsimVoltNomi

関数名	long WmtSourVsimVoltNomi
機能	Nominal 電圧値の設定
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Lead-Acid // 1: Lithium // 2: Mercury or Nickel-cadmium // 10: Manual double dblVolt // 電圧値 [V] // Lead-Acid : 0.000 ~ 15.000 // Lithium : 0.000 ~ 7.500 // Mercury or Nickel-cadmium : 0.000 ~ 7.500 // Manual : 0.000 ~ 15.000</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Nominal 電圧値の設定をします。初期値はそれぞれ lngType=0:11.500[V], 1: 5.000[V], 2: 5.000[V], 10: 3.000[V] となり、設定分解能は 0.001[V] になります。

6.1.7.8 QrySourVsimVoltNomi

関数名	long QrySourVsimVoltNomi
機能	Nominal 電圧値の設定を読み出す
引数	<pre>[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Lead-Acid // 1: Lithium // 2: Mercury or Nickel-cadmium // 10: Manual [OUT] double * dblVolt // [V]</pre>
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Nominal 電圧値の設定を読み出し、dblVolt で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7 SOURce サブシステム - DC Power Source

6.1.7.9 WmtSourVsimVoltUp

関数名	long WmtSourVsimVoltUp
機能	Upper 電圧値の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 10: Manual // * 他の Battery Type は設定不可 double dblVolt // 0.000 ~ 15.000 [V]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Upper 電圧値の設定をします。初期値は 3.000[V](Manual) となり、設定分解能は 0.001[V] になります。* 他の Battery Type は設定不可 (クエリのみ)

6.1.7.10 QrySourVsimVoltUp

関数名	long QrySourVsimVoltUp
機能	Upper 電圧値の設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Lead-Acid // 1: Lithium // 2: Mercury or Nickel-cadmium // 10: Manual [OUT] double * dblVolt // [V]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Upper 電圧値の設定を読み出し、dblVolt で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.11 WmtSourVsimVoltLo

関数名	long WmtSourVsimVoltLo
機能	Lower 電圧値の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 10: Manual // * 他の Battery Type は設定不可 double dblVolt // 0.000 ~ 15.000 [V]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	Lower 電圧値の設定をします。初期値は 3.000[V](Manual) となり、設定分解能は 0.001[V] になります。* 他の Battery Type は設定不可 (クエリのみ)

6.1.7.12 QrySourVsimVoltLo

関数名	long QrySourVsimVoltLo
機能	Lower 電圧値の設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Lead-Acid // 1: Lithium // 2: Mercury or Nickel-cadmium // 10: Manual [OUT] double * dblVolt // [V]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている Lower 電圧値の設定を読み出し、dblVolt で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.13 WmtSourVsimCurrLim

関数名	long WmtSourVsimCurrLim
機能	電流制限値の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) double dblAmp // 電流値 : 0.0100 ~ 1.5000 [A]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電流制限値の設定をします。初期値は 0.1000[A] となり、設定分解能は 0.0001[A] になります。

6.1.7.14 QrySourVsimCurrLim

関数名	long QrySourVsimCurrLim
機能	電流制限値の設定を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] double * dblAmp // [A]
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電流制限値の設定を読み出し、dblAmp で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.15 WmtSourVsimCurrLimType

関数名	long WmtSourVsimCurrLimType
機能	電流制限モードの選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Shutdown (出力 OFF) // 1: Continue (電流制限値で出力継続)
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電流制限モードの選択を設定します。初期値は 0: Shutdown となります。

6.1.7.16 QrySourVsimCurrLimType

関数名	long QrySourVsimCurrLimType
機能	電流制限モードの選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電流制限モードの選択を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.17 QrySourVsimCurrStat

関数名	long QrySourVsimCurrStat
機能	電流制限の動作状態を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngStat
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在の電流制限の動作状態を読み出し、 <i>lngStat</i> で指定された変数にその値を格納します。 0: 定常状態、1: 制限値に達した (リミットかかる)

6.1.7.18 WmtOutpVsimStatType

関数名	long WmtOutpVsimStatType
機能	電圧出力 ON/OFF の動作モードの選択
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: Auto // 1: Manual
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電圧出力 ON/OFF の動作モードの選択を設定します。初期値は 0: Auto となります。

6.1.7.19 QryOutpVsimStatType

関数名	long QryOutpVsimStatType
機能	電圧出力 ON/OFF の動作モードの選択を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在設定されている電圧出力 ON/OFF の動作モードの選択を読み出し、lngType で指定された変数にその値を格納します。

6.1.7.20 WmtOutpVsimStat

関数名	long WmtOutpVsimStat
機能	電圧出力 ON/OFF の設定
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) long lngType // 0: OFF // 1: ON
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	電圧出力 ON/OFF を設定します。初期値は 0: OFF となります。

6.1.7.21 QryOutVsimStat

関数名	long QryOutVsimStat
機能	電圧出力 ON/OFF の状態を読み出す
引数	[IN] long lngID // 対象機器識別子 (接続確定時に得られた ID を使用) [OUT] long * lngType
戻り値	正常 (0:WMT_TRUE) / エラー (-1)
機能説明	現在の電圧出力 ON/OFF の状態を読み出し、 <i>lngType</i> で指定された変数にその値を格納します。

7. 性能諸元

この章では、以下の項目について説明します。

- 送信機テスト
- 受信機テスト
- 外部接続可能機器
- 外部機器との接続
- 一般仕様

7.1 送信機テスト

- CH1 ポート

項目	仕様
周波数、変調解析テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+23 dBm ~ -15 dBm/0 V DC
分解能	1 kHz
精度	5 kHz: 解析レンジ ^{*1} ±200 kHz 7 kHz: 解析レンジ ^{*1} ±300 kHz
出力電力テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+23 dBm ~ -15 dBm/0 V DC
精度	± 1.2 dB (+23 dBm ~ -10 dBm)
分解能	0.01 dB

*1: 周波数エラー + 周波数偏移 = ± 300 kHz 以内

7.1 送信機テスト

- CH2 ポート

項目	仕様
周波数、変調解析テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+5 dBm ~ -30 dBm/0 V DC
分解能	1 kHz
確度	5 kHz: 解析レンジ ^{*2} ±200 kHz 7 kHz: 解析レンジ ^{*2} ±300 kHz
出力電力テスト	
入力周波数範囲	2402 MHz ~ 2480 MHz
入力レベル範囲	+5 dBm ~ -30 dBm/0 V DC
確度	± 2.2 dB (+5 dBm ~ -20 dBm)
分解能	0.01 dB

^{*2}: 周波数エラー + 周波数偏移 = ± 300 kHz 以内

7.2 受信機テスト

- SG 部 CH1 ポート

項目	仕様
周波数	
出力周波数	2402 MHz ~ 2480 MHz
分解能	1 MHz ^{*1}
搬送波周波数	
確度	5 kHz 以内 (規定の Channel 周波数に対して)
レベル	
出力レベル範囲	-15 dBm ~ -85 dBm
分解能	1 dB
確度	± 1.8 dB (-15 dBm ~ -75 dBm)
変調	
変調指数レンジ	0.20 ~ 0.40 ^{*1}
分解能	0.01
確度	4 kHz: 0.28 ~ 0.34
BT 積	0.5 (20 dB Band 幅 1 MHz 以内)
伝送レート	1 Mbps ^{*1}
信号純度	
± 2MHz 漏洩電力	-30 dB 以下
± 3MHz 漏洩電力	-35 dB 以下
BER 試験	
テスト・ビット長	
Standard	1600000 ~ 9999999 bits ^{*2}
High Speed	1 ~ 1600000 bits ^{*2}
エラー・レート	0% ~ 100%
分解能	0.0001%

*1: Dirty Transmitter 試験時は、表 7-1 を参照して下さい。

*2: ビット数を満足する整数パケット数

7.2 受信機テスト

- SG 部 CH2 ポート

項目	仕様
周波数	
出力周波数	2402 MHz ~ 2480 MHz
分解能	1 MHz ^{*1}
搬送波周波数	
確度	5 kHz 以内 (規定の Channel 周波数に対して)
レベル	
出力レベル範囲	0 dBm ~ -65 dBm
分解能	1 dB
確度	± 3.3 dB (0 dBm ~ -55 dBm)
変調	
変調指数レンジ	0.20 ~ 0.40 ^{*1}
分解能	0.01
確度	4 kHz: 0.28 ~ 0.34
BT 積	0.5 (20 dB Band 幅 1 MHz 以内)
伝送レート	1 Mbps ^{*1}
信号純度	
± 2MHz 漏洩電力	-30 dB 以下
± 3MHz 漏洩電力	-35 dB 以下
BER 試験	
テスト・ビット長 Standard	1600000 ~ 9999999 bits ^{*2}
High Speed	1 ~ 1600000 bits ^{*2}
エラー・レート	0% ~ 100%
分解能	0.0001%

*1: Dirty Transmitter 試験時は、表 7-1 を参照して下さい。

*2: ビット数を満足する整数パケット数

- Dirty Transmitter の信号
表 7-1 のように SIG の規格に対応した信号を出力します。

表 7-1 Dirty Transmitter slot packets

巡回順序	キャリア周波数 ドリフト	変調指数	シンボル・タイミング・ エラー
1	+75 kHz	0.28	-20 ppm
2	+14 kHz	0.30	-20 ppm
3	-2 kHz	0.29	+20 ppm
4	1 kHz	0.32	+20 ppm
5	39 kHz	0.33	+20 ppm
6	0 kHz	0.34	-20 ppm
7	-42 kHz	0.29	-20 ppm
8	+74 kHz	0.31	-20 ppm
9	-19 kHz	0.28	-20 ppm
10	-75 kHz	0.35	+20 ppm

上記の信号に加えて、下記の条件がテスト Packet 状態において規定されます。

- DH1 packet の場合
変調周波数が 1.6 kHz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏移が ± 25 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- DH3 packet の場合
変調周波数が 500 Hz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏移が ± 40 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- DH5 packet の場合
変調周波数が 300 Hz 正弦波 (Packet スタートが 0 度)、周波数偏移が ± 40 kHz のキャリア周波数ドリフトを変調します。
- 各巡回は 20 msec ごとに行い、1-2-.....10-1-2-..... と巡回します。

7.3 外部接続可能機器

7.3 外部接続可能機器

項目	仕様
Monitor Port 1	パワー・メータ ROHDE & SCHWARZ 社製 ; NRVD (デュアル・チャンネル型) ROHDE & SCHWARZ 社製 ; NRV-Z52 (熱電対型パワー・センサ) 2 個必要
Monitor Port 2	スペクトラム・アナライザ アドバンテテスト社製 ; R3273 (~ 26.5 GHz) Option: OPT 01 (デジタル変調解析オプション) OPT 66 (Bluetooth 変調解析オプション) アドバンテテスト社製 ; R3267 (~ 8 GHz) (スプリアス試験以外の試験項目に対応) Option: OPT 01 (デジタル変調解析オプション) OPT 66 (Bluetooth 変調解析オプション) アドバンテテスト社製 ; R3264 (~ 3 GHz) (スプリアス試験以外の試験項目に対応) Option: OPT 01 (デジタル変調解析オプション) OPT 66 (Bluetooth 変調解析オプション)
Interfere Port 1	CW 信号発生器 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMR 20 (~ 20 GHz) Option: SMR-B11 0.01 ~ 1GHz 拡張 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMR 27 (~ 27 GHz) Option: SMR-B11 0.01 ~ 1GHz 拡張 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMR 30 (~ 30 GHz) Option: SMR-B11 0.01 ~ 1GHz 拡張 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMR 40 (~ 40 GHz) Option: SMR-B11 0.01 ~ 1GHz 拡張 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMP 02 (~ 20 GHz) ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMP 03 (~ 30 GHz) ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMP 04 (~ 40 GHz)

項目	仕様
Interfere Port 2	デジタル変調信号発生器 ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMIQ03B (~ 3.3 GHz) Option: SMIQ-B20 (デジタル変調コーダ) SMIQ-B11 (データ・ジェネレータ) ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMIQ04B (~ 4.4 GHz) Option: SMIQ-B20 (デジタル変調コーダ) SMIQ-B11 (データ・ジェネレータ) ROHDE & SCHWARZ 社製 ; SMIQ06B (~ 6.4 GHz) Option: SMIQ-B20 (デジタル変調コーダ) SMIQ-B11 (データ・ジェネレータ)
DC Source	電源供給 KEITHLEY 社製 ; 2303

7.4 外部機器との接続

項目	仕様
コントローラ・インタフェース	IEEE-488 GPIB バス・コネクタ

7.5 一般仕様

項目	仕様
使用環境範囲	温度 : +20°C ~ +30°C 相対湿度 : 80%以下 (結露しないこと)

付録

この章では、以下の項目について説明します。

- 困ったときに
- エラー・メッセージ

A.1 困ったときに

本器に万一不具合が生じた場合は、修理を依頼する前に下記の点検事項を確認して下さい。以下の処置で異常が解消しない場合には、当社または代理店まで連絡して下さい。所在地および電話番号は巻末に記載してあります。下記の確認事項の修理内容の場合でも有料となります。

表 A-1 困ったときに

症状	原因	処置
電源が入らない。	電源ケーブルがコネクタに確実に入っていない。	電源を OFF にして、本器の AC 電源用コネクタに接続ケーブルを接続します。次に接続ケーブルをコンセントに接続して下さい。
	電源ヒューズが溶断している。	電源ケーブルを外し、「R4870 取扱説明書の 1.3.3 項」を参照してヒューズを交換して下さい。ただし、再度溶断した場合は当社または代理店に修理を依頼して下さい。
テスト画面が表示されない。	故障している可能性がある。	ただちに電源を OFF にして、当社または代理店に修理を依頼して下さい。
ボタンが効かない。	KEY LOCK ボタンが ON になっている。	KEY LOCK ボタンを OFF にして下さい。
テストをスタートしても、データがとれない。	IUT（被試験デバイス）の電源が入っていない。	IUT（被試験デバイス）の電源を確認して下さい。
	IUT（被試験デバイス）への RF ケーブルが正しく接続されていない。	IUT（被試験デバイス）への RF ケーブルを正しく接続して下さい。

A.2 エラー・メッセージ

ここでは、OPT01 搭載時のみのエラー・メッセージを説明します。以下に記載されていないメッセージについては、R4870 取扱説明書「A.2 エラー・メッセージ」を参照して下さい。

エラー・メッセージ	説明
Communication Error To the Spectrum Analyzer	スペクトラム・アナライザ (R3273) との間で通信エラーが発生しました。 対処: 接続と電源投入を確認して再試行して下さい。
Communication Error To the Power Meter	パワー・メータ (NRVD) との間で通信エラーが発生しました。 対処: 接続と電源投入を確認して再試行して下さい。
Communication Error To the Continuous Interference Signal	シグナル・ジェネレータ (SMR) との間で通信エラーが発生しました。 対処: 接続と電源投入を確認して再試行して下さい。
Communication Error To the Modulated Interference Signal	シグナル・ジェネレータ (SMIQ) との間で通信エラーが発生しました。 対処: 接続と電源投入を確認して再試行して下さい。
Communication Error To the DC Power Supply	DC 電源 (2303) との間で通信エラーが発生しました。 対処: 接続と電源投入を確認して再試行して下さい。
Burst signal is not detected. In the Spectrum Analyzer.	スペクトラム・アナライザ (R3273) で IUT からのパースト信号が検出できません。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
The signal level is too low. In the Spectrum Analyzer.	スペクトラム・アナライザ (R3273) で IUT からの信号レベルが低すぎます。 対処: 接続を確認して再試行して下さい。
Cannot detect sensor. In the Power Meter.	パワー・メータ (NRVD) にて、パワー・センサ (NRV-Z52) を検出できません。 対処: センサ・ヘッドと NRVD との接続を確認して再試行して下さい。
Zero Calibration Error. In the Power Meter.	パワー・メータ (NRVD) にて、パワー・センサ (NRV-Z52) のゼロ・キャリブレーションに失敗しました。 対処: シグナル・ジェネレータ (SMIQ, SMR) の出力が OFF に制御されているかを確認して再試行して下さい。
The calibration data is abnormal.	キャリブレーション・データに極端なレベルの落ち込みがあります。 対処: RF 信号系のケーブルの緩みや断線、シグナル・ジェネレータ (SMIQ, SMR) の出力不良等を確認して再試行して下さい。

索引

- [シンボル]**
- < Connection Item 3-8, 3-26
 < More 3-7, 3-25
 < More (TRM) 3-6, 3-16, 3-17, 3-24
- [数字]**
- 20 dB Bandwidth : Bandwidth Level 2-17
 20dB Bandwidth 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29
 2303 電源出力ケーブル接続 1-4
- [A]**
- About... 3-5, 3-24
 ACL data 3-7, 3-25
 ACL Packet Types 3-11
 ACP : Number of Adjacent Channel 2-17
 Adjacent Channel Power 3-29
 Adjacent channel power 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24
 Air Cording Format 3-12
 Antenna Power 3-7, 3-21, 3-22, 3-25
 Authentication-IUT as Master 3-7, 3-11, 3-25
 Authentication-IUT as Slave 3-7, 3-11, 3-25
- [B]**
- BER 3-8, 3-13, 3-20, 3-26, 3-31
 Blocking performance 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29, 3-30, 4-8
 Blocking performance : Signal Level 2-21
 Bluetooth SIG RF Test 項目と判定値の範囲 3-34
- [C]**
- C/I performance 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29, 3-30, 4-7
 C/I Performance : Image Frequency 2-20
 Calibration 3-5, 3-9, 3-13, 3-23, 3-27, 3-33
 Carrier Freq. Drift 3-15, 3-19
 Carrier Frequency Drift 3-18, 4-5
 CH1-Input 3-9, 3-13, 3-27
 CH1-Input キャリブレーション 5-7
 CH1-Output 3-9, 3-13, 3-27
 CH1-Output キャリブレーション 5-8
 Comment Edit 3-9, 3-13, 3-27, 3-32
 Comment Edit 設定 2-27
 Communication Test 3-5, 3-7, 3-11, 3-23, 3-25, 3-30
 CONFigure サブシステム - SIG RF 6-8
 CONFigure サブシステム - Telec 6-90
 Connection 3-8, 3-26
 Current Measure 3-5, 3-23
- [D]**
- DC Power Source 2-23
 DC Source (ext) 3-9, 3-13, 3-26, 3-32
 Delete... 3-5, 3-23
 Disconnection 3-8, 3-26
- [E]**
- Explorer 3-5, 3-24
- [F]**
- FETCh サブシステム - SIG RF 6-68
 FETCh サブシステム - Telec 6-106
 File 3-5, 3-23
 FM Deviation 3-8, 3-13, 3-20, 3-26, 3-31
 Frequency Drift 3-6, 3-16, 3-17, 3-24, 3-29
 Frequency Range 3-28, 3-29
 Frequency range 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19,

索引

Frequency Range : Power Level 2-16

Frequency Tolerance 3-6, 3-7, 3-16, 3-17, 3-18, 3-21, 3-22, 3-24, 3-25, 3-29, 4-11

Frequency Tolerance : Sample Packet,etc.../

Frequency Drift : Sample Packet,etc... .. 2-18

Function Select 3-5, 3-6, 3-7, 3-8, 3-9, 3-10, 3-11, 3-12, 3-13, 3-14, 3-15, 3-16, 3-17, 3-19, 3-20, 3-21, 3-22, 3-23

[H]

Help 3-5, 3-24

High Ch. ALL OFF 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-31

High Ch. ALL ON 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-31

[I]

Initial Carrier Freq. Tolerance 3-15, 3-19

Initial Carrier Frequency Tolerance 4-5

Input Cording 3-12

Input Data Format 3-12

Input Sample Size 3-12

Inquiry 3-7, 3-11, 3-25

Inquiry Scan 3-7, 3-11, 3-25

Interfere1 port 3-9, 3-13, 3-27

Interfere1 Port キャリブレーション 5-9

Interfere2 port 3-9, 3-13, 3-27

Interfere2 Port キャリブレーション 5-10

Intermodulation Performance 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24

Intermodulation performance 3-29, 3-30, 4-9

Intermodulation Performance :

Signal Level 2-22

Item ALL OFF 3-11, 3-13, 3-30

Item ALL ON 3-11, 3-13, 3-30, 3-33

Item Select 3-14, 3-15, 3-21, 3-28

IUT Information 3-9, 3-13, 3-26, 3-32

IUT Information 設定 2-26

IUT Voice Setting 3-12

IUT 接続 2-9

[L]

Liner_PCM_Bit_Pos 3-12

Link Supervision Timeout-IUT as Master 3-7, 3-11, 3-25

Link Supervision Timeout-IUT as Slave 3-7, 3-11, 3-25

LMP_test_control 3-14, 3-19, 3-30

LMP_test_control 設定 2-22

Load... 3-5, 3-23

Low Ch. ALL OFF 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-31

Low Ch. ALL ON 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-30

[M]

Maximum Input Level 3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29, 3-30, 4-10

Maximum Input Level : Tx Level 2-22

Measure 3-5, 3-23

Measure Item > 3-8, 3-26

Measurement Item ALL OFF 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-30

Measurement Item ALL ON 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-30

Mid Ch. ALL OFF 3-10, 3-12, 3-15, 3-21, 3-28, 3-31

Mid Ch. ALL ON 3-10, 3-12,

	3-15, 3-21, 3-28, 3-31		
Mode	3-5, 3-6, 3-7, 3-8, 3-9, 3-10, 3-11, 3-12, 3-13, 3-14, 3-15, 3-16, 3-17, 3-19, 3-20, 3-21, 3-22, 3-23		
Modulation Characteristics	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-29, 4-5		
Modulation Characteristics :			
Sample Packet	2-18		
Monitor1 port	3-9, 3-13, 3-27		
Monitor1 Port キャリブレーション	5-6		
Monitor2 port	3-9, 3-13, 3-27		
Monitor2 Port キャリブレーション	5-5		
More >	3-7, 3-25		
More >(TRC/RCV)	3-6, 3-16, 3-17, 3-24		
		[N]	
Network Config...	3-5, 3-23		
		[O]	
OBW/Spread. BW	3-7, 3-21, 3-22, 3-25		
Occupied Frequency Bandwidth / Spread Bandwidth	4-11		
Occupied Frequency Bandwidth/ Spreading Bandwidth	3-22		
Option	3-5, 3-23		
Out -of -Band Spurious Emissions	4-6		
Out-of-Band Spurious Emissions	3-6, 3-16, 3-24		
Out-of-band Spurious Emissions	3-29		
Output Power	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29, 4-2		
Output Power (Power Control) :			
Power Range	2-13		
		[P]	
Paging-IUT as Master	3-7, 3-11, 3-25		
Paging-IUT as Slave	3-7, 3-11, 3-25		
Pairing	3-7, 3-11, 3-25		
Panel Lock OFF	3-5, 3-24		
Panel Lock ON	3-5, 3-24		
PASS/FAIL Limit	2-12, 3-14, 3-16, 3-20, 3-21, 3-22, 3-28, 3-31		
Pass/Fail Limit の設定	2-7		
PIN Code	3-12		
Power Control	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29, 4-3		
Power Control : Minimum Power	2-15		
Power Density	3-6, 3-15, 3-16, 3-17, 3-18, 3-19, 3-24, 3-28, 3-29, 4-3		
Power Density : Sweep Time	2-14		
Power Off	3-5, 3-23		
Power Splitter	3-9, 3-13, 3-27		
Power Splitter キャリブレーション	5-3		
PROCedure サブシステム - SIG RF	6-64		
PROCedure サブシステム - Telec	6-103		
		[R]	
Radio Law	3-5, 3-7, 3-21, 3-22, 3-23, 3-25, 3-30		
RCV/CA/01/C	3-35, 3-37		
RCV/CA/02/C	3-35, 3-37		
RCV/CA/03/C	3-35, 3-37		
RCV/CA/04/C	3-35, 3-37		
RCV/CA/05/C	3-35, 3-37		
RCV/CA/06/C	3-35, 3-37		
Receiver Test (BER,PER)	3-17, 3-18, 3-29		
Receiver Test : (BER,PER)	2-19		
Remote Loopback	3-5, 3-8, 3-12, 3-23, 3-26, 3-31		
RF Measurement	3-5, 3-8,		

本製品に含まれるソフトウェアのご使用について

本製品に含まれるソフトウェア（以下本ソフトウェア）のご使用について以下のことにご注意下さい。

ここでいうソフトウェアには、本製品に含まれる又は共に使用されるコンピュータ・プログラム、将来弊社よりお客様に提供されることのある追加、変更、修正プログラムおよびアップデート版のコンピュータ・プログラム、ならびに本製品に関する取扱説明書等の付随資料を含みます。

使用許諾

本ソフトウェアの著作権を含む一切の権利は弊社に帰属いたします。

弊社は、本ソフトウェアを本製品上または本製品とともに使用する限りにおいて、お客様に使用を許諾するものといたします。

禁止事項

お客様は、本ソフトウェアのご使用に際し以下の事項は行わないで下さい。

- 本製品使用目的以外で使用する事
- 許可なく複製、修正、改変を行う事
- リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルなどを行う事

免責

お客様が、本製品を通常の用法以外の用法で使用したことにより本製品に不具合が発生した場合、およびお客様と第三者との間で著作権等に関する紛争が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

保証について

製品の保証期間は、お客様と別段の取り決めがある場合または当社が特に指定した場合を除き、製品の納入日(システム機器については検取日)から1年間といたします。保証期間中に、当社の責めに帰する製造上の欠陥により製品が故障した場合、無償で修理いたします。ただし、下記に該当する場合は、保証期間中であっても保証の対象から除外させていただきます。

- 当社が認めていない改造または修理を行った場合
- 支給品等当社指定品以外の部品を使用した場合
- 取扱説明書に記載する使用条件を超えて製品を使用した場合(定められた許容範囲を超える物理的ストレスまたは電流電圧がかかった場合など)
- 通常想定される使用環境以外で製品を使用した場合(腐食性の強いガス、塵埃の多い環境等による電気回路の腐食、部品の劣化が早められた場合など)
- 取扱説明書または各種製品マニュアルの指示事項に従わずに使用された場合
- 不注意または不当な取扱により不具合が生じた場合
- お客様のご指示に起因する場合
- 消耗品や消耗材料に基づく場合
- 火災、天変地異等の不可抗力による場合
- 日本国外に持出された場合
- 製品を使用できなかったことによる損失および逸失利益

当社の製品の保証は、本取扱説明書に記載する内容に限られるものとします。

保守に関するお問い合わせについて

長期間にわたる信頼性の保証、国家標準とのトレーサビリティを実現するためにアドバンテスでは、工場から出荷された製品の保守に対し、カスタム・エンジニアを配置しています。

カスタム・エンジニアは、故障などの不慮の事故は元より、製品の長期間にわたる性能の保証活動にフィールド・エンジニアとしても活動しています。

万一、動作不良などの故障が発生した場合には、当社のMS(計測器)コールセンターにご連絡下さい。

製品修理サービス

- 製品修理期間
製品の修理サービス期間は、製品の納入後10年間とさせていただきます。
- 製品修理活動
当社の製品に故障が発生した場合、当社に送っていただく引取り修理、または当社技術員が現地に出張しての出張修理にて対応いたします。

製品校正サービス

- 校正サービス
ご使用中の製品に対し、品質および信頼性の維持を図ることを目的に行うもので、校正後の製品には校正ラベルを貼付けし、品質を保証いたします。
- 校正サービス活動
校正サービス活動は、株式会社アドバンテス カスタマサポートに送っていただく引取り校正、または当社技術員が現地に出張しての出張校正にて対応いたします。

予防保守のおすすめ

製品にはエレクトロニクス部品およびメカニカル部品の一部に寿命を考慮すべき部品を使用しているため、定期的な交換を必要とします。適正な交換期間を過ぎて使用し発生した障害に対しては、修理および性能の保証ができません場合があります。

アドバンテスでは、このようなトラブルを未然に防ぐため、予防保守が有効な手段と考え、予防保守作業を実施する体制を整えています。

各種の予防保守を定期的実施することで、製品の安定稼働を図り、不意の費用発生を防ぐため、年間保守契約による予防保守の実施をお勧めいたします。

なお、年間保守契約は、製品、使用状況および使用環境により内容が変わりますので、最寄りの弊社営業支店にお問い合わせ下さい。

ADVANTEST

<http://www.advantest.co.jp>

株式会社アドバンテス

本社事務所
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 03-3214-7500 (代)

第4アカウント販売部(東日本)
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 0120-988-971
FAX: 0120-988-973

第4アカウント販売部(西日本)
〒564-0062 吹田市垂水町3-34-1
TEL: 0120-638-557
FAX: 0120-638-568

★計測器に関するお問い合わせ先

(製品の仕様、取扱い、修理・校正等計測器関連全般)

MS(計測器)コールセンタ ☎ TEL 0120-919-570
FAX 0120-057-508

E-mail: icc@acs.advantest.co.jp